2017年12月6日(水)

第11会場

一般口頭発表 | 3. 酵素・レドックス・生体エネルギー | 酵素・レドックス・生体エネルギー（一般口頭発表）

[1PT11] 酵素・レドックス・生体エネルギーI

座長:宇山 徹(香川大学)、座長:斎藤 芳郎(同志社大学)
16:00 ～ 18:30 第11会場 (神戸ポートピアホテル 南館 地下1階 ダイヤモンド)

[1PT11-01（2P-0191）] Methanosarcina mazei由来ヘテロマー型 cis-プレニルトランスフェラーゼの機能解析
○江見 晃一[1]、吉村 徹[1]、邊見 久[1]（1.名大・院生命農・応用分子生命科学）
16:00 ～ 16:10

[1PT11-02（2P-0192）] カルパイン-1と2の機能差を示唆するプロテアーゼドメイン内の自己分解
○大内 史子[1]、進藤 真由美[2]、秦 勝志[1]、反町 洋之[1]（1.都医学研・カルパイン、2.都医学研・基盤技術研究センター）
16:10 ～ 16:20

[1PT11-03（2P-0193）] チオレドキシンによるセレノリン酸合成酵素へのセレニド供給メカニズム
○清水 敦貴[1]、桐山 海斗[1]、波北 悟[1]、戸部 隆太[1]、田村 隆[2]、小川 拓哉[3]、栗原 達夫[3]、Tejo Prakash[4]、三原 久明[1]（1.立命大・生命科学、2.岡山大院・環境生命、3.京大・化所、4.Sch. of Energ. Environ., Thapar Univ.）
16:20 ～ 16:30

[1PT11-04（2P-0194）] 細菌由来セリンパルミトイル基転移酵素における基質アナログ複合体の結晶構造解析
○高橋 亜弥[1]、生城 浩子[2]、後藤 春菜[2]、伊藤 恵実[3]、生城 真一[4]、平林 義雄[3]、矢野 貴人[2]、神谷 信夫[1,5]、宮原 郁子[1]（1.大阪市大・院理、2.大阪医大・医・生化学、3.理化学研究所・脳科学総合研究センター、4.富山県大・工・生物工、5.大阪市大・複合先端）
16:30 ～ 16:40

[1PT11-05（2P-0195）] キノヘムプロテイン・アミン脱水素酵素の翻訳後修飾におけるフラビン含有酵素の役割
○大関 俊範[1]、中井 忠志[2]、谷澤 克行[1]、岡島 俊英[1]（1.阪大・産研、2.広島工大・生命）
16:40 ～ 16:50

[1PT11-06（2P-0196）] *Trypanosoma*科原虫のAcetate:succinate CoA transferase /Succinyl-CoA Synthetaseサイクルの生化学的解析
○望月 恒太[1]、稲岡 ダニエル健[2]、バロガン エマニュエル[3]、志波 智生[4]、原田 繁春[4]、フレデリック ブリンゴード[5]、平山 謙二[1]、北 潔[2]（1.長崎大・熱研・免疫遺伝学、2.長崎大・院TMGH研究科、3.東大・院医・生物医化学、4.京工繊大・院工芸・応用生物学、5.ボルドー大・CNRS・LFMP）
16:50 ～ 17:00

[1PT11-07（2P-0197）] ダイナミックな構造変化を介したAAA+プロテアーゼ Lonの制御メカニズム
○西井 亘[1]、藤井 佳史[1]、松村 義隆[2]、仙石 徹[1]、小島 正樹[2]、横山 茂之[1]（1.理研・構造生物、2.東薬大・生命）
17:00 ～ 17:10

[1PT11-08（2P-0198）] レドックス修飾によるシスタチオニンγ-リアーゼ活性制御
○荒木 笙馬[1]、高田 剛[1]、土屋 幸弘[1]、渡邊 泰男[1]（1.昭和薬大・薬理学）
17:10 ～ 17:20

[1PT11-10（2P-0232）] セレン化合物を応用した角膜障害治療
○樋口 明弘[1,2]、坪田 一男[2]（1.大分大・全学研究推進機構、2.慶應大・医・眼）
17:20 ～ 17:30

[1PT11-11（2P-0233）] 24S-Hydroxycholesterol誘導性神経細胞死に対するビタミンEの効果
○木村 勇輝[1]、浦野 泰臣[1]、野口 範子

©日本分子生物学会/日本生化学会

[1] （1.同志社大学大学院 生命医科学研究科 システム生命科学研究室）

17:30 ～ 17:40

[1PT11-12（2P-0239）] ショウジョウバエのミトコンドリアにおける超複合体形成によらない独特の呼吸適応

島田 悟[1,3]、大崎 麻里加[1]、高橋 涼子[1]、上根 滋史[1]、柳澤 幸子[1]、月原 富武[1,2,4]、○伊藤（新澤） 恭子[1]（1.兵庫県立大・生命理学、2.大阪大学・蛋白研、3.神戸天然物化学、4.戦略的創造研究推進事業）

17:40 ～ 17:50

[1PT11-13（2P-0240）] 分子モーターが動いている瞬間を見る: 時分割動的 X線結晶構造解析による哺乳類 F_1の回転力発生機構の分析

○鈴木 俊治[1,2,3]、平田 邦生[4]、山下 栄樹[5]、飯田 直也[6]、遠藤 斗志也[3]、久堀 徹[2]、吉田 賢右[3]、野地 博行[1]（1.東大・院工・応化、2.東工大・化学生命研、3.京産大・総合生命、4.理研・SPring8センター、5.阪大・蛋白研、6.早大・物理）

17:50 ～ 18:00

[1PT11-14（2P-0241）] 化合物スクリーニングによるミトコンドリアと NLRP3インフラマソームの関連性の解明

○北見 俊守[1]、Uyen Tran[1]（1.理研・統合生命・融合領域）

18:00 ～ 18:10

[1PT11-15（2P-0242）] オートファジーを介した糖代謝エネルギーシフトを標的とした白血病治療戦略

○青木 重樹[1]、平尾 卓也[1]、山口 正視[2]、守田 倫恵[1]、白鳥 麗香[1]、伊藤 晃成[1]（1.千葉大・院薬・生物薬剤、2.千葉大・真菌）

18:10 ～ 18:20

第26会場

一般口頭発表 | 1. 糖質生物学・脂質生物学 | 糖質生物学・脂質生物学（一般口頭発表）

[1AT26] 糖質生物学・脂質生物学 I

座長:板野 直樹(京都産業大学)、座長:山口 芳樹(理化学研究所)

09:00 ～ 11:30 第26会場 (神戸商工会議所 3階 第1+2会議室)

[1AT26-01（1P-0003）] 全身性誘導コンディショナルノックアウトマウスを用いたムチン型糖鎖新規機能の探索

○鈴木 陸[1,2]、中村 勇輝[1,3]、新保 未来[1]、涌井 宏優[1,3]、岡田 理沙[1]、布施谷 清香[1,3]、坪内 鴻奈[1,3]、萩原 梢[4]、佐藤 隆[4]、成松 久[4]、高橋 智[1]、工藤 崇[1]（1.筑波大・医・解剖発生、2.筑波大・グローバル教育院・ヒューマンバイオロジー学位プログラム、3.筑波大院・人間総合科学・フロンティア、4.産総研・創薬基盤・糖鎖技術）

09:00 ～ 09:10

[1AT26-02（1P-0006）] 脱髄時に脳特異的な糖鎖を発現するアストロサイトの発現・性状解析

○作田 香子[1,4]、北爪 しのぶ[1]、兼清 健志[1]、岡原 京平[1]、木塚 康彦[1]、備前 典久[2]、竹林 浩秀[2]、平瀬 肇[3]、小川 温子[4]、谷口 直之[1]（1.理研・理研-マックスプランク連携研究センター・疾患糖鎖、2.新潟大院・医歯学総合研究科、3.理研・脳科学総合研究センター・神経グリア回路、4.お茶の水女子大院・人間文化創成科学研究科）

09:10 ～ 09:20

[1AT26-03（1P-0007）] 6-硫酸化コンドロイチンの減少により起こる表皮過形成

○北澤 和之[1]、灘中 里美[1]、門松 健治[2]、北川 裕之[1]（1.神薬大・生化、2.名大・院医・生化）

09:20 ～ 09:30

[1AT26-04（1P-0059）] 膵β細胞におけるヘパラン硫酸はインスリン分泌及び糖の恒常性維持に重要である

○松澤 拓郎[1]、吉川 雄朗[1]、中村 正帆[1,2]、谷内 一彦[1]（1.東北大・院医・機能薬理、2.東北医科薬科大・医・薬理学）

09:30 ～ 09:40

[1AT26-05（1P-0008）] ガレクチンラティスによる膵臓β細胞でのインスリン分泌制御

○前田 賢人[1]、田崎 雅義[2,3]、安東

©日本分子生物学会/日本生化学会

由喜雄[3]、大坪 和明[1,4]（1.熊大・院保健・生体情報解析学、2.熊大・院生命科学・構造機能解析学、3.熊大・院生命科学・神経内科学、4.熊大・院生命科学・生体情報解析学）

09:40 ～ 09:50

[1AT26-06（1P-0009）] エクソソームへの肝細胞増殖因子受容体 Metの選別におけるグルコース代謝の役割

○原田 陽一郎[1]（1.鹿児島大学医歯学総合研究科 システム血栓制御学講座）

09:50 ～ 10:00

[1AT26-07（1P-0036）] レクチン ZG16pは大腸がん細胞の増殖を抑制する

○水戸 晶子[1,2]、斎藤 多佳子[1]、Sabine Gouraud[3]、相川 京子[4]（1.お茶大・院・人間文化・理学、2.お茶大・院・リーディング、3.お茶大・リーディング大学院推進センター、4.お茶大・基幹研究院・自然科学系）

10:00 ～ 10:10

[1AT26-08（1P-0037）] CD45は糖鎖シスリガンドとしてCD22/Siglec-2を抑制することで Bリンパ球分化を促進する

○赤津 ちづる[1]、Amin Alborzian-Deh-Sheikh[1]、石田 秀治[2]、鍔田 武志[1]（1.東京医科歯科大・難研・免疫疾患、2.岐阜大・応用生物科学）

10:10 ～ 10:20

[1AT26-09（1P-0035）] NMRを用いた S-ニトロソ化によるガレクチン-2の酸化的失活防御メカニズムの解明

○坂倉 正義[1]、田村 真由美[2]、武内 智春[2]、荒田 洋一郎[2,3]、高橋 栄夫[1]（1.横浜市大・生命医科、2.城西大・薬・生化学、3.帝京大・薬）

10:20 ～ 10:30

[1AT26-10（1P-0033）] コアフコース認識レクチン PhoSLによるコアフコース特異的認識機構の結晶学的解析

○久保田 智巳[1]、山崎 智子[1]、長島 生[2]、清水 弘樹[2]、舘野 浩章[3]、山崎 和彦[1]（1.産総研・バイオメディカル、2.産総研・生物プロセス、3.産総研・創薬基盤）

10:30 ～ 10:40

[1AT26-11（1P-0060）] *Prevotella melaninogenica*の産生する糖タンパク質糖鎖遊離酵素の性質とその遺伝子発現系の構築ならびに発現酵素の性質

竹内 朋史[1]、高谷 尚弥[1]、○伊藤 和央[1]（1.阪市大・院理 ）

10:40 ～ 10:50

[1AT26-12（1P-0061）] Engase欠損により回避可能/不可能な Ngly1欠損による異常

○藤平 陽彦[1,2]、根岸-正原 由紀[1]、田村 勝[3]、高倉 大輔[4,5]、黄 澄澄[1]、若菜 茂晴[3]、川崎 ナナ[4]、船越 陽子[1]、鈴木 匡[1]（1.理研・グローバル研究クラスタ・糖鎖代謝学研究チーム、2.順天堂大院・医学・難病の診断と治療研究センター・糖鎖創薬研究室、3.理研・バイオリソースセンター・マウス表現型解析開発チーム、4.横市大・生命医科学・創薬再生科学研究室、5.慶應・総合医科学研究センター）

10:50 ～ 11:00

[1AT26-13（1P-0051）] β3GalNAcT2糖転移酵素は type I LacdiNAc構造を N型糖鎖と O型糖鎖上に形成する

○安形 清彦[1]、中根 隆浩[1]、古川 早苗[1]、佐藤 隆[1]、澤木 弘道[1]、曽我部 万紀[1]、久保田 智己[1]、梶 裕之[1]、成松 久[1]（1.産総研・糖鎖技術RG）

11:00 ～ 11:10

[1AT26-14（1P-0062）] POMGnT1の構造解析による筋ジストロフィー疾患発症機序解明

○桑原 直之[1]、萬谷 博[2]、山田 健之[2]、舘野 浩章[3]、金川 基[4]、小林 千浩[4]、赤阪-萬谷 啓子[2]、弘瀬 友理子[5]、水野 真盛[5]、池口 満徳[6]、戸田 達史[4]、平林 淳[3]、千田 俊哉[1]、遠藤 玉夫[2]、加藤 龍一[1]（1.高エネ研・物構研・構造生物、2.都健康長寿医療センター研、3.産総研・創薬基盤、4.神戸大院・医、5.野口研、6.横市大・生命医）

11:10 ～ 11:20

©日本分子生物学会/日本生化学会

[1AT26-15（1P-0063）] 形質膜シアリダーゼ NEU3によるEGFRシグナリングの調節機構

○山本 晃司[1,2,6]、高橋 耕太[3]、塩崎 一弘[4]、山口 壹範[5]、島 礼[6]、宮城 妙子[6]（1.埼玉医大・保健医療、2.東北大・院医・がん分子制御、3.東北医薬大・分子認識、4.鹿児島大・水産、5.宮城がんセ研・発がん制御、6.宮城がんセ研・がん薬物療法）

11:20 ～ 11:30

一般口頭発表 | 1. 糖質生物学・脂質生物学 | 糖質生物学・脂質生物学（一般口頭発表）

[1PT26] 糖質生物学・脂質生物学 II

座長:花田 賢太郎(国立感染症研究所)、座長:原 雄二(京都大学)
16:00 ～ 18:30 第26会場 (神戸商工会議所 3階 第1+2会議室)

[1PT26-01（2P-0049）] マウス CYP4F39による超長鎖脂肪酸のω位水酸化はアシルセラミド産生および皮膚バリア形成に必須である

○伊藤 成美[1]、佐々 貴之[1,2]、木原 章雄[1,2]（1.北大・薬、2.北大院・薬）

16:00 ～ 16:10

[1PT26-02（2P-0050）] 哺乳類における C24:2多価不飽和脂肪酸含有スフィンゴ脂質の存在と生合成経路の解明

○枝川 茉生[1]、澤井 恵[1]、大野 祐介[2]、木原 章雄[2]
（1.北大・薬、2.北大・院薬）

16:10 ～ 16:20

[1PT26-03（2P-0035）] TMEM16ファミリーによるリン脂質スクランブリング機構の解析

○形部 小百合[1]、長田 重一[1]
（1.阪大・免フロ・免疫・生化学）

16:20 ～ 16:30

[1PT26-04（2P-0036）] ホスファチジルセリンのフリップフロップによる機械受容イオンチャネル PIEZO1の活性化制御機構

○伊藤 可梨[1]、土谷 正樹[1]、長尾 耕次郎[1]、青木 淳賢[2]、大和田 智彦[3]、高山 靖規[4]、富永 真琴[4]、原 雄二[1,5]、梅田 真郷[1]（1.京大・院工・合成・生物化学、2.東北大・院薬・分子細胞生化学、3.東大・院薬・薬化学、4.岡崎統合バイオ(生理研)・細胞生理、5.AMED PRIME）

16:30 ～ 16:40

[1PT26-05（2P-0037）] 膜親和性ナノ粒子を用いたモデル脂質ラフトの集合離散の制御

○延山 知弘[1]、執行 航希[2]、中辻 博貴[3]、杉山 弘[4,5]、濱田 勉[6]、村上 達也[1,5]（1.富山県立大・院工・生物工学、2.金沢大・バイオAFM先端研究センター、3.阪大・院工・応化、4.京大・院理・化学、5.京大・iCeMS、6.北陸先端大マテ）

16:40 ～ 16:50

[1PT26-06（2P-0038）] 昆虫細胞の特異な膜構築機構と変形能

○塩見 晃史[1]、長尾 耕治郎[1]、従二 直人[1]、鈴木 量[2]、田中 求[2]、程 久美子[3]、梅田 眞郷[1]（1.京大・院工・合成・生物化学、2.京大・物質ー細胞統合システム拠点、3.東大・院理・生物科学）

16:50 ～ 17:00

[1PT26-07（2P-0039）] P210型 BCR-ABL PHドメインのリガンド特性およびその病理的意義の解明

○島崎 健太朗[1]、高橋 美帆[1]、梅田 真郷[2]、舟本 聡[3]、斎藤 芳郎[4]、野口 範子[4]、熊谷 圭吾[5]、花田 賢太郎[5]、塚原 富士子[6]、丸 義朗[6]、柴田 識人[7]、内藤 幹彦[1,7]、西川 喜代孝[1]（1.同志社大院・生命医科・医生命・分子生化、2.京大院・工・合成・生物化学、3.同志社大院・生命医科・医生命・神経病理、4.同志社大院・生命医科・医生命・システム生物、5.国立感染研・細胞化学、6.東京女医大院・医・薬理学、7.国立衛研・遺伝子医薬）

17:00 ～ 17:10

[1PT26-08（2P-0040）] 新規イノシトールリン脂質プローブの開発

○長谷川 純矢[1]、Lois Weisman[1]（1.ミシガン大学 Life Sciences Institute）

17:10 ～ 17:20

[1PT26-09（2P-0041）] 1-ステアロイル-2-アラキドノイ

©日本分子生物学会/日本生化学会

ル-ホスファチジルイノシトールはデングウイルス感染を抑制する

〇佐名木 孝央[1,2]、登 治謙[1,2]、鳥羽 晋輔[1,2]、若林 雅人[1]、吉岡 健[1]、佐藤 彰彦[1,2]、吉田 立[1]、澤 洋文[2]（1.塩野義製薬株式会社、2.北海道大学）

17:20 ～　17:30

[1PT26-10（2P-0042）] 運動疲労による心臓における脂質酸化の亢進は心突然死の原因となる

〇幸村 知子[1]、一ノ瀬 栞[1]、中曽根 美咲[1]、今井 浩孝[1]（1.北里大・薬）

17:30 ～　17:40

[1PT26-11（2P-0043）] リゾホスファチジン酸はマウス腹腔マクロファージから IL-10の産生を促進する

〇王 嬌[1]、李 暁威[1]、可野 邦行[1,2]、青木 淳賢[1,2]（1.東北大・院薬、2.AMED・CREST）

17:40 ～　17:50

[1PT26-12（2P-0044）] 海洋性細菌における分枝鎖脂肪酸特異的な新規リゾリン脂質アシル基転移酵素の欠損は細胞凝集を惹起する

〇豊竹 洋佑[1]、川本 純[1]、小川 拓哉[1]、栗原 達夫[1]（1.京大・化研）

17:50 ～　18:00

[1PT26-13（2P-0045）] 飽和脂肪酸含有リン脂質による炎症応答の誘導

〇大木 悠佑[1]、神田 麻優香[1]、嶋中 雄太[1]、河野 望[1,2]、新井 洋由[1,3]（1.東大・院薬・薬科学、2.PRIME・AMED、3.AMED-CREST, AMED）

18:00 ～　18:10

[1PT26-14（2P-0046）] リン脂質の*sn* -1位脂肪酸の代謝に関わる分子機構の解析

〇川名 裕己[1]、青木 淳賢[1,2]（1.東北大院・薬・分子細胞生化学、2.AMED-CREST）

18:10 ～　18:20

[1PT26-15（2P-0047）] 脂肪細胞のベージュ化に関わるsPLA2の同定

〇佐藤 弘泰[1,2]、武富 芳隆[1,2]、三木 寿美[1,2]、村上 誠[1,2,3]（1.東大・院医・健康環境医工学、2.都医学研、3.日本医療研究開発機構）

18:20 ～　18:30

©日本分子生物学会/日本生化学会

2017年12月7日(木)

第12会場

一般口頭発表 | 5. 細胞応答 | 細胞応答（一般口頭発表）

[2AT12] 細胞応答 I

座長:宮澤 恵二(山梨大学)、座長:渡邉 正勝(大阪大学)
09:00 ～ 11:30　第12会場 (神戸ポートピアホテル 南館 地下1階 エメラルド)

[2AT12-01（2P-0394）] G蛋白質共役型受容体の基礎活性の生成には、一過的なダイマー形成が重要である
○笠井 倫志[1]（1.京大・ウイルス・再生研）
09:00 ～　09:10

[2AT12-02（2P-0395）] リゾフォスファチジルイノシトールによるグルカゴン様ペプチド-1分泌機構
○原田 一貴[1]、北口 哲也[2,3]、神谷 泰智[1]、Aung Kyaw[4]、中村 和昭[4]、太田 邦史[1]、坪井 貴司[1]（1.東大・院総文・生命、2.早稲田シンガポール研・細胞情報、3.早大・総合研究機構、4.成育医療センター・薬剤治療）
09:10 ～　09:20

[2AT12-03（2P-0396）] 視床下部オレキシン神経に対するドーパミンの長期的作用の解析
○向井 康敬[1,2]、田中 謙二[3]、永井 健治[4]、山中 章弘[1]（1.名大・環医研・神経２、2.名大・院医、3.慶應大・医・精神神経科学、4.阪大・産研・生体分子機能科学）
09:20 ～　09:30

[2AT12-04（2P-0397）] 脳虚血再灌流モデルマウスの脳病態におけるプロトン感知性受容体 TDAG8の役割
○佐藤 幸市[1]、茂木 千尋[1]、岡島 史和[2]（1.群馬大・生体調節研究所、2.青森大・薬学部）
09:30 ～　09:40

[2AT12-05（2P-0398）] 心臓ペースメーカー細胞の L型 Ca^{2+}チャネルは Na^{+}電流を誘発して拍動リズムの形成に寄与する
○豊田 太[1]、丁 維光[1]、松浦 博[1]（1.滋賀医大・細胞機能生理学）
09:40 ～　09:50

[2AT12-06（2P-0399）] RBM20による心筋 L型カルシウムチャネルの制御
○森永 聡仁[1]、伊藤 淳平[1]、Andres Maturana[1]（1.名大・院農・生命技術）
09:50 ～　10:00

[2AT12-07（2P-0392）] メダカの侵害刺激センサー TRPV1の刺激応答性についての研究
○浅野 麻己子[1]、安田 隆ノ介[1]、粂 慎一郎[2]、久保 義弘[2]、齊藤 修[1]（1.長浜バイオ大学大学・院・バイオサイエンス、2.生理学研究所・神経機能素子）
10:00 ～　10:10

[2AT12-08（2P-0524）] 形態形成における機械刺激応答を介した細胞周期の可塑的制御
○森本 健太[1]、鈴木 えみ子[2]、Wu-min Deng[3]、田守 洋一郎[2]（1.慶大院・政策メディア・先端生命、2.国立遺伝学研究所、3.フロリダ州立大学）
10:10 ～　10:20

[2AT12-09（2P-0400）] ポリサルファイドの生体内合成メカニズム：酵素による生合成と、硫化水素/一酸化窒素の化学的相互作用
○木村 由佳[1]、豊福 優希子[1]、小池 伸[2]、渋谷 典広[1]、永原 則之[3]、David Lefer[4]、宮本 亮[1]、小笠原 祐樹[2]、木村 英雄[1]（1.国立精神・神経医療研究セ・神経研究所、2.明治薬大・分析化学、3.日本医大・RIセ、4.Dept. Pharmacol. Exp. Ther., LSU Health Sci. Center）
10:20 ～　10:30

[2AT12-10（2P-0401）] フタホシコオロギ*Gryllus bimaculatus*を用いた内分泌ネットワークによる脂肪組織での代謝制御および摂食行動へ与える影響の解析
○福村 圭介[1]、久保 健一[1]、清家 瞳[1]、永田 晋治[1]（1.東大・新領域・先端生命科学）

©日本分子生物学会/日本生化学会

10:30 ～　10:40

[2AT12-11（2P-0420）] テオフィリンはグルココルチコイド刺激による脂肪細胞からのIL-6産生を抑制する

○三谷 塁一[1]、片山 茂[2]、中村 宗一郎[2]（1.信州大・先鋭領域・バイオメディカル、2.信州大・総合理工学（農学））

10:40 ～　10:50

[2AT12-12（2P-0402）] 新規抗炎症性 RAGE阻害剤の創製とその抗炎症機構の解析

○中島 槙吾[1]、玉田 賢弥[1]、吉森 篤史[2]、佐藤 聡[1]、田沼 靖一[1]（1.東京理大薬、2.(株)理論創薬研究所）

10:50 ～　11:00

[2AT12-13（2P-0421）] Combinatorial regulation of UDP-Glucuronosyltransferase (UGT)-1A8 Gene by Intestinal Factors Cdx2 (Caudal-Related Homeodomain Protein-2) and HNF4a (Hepatocyte Nuclear Factor-4 Alpha)

○Siti Mubarokah[1]、Peter I MacKenzie[1]、Robyn Meech[1]（1.Department of Clinical Pharmacology, Flinders University, Adelaide, SA, Australia ）

11:00 ～　11:10

[2AT12-14（2P-0422）] 核内受容体 Ad4BP/SF-1によるステロイドホルモン産生へ向けた全プロセスの制御

○馬場 崇[1]、Man Ho Choi[2]、諸橋 憲一郎[1]（1.九大・院医・性差生物学、2.Molecular Recognition Research Center, KIST）

11:10 ～　11:20

[2AT12-15（2P-0423）] NR5Aサブファミリーにおける核内受容体複合体の構造生物学

○湯本 史明[1]、サブリン エリーナ[2]、清水 伸隆[1]、加藤 龍一[1]、フレッテリック ロバート[2]、千田 俊哉[1]（1.高エネ機構・物構研・構造生物セ、2.カリフォルニア大学サンフランシスコ校）

11:20 ～　11:30

第26会場

一般口頭発表 | 8. 疾患生物学 | 疾患生物学（一般口頭発表）

[2AT26] 疾患生物学 I

座長:内野 茂夫(帝京大学)、座長:榎戸 靖(愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所)

09:00 ～ 11:30　第26会場 (神戸商工会議所 3階 第1+2会議室)

[2AT26-01（2P-1051）] 家族性片頭痛マウスモデルとしてのナトリウムポンプα２サブユニット遺伝子欠損マウス

○川上 潔[1]、畝川 美悠紀[2]、池田 啓子[3]、富田 裕[2]、鈴木 則宏[2]（1.自治医大・分子病態研・細胞生物、2.慶応大・医学部・神経内科、3.国際医療福祉大・医学部・生理学）

09:00 ～　09:10

[2AT26-02（2P-1052）] 神経活動依存的に発現する転写因子 Npas4は脳梗塞後のニューロン生存に必須である

○高橋 弘雄[1]、朝比奈 諒[1]、吉原 誠一[1]、坪井 昭夫[1]（1.奈良医大・先端研・脳神経システム）

09:10 ～　09:20

[2AT26-03（2P-1053）] 骨粗鬆症治療薬クロドロン酸は小胞型ヌクレオチドトランスポーターを標的として慢性疼痛を改善する

○加藤 百合[1,2]、日浅 未来[2]、市川 玲子[3]、蓮澤 奈央[4]、門脇 敦史[5]、岩槻 健[3,6]、島 和弘[7]、遠藤 康男[7]、北原 吉郎[3]、井上 剛[5]、野村 政壽[4]、表 弘志[2]、森山 芳則[1,2,8]、宮地 孝明[1]（1.岡山大・自然研セ、2.岡山大・院薬・生化学、3.味の素イノベーション研、4.九州大・院医・内分泌、5.岡山大・院薬・生物物理、6.東京農大・食品・生体環境、7.東北大・院歯・口腔分子、8.松本歯大・歯・生化学）

09:20 ～　09:30

[2AT26-04（2P-1054）] 脂質酸化依存的細胞死フェロトーシスを抑制する新規化合物の神経保護効果

○星野 友則[1,2]、松澤 秀一[1,2]、高橋 良輔[2]（1.京都大学大学院 医学研究科 創薬インキュベーションラボ、2.京都大学大学院 医学研究科

©日本分子生物学会/日本生化学会

臨床神経学）
09:30 ～ 09:40

[2AT26-05（2P-1055）] Kleefstra症候群における脳機能不全の後天的エピゲノム改変による病状改善への挑戦
〇山田 亜夕美[1]、西村 佳也子[1]、平澤 孝枝[2]、眞貝 洋一[1]（1.理化学研究所・眞貝細胞記憶、2.帝京大・理工・バイオサイエンス）
09:40 ～ 09:50

[2AT26-06（2P-1056）] 筋萎縮性側索硬化症におけるシスタチン Cの神経保護効果
〇渡邊 征爾[1]、小峯 起[1]、遠藤 史人[1]、山中 宏二[1]（1.名大・環医・病態神経）
09:50 ～ 10:00

[2AT26-07（2P-1057）] 全身性 SQSTM1高発現は SOD1^{H46R}発現 ALSマウスモデルの発症の早期化と発症後の生存延長をもたらす
〇三井 駿[1]、大友 麻子[1]、野崎 昌久[1]、小野 鈴花[1]、佐藤 海[1]、白川 涼平[1]、足立 弘明[2]、青木 正志[3]、祖父江 元[4]、Hui-Fang Shang[5]、秦野 伸二[1]（1.東海大・医・分子生命、2.産業医科大・神内、3.東北大院・神内、4.名大院・神内、5.四川大・華西医院）
10:00 ～ 10:10

[2AT26-08（2P-1058）] 細胞内コレステロール輸送異常が惹起するミエリン形成不全の分子病態メカニズム
〇榎戸 靖[1]、岸 宗一郎[1]、稲村 直子[1]、細川 昌則[1]、道川 誠[2]、櫓垣 克美[3]、竹林 浩秀[4]（1.愛知県コロニー・発達障害研究所、2.名市大院・医学研究科、3.鳥取大・生命機能研究支援センター、4.新潟大院・医歯学総合研究科）
10:10 ～ 10:20

[2AT26-09（2P-1059）] ATP制御薬による細胞内ATP維持は MPTPパーキンソン病モデルにおいて発症を緩和する
〇中野 将希[1]、今村 博臣[1]、笹岡 紀男[1]、山本 正道[2]、上村 紀仁[3]、首藤 敏之[1,4]、渕上 智弘[4]、高橋 良輔[3]、垣塚 彰[1]（1.京大・生命・高次生体統御学、2.京大・医・腎臓内科学、3.京大・医・臨床神経学、4.Daito Chemix）
10:20 ～ 10:30

[2AT26-10（2P-1060）] 神経新生促進によるダウン症モデルにおける脳発達障害の是正
〇小林 亜希子[1]、粟屋 智就[1]、喜井 勲[1]、隅田 有人[2]、奥野 友紀子[3]、和根崎 圭子[1]、吉田 優[2]、隅田 ともえ[2]、井上 治久[4]、細谷 孝充[2]、萩原 正敏[1]（1.京大・院医・形態形成機構学、2.東医歯大・生材研・生命有機化学、3.京大・院医・医学研究支援センター、4.京大・iPS細胞研究所）
10:30 ～ 10:40

[2AT26-11（2P-1061）] 言語能力保持型 Rett症候群の Genotype-phanotype relationshipと治療反応性の分子制御機構
〇織本 健司[1]、松石 豊次郎[2]、弓削 康太郎[3]（1.ふれあい東戸塚ホスピタル 総合診療内科、2.聖マリア病院小児総合研究センター・レット症候群研究センター、3.久留米大学病院小児科）
10:40 ～ 10:50

[2AT26-12（2P-1062）] 糖クリックケミストリーを用いたセクレトーム解析による新規自閉症バイオマーカーの探索
〇長友 亮太[1]、名尾 洋亮[1]、木村 美咲[1]、伊藤 弦太[1]、高鳥 翔[1]、富田 泰輔[1]（1.東大・院薬・機能病態学）
10:50 ～ 11:00

[2AT26-13（2P-1063）] *ABCA*ファミリー遺伝子を標的としたショウジョウバエの新規自閉症モデルの確立
〇上岡 伊吹[1]、川島 和[2]、小西 篤[2]、青木 幹雄[2]、田中 領[1]、吉田 英樹[1]、前田 徹[3]、尾崎 まみこ[3]、山口 政光[1]（1.京都工芸繊維大学 大学院工芸科学研究科 応用生物学専攻、2.大日本住友製薬株式会社、3.神戸大・院・理学研究科）
11:00 ～ 11:10

©日本分子生物学会/日本生化学会

[2AT26-14（2P-1193）] うつ病発症における脳白質構造変化とオリゴデンドロサイト機能変化の関連

○宮田 信吾[1]、清水 尚子[1]、石野 雄吾[1]、山本 彬世[1]、川上 あゆみ[1]、遠山 正彌[1,2]（1.近大・東医・分子脳科学、2.大阪府立病院機構）

11:10 ～ 11:20

[2AT26-15（2P-1064）] ストレスによるうつ形成のトランスレーショナル・バイオマーカーの検討

森本 健揮[1]、笠原 恵美子[1]、伊藤 史穂[1]、竹中 美月[1]、村山 真人[1]、堀 美香[1]、○関山 敦生[1]（1.大阪大・院薬・先制心身）

11:20 ～ 11:30

一般口頭発表 | 8. 疾患生物学 | 疾患生物学（一般口頭発表）

[2PT26] 疾患生物学 II

座長:宮戸 健二(国立成育医療研究センター研究所)、座長:佐々木 努(群馬大学)

16:00 ～ 18:30 第26会場 (神戸商工会議所 3階 第1+2会議室)

[2PT26-01（3P-1124）] ナンセンス随伴スプライス変更による疾患発症：46,XY性分化疾患兄弟例における MAP3K1変異の同定

○五十嵐 麻希[1]、金城 健一[2]、堀川 玲子[2]、緒方 勤[3]、深見 真紀[1]（1.国立成育医療研究セ・分子内分泌、2.国立成育医療研究セ・内分泌代謝、3.浜松医大・小児科）

16:00 ～ 16:10

[2PT26-02（3P-1125）] エピジェネティック疾患 ICF症候群の発症機序～ DNA修復機構の破綻と病態のリンク～

○鵜木 元香[1]、佐々木 裕之[1]（1.九大・生医研・エピゲノム制御学）

16:10 ～ 16:20

[2PT26-03（3P-1126）] *SLC25A46*遺伝子を標的としたヒト希少神経難病 Charcot-Marie-Tooth病の新規ショウジョウバエモデルの開発

○須田 晃治郎[1]、上岡 伊吹[1]、田中 領[1]、奥主 隆太[1]、吉田 英樹[1,2]、山口 政光[1,2]（1.京都工繊大・応用生物、2.京都工繊大・昆虫バイオメディカルセンター）

16:20 ～ 16:30

[2PT26-04（3P-1127）] CRISPR/Cas9を用いた Musculocontractural Ehlers-Danlos Syndrome-*CHST14*ノックアウトマウスの作製と病態解析

○笠原（仁田原） 優子[1]、島津 苑子[1]、増田 千明[1]、積田 奈々[2]、水本 秀二[3]、井上(上野) 由紀子[4]、井上 高良[4]、吉沢 隆浩[5]、高橋 有希[6]、池上 良[7]、中山 淳[8]、武田 伸一[2]、渡邉 淳[1]、古庄 知己[6]、岡田 尚巳[1]（1.日本医大・生化学・分子生物学（分子遺伝学）、2.精神・神経医療研究センター・神経研・遺伝子疾患治療、3.名城大・薬学・病態生化学、4.精神・神経医療研究センター・神経研・疾患六部、5.信州大・ヒト環境科学研究支援センター・動物実験、6.信州大・医学部附属病院・遺伝子医療研究センター、7.東京歯科大・クラウンブリッジ補綴、8.信州大・学術研究院・医学系・分子病理学）

16:30 ～ 16:40

[2PT26-05（3P-1128）] 遺伝性小頭症原因遺伝子産物 WDR62による星状体微小管重合を介した細胞分裂軸制御

○宮本 達雄[1]、福満 啓博[1]、阿久津 シルビア夏子[1]、政綱 宜規[1]、細羽 康介[1]、山本 卓[2]、松浦 伸也[1]（1.広島大・原医研・放射線ゲノム疾患、2.広島大・院理・数理分子生命理学）

16:40 ～ 16:50

[2PT26-06（3P-1129）] 細胞培養モデルが明らかにした X連鎖の疾患での女性重症化

○稲垣 秀人[1]、杉本 賢政[1]、堤 真紀子[1]、井上 義一[2]、田口 佳広[2]、帽田 仁子[3]、宮田 昌史[3]、奥本 隆行[2]、吉川 哲史[3]、倉橋 浩樹[1]（1.藤田保健衛生大・総医研・分子遺伝、2.藤田保健衛生大・医学部・形成外科、3.藤田保健衛生大・医学部・小児科）

©日本分子生物学会/日本生化学会

16:50 ～ 17:00

[2PT26-07（3P-1130）] 新規ゲノム編集技術で改変したiPS細胞を用いたファブリー病モデル化と疾患メカニズム解析

○友田 紀一郎[1]、森原 啓文[1]、渡辺 真理奈[1]、朝日 通雄[1]（1.大阪医大・薬理）

17:00 ～ 17:10

[2PT26-08（3P-1131）] 公共 ChIP-seqデータをフル活用し、遺伝性疾患の解明に挑む

○沖 真弥[1]、大田 達郎[2]、塩井 剛[3]、畠中 秀樹[4]、小笠原 理[5]、奥田 喜広[5]、川路 英哉[6]、仲木 竜[7]、瀬々 潤[8]、目野 主税[1]（1.九大・院医・発生再生医学、2.ROIS・DBCLS、3.理研・CLST、4.JST・NBDC、5.遺伝研・DDBJ、6.理研・ACCC、7.東大・RCAST、8.産総研・AIRC）

17:10 ～ 17:20

[2PT26-09（3P-1132）] 遺伝性疾患自然発症モデル動物としての mutator mouse

○作見 邦彦[1]、大野 みずき[2]、中別府 雄作[1]（1.九大・生医研・脳機能、2.九大・院医・基礎放射線医学）

17:20 ～ 17:30

[2PT26-10（3P-1145）] メタゲノム解析を用いた大腸がん疾病マーカー遺伝子の探索

○城間 博紹[1]、水谷 紗弥佳[1]、谷内田 真一[2]、山田 拓司[1]（1.東工大・生命理工学院、2.国立がん研究センター）

17:30 ～ 17:40

[2PT26-11（3P-1146）] Simple Western®による骨格筋組織中 dystrophinの定量

○川口 達也[1]、吉田 忍[1]、Abdulqaee Rani[2]、榊原 佐知子[3]、前田 尚之[3]、佐藤 督[4]、松尾 雅文[2]（1.第一三共ＲＤＮ・創薬基盤、2.神戸学院大・総リハ・理学療法、3.第一三共・ＢＭ部、4.第一三共・研企部）

17:40 ～ 17:50

[2PT26-12（3P-1147）] トランスクリプトームに基づくアジュバントの毒性判定モデルの構築

○岸下 奈津子[1,2,4]、五十嵐 芳暢[3]、山田 弘[3]、石井 健[1,2,4]（1.医薬基盤健栄研・モックアップワクチン、2.医薬基盤健栄研・アジュバント開発、3.医薬基盤健栄研・トキシコゲノミクス・インフォマティクス、4.大阪大学・IFReC・ワクチン学）

17:50 ～ 18:00

[2PT26-13（3P-1148）] 末梢血における KLF14遺伝子領域の DNAメチル化は2型糖尿病の発症を予測しうる

○岩谷 千寿[1,2,8]、柴田 弘紀[2]、山本 健[3]、北島 秀俊[4]、前田 泰孝[1]、園田 紀之[1]、小川 佳宏[1,5,6]、井口 登與志[7]（1.九大・医学・病態制御内科、2.九大・生医研・ゲノミクス、3.久留米大・医学、4.オクスフォード大・ウェルカムトラスト、5.東京医科歯科大・医学・内分泌、6.CREST・AMED、7.福岡健康づくりサポートセンター、8.日本学術振興会特別研究員DC）

18:00 ～ 18:10

[2PT26-14（3P-1149）] 尿細管発生期における転写因子 Nrf2の恒常的活性化は腎性尿崩症を引き起こす

○鈴木 隆史[1]、関 詩織[1]、長沼 絵理子[1]、高橋 信行[2]、佐藤 博[2]、山本 雅之[1]（1.東北大・院医・医化学、2.東北大・院薬・臨床薬学）

18:10 ～ 18:20

[2PT26-15（3P-0899）] 短寿命α線核種を用いた新規抗がん薬開発の検討

○兼田 加珠子[1]、張 子見[1,2]、池田 卓海[2]、神田 晃充[2]、市村 聡一朗[2]、真鍋 良幸[1,3]、下山 敦史[1,3]、樺山 一哉[1,3]、永田 光知郎[7]、渡部 直史[1,4]、豊嶋 厚史[1,5]、金井 好克[6]、吉村 崇[1,7]、福田 光宏[1,8]、深瀬 浩一[1,3]、篠原 厚[1,2]（1.阪大・院理・PRC・医理連携、2.阪大・院理・放射化学、3.阪大・院理・天然物有機化学、4.阪大・院医・核医学、5.原研・先端基礎研・重元素核化学、6.阪大・院医・生体システム

©日本分子生物学会/日本生化学会

薬理学、7.阪大・RI・同位体化学、8.阪大・RNCP・加速器研究）

18:20 〜　18:30

ConBio2017
Consortium of Biological Sciences 2017

©日本分子生物学会/日本生化学会

2017年12月8日(金)

第4会場

一般口頭発表 | 5. 細胞応答 | 細胞応答（一般口頭発表）

[3PT04] 細胞応答 II

座長:杉浦 麗子(近畿大学)、座長:井倉 毅(京都大学)
16:00 ～ 18:30　第4会場 (神戸ポートピアホテル 本館 地下1階 和楽)

[3PT04-01（3P-0454）] オートファジーによる type 2A protein phosphataseの制御機構の解明
○藤原 信行[1,9]、渋谷 周作[2]、坂井 祐介[3]、島 礼[4]、渡邊 利雄[5]、大島 浩子[6]、大島 正伸[6]、齋藤 達哉[7]、審良 静男[8]、永野 浩昭[9]、臼井 達哉[10]、大浜 剛[1]、佐藤 晃一[1] （1.山口大・共同獣医・獣医薬理、2.山口大・共同獣医・獣医衛生、3.山口大・共同獣医・獣医病理、4.宮城県立がんセ研・がん薬物療法、5.奈良女大・院・人間文化、6.金沢大・がん研・腫瘍遺伝学、7.徳島大・先端酵素学研究センター、8.大阪大・免疫学フロンティア研究センター、9.山口大・院医・消化器腫瘍外科、10.山口大・共同獣医・獣医毒性）
16:00 ～　16:10

[3PT04-02（3P-0455）] DYRK1Bによる肝糖新生制御機構の解明
○満島 勝[1]、酒井 真志人[1]、松本 雅記[2]、飯田 智[1]、長沼 孝雄[1]、矢野 宏行[1]、松川 隼也[1]、高橋 経太[1]、春日 雅人[3]、松本 道宏[1] （1.国立国際医療研究センター研究所 糖尿病研究センター 分子代謝制御研究部、2.九州大学 生体防御医学研究所 プロテオミクス分野、3.国立国際医療研究センター）
16:10 ～　16:20

[3PT04-03（3P-0456）] 転写因子 FOXK1のmTORC1依存的な脱リン酸化メカニズムの解析
○中津海 洋一[1]、松本 雅記[1]、中山 敬一[1] （1.九大・生医研）
16:20 ～　16:30

[3PT04-04（3P-0488）] ショウジョウバエ生殖器官の栄養センサーはオスの妊性を制御する
○松家 未来[1]、久保 愛結子[1]、谷口 喜一郎[2,3]、安達 卓[2]、中越 英樹[1] （1.岡山大院・自然科学、2.学習院大・理、3.京都大院・生命科学）
16:30 ～　16:40

[3PT04-05（3P-0489）] 小胞体膜タンパク質 B-cell receptor-associated protein 31は autophagyとapoptosisの誘導を制御する
○難波 卓司[1] （1.高知大・総合研究センター）
16:40 ～　16:50

[3PT04-06（3P-0490）] 出芽酵母におけるグルコースの効率的取り込みに関わる新規タンパク質の生理機能解析
○梅川 碧里[1]、氏原 将人[2]、中井 大貴[2]、竹松 弘[3]、若山 守[2] （1.京大・院生命、2.立命大・生命、3.京大・院医）
16:50 ～　17:00

[3PT04-07（3P-0478）] ゲノム編集マウスを用いた硫化水素代謝酵素 sulfide-quinone reductase の機能解析
○守田 匡伸[1]、井田 智章[1]、松永 哲郎[1]、西村 明[1]、藤井 重元[1]、赤池 孝章[1] （1.東北大・院医・環境保健医学）
17:00 ～　17:10

[3PT04-08（3P-0491）] 無重力による酸化ストレスを介した筋細胞内シグナルトランスダクション
○内田 貴之[1]、坂下 禎宏[1]、真板 綾子[1]、中尾 玲子[1]、平坂 勝也[1,2]、東谷 篤志[3]、東端 晃[4]、小林 剛[5]、曽我部 正博[5]、武田 伸一[6]、二川 健[1] （1.徳島大院・医歯薬学研究部・生体栄養、2.長崎大・水産・海洋物質科学、3.東北大院・生命科学・ゲノム継承システム、4.JAXA、5.名古屋大院・医科研究・統合生理学、6.国立精神・医療研究センター）
17:10 ～　17:20

[3PT04-09（3P-0492）] 小胞体膜タンパク質 Seipinの神経変性誘導変異体が惹起する病理

©日本分子生物学会/日本生化学会

的な小胞体ストレス発生機構の解析

○齊藤 峻介[1]、石川 時郎[1]、岡田 徹也[1]、森 和俊[1]（1.京大・院理・生物科学）

17:20 ～ 17:30

[3PT04-10（3P-0493）] 細胞内 SODが代謝するsuperoxideによる細胞運命決定機構

○清水 孝彦[1]、渡辺 憲史[1]、澁谷 修一[1]、小澤 裕介[1]（1.千葉大学大学院医学研究院・先進加齢医学）

17:30 ～ 17:40

[3PT04-11（3P-0494）] 新規 NFAT5核内移行制御因子HES1の高浸透圧環境における機能解析

○立野 浩輝[1]、名黒 功[1]、一條 秀憲[1]（1.東大・院薬・細胞情報）

17:40 ～ 17:50

[3PT04-12（3P-0495）] Siah2及び p62による Nrf2発現調節機構の検討

○中村 美里[1]、小林 之乃[2]、大黒 亜美[3]、今岡 進[4]（1.関学・理工・生命医化、2.関学・理工・生命医化、3.関学・理工・生命医化、4.関学・理工・生命医化）

17:50 ～ 18:00

[3PT04-13（3P-0496）] ストレス応答転写因子 Nrf1を特異的に安定化する誘導剤の探索

○福元 雄大[1]、辻田 忠志[2]、川口 真一[3]（1.佐賀大・院農・生化学、2.佐賀大・農・生化学、3.佐賀大・農・天然資源化学）

18:00 ～ 18:10

[3PT04-14（3P-0497）] 小胞体ストレスセンサー IRE1βの活性化においてリン酸化が果たす複数の役割

○都留 秋雄[1]、坪山 恭之[1]、大澤 祐介[1]、河野 憲二[1,2]（1.奈良先端大・バイオサイエンス、2.奈良先端大・研究推進機構）

18:10 ～ 18:20

[3PT04-15（3P-0498）] Nrf2 induction by oral administration of glucoraphanin relives tissue damage in sickle cell disease

○Harit Panda[1]、Nadine Keleku Lukwete[1]、Mikiko Suzuki[2]、Masayuki Yamamoto[1]（1.Department of Medical Biochemistry, Tohoku University Graduate School of Medicine、2.Centre for Radioisotope Sciences, Tohoku University Graduate School of Medicine）

18:20 ～ 18:30

第11会場

一般口頭発表 | 7. 発生・再生 | 発生・再生（一般口頭発表）

[3AT11] 発生・再生 I

座長:首藤 剛(熊本大学)、座長:関 由行(関西学院大学)
09:00 ～ 11:30 第11会場 (神戸ポートピアホテル 南館 地下1階 ダイヤモンド)

[3AT11-01（3P-0800）] 超並列レポーターアッセイが紐解く神経分化の分子メカニズム

○井上 詞貴[1,2]、Anat Kreimer[1,2,3]、Nir Yosef[3]、Nadav Ahituv[1,2]（1.カリフォルニア大・サンフランシスコ、2.カリフォルニア大・サンフランシスコ、3.カリフォルニア大・バークリー）

09:00 ～ 09:10

[3AT11-02（3P-0801）] 多能性幹細胞を制御する転写因子は、着床の前後で、 SOX2-POU5F1から ZIC2-OTX2へと劇的に変化する

○近藤 寿人[1]、松田 一成[2]、沖 真弥[3]、重信 秀治[4]（1.京産大・総合生命、2.阪大・生命機能、3.九大・医学研究院、4.基礎生物学研究所）

09:10 ～ 09:20

[3AT11-03（3P-0802）] 自閉症関連因子 CHD8はC/EBPβと協調して脂肪分化を制御する

○喜多 泰之[1,2]、西山 正章[1]、片山 雄太[1]、白根 道子[1,2]、中山 敬一[1]（1.九大・生医研・分子医科学、2.名市大・院薬・分子生物薬学）

09:20 ～ 09:30

[3AT11-04（3P-0803）] リボソーム取り込みによるヒト

©日本分子生物学会/日本生化学会

細胞の多能性獲得

○伊藤 尚文[1]、シャーアディルイシタヤック アハマド[1]、モハマドバドルルアナム[1]、太田 訓正[1]（1.熊本大・院・生命科学）

09:30 ～ 09:40

[3AT11-05（3P-0804）] 多能性幹細胞においてZscan4はテロメア短縮に応答して発現する

○二木 陽子[1]、丹羽 仁史[2]（1.理研・CDB、2.熊大・発生医学研・多能性幹細胞分野）

09:40 ～ 09:50

[3AT11-06（3P-0805）] Kif11は間葉系幹細胞から骨芽細胞への分化を抑制するエピジェネティック制御の標的因子である

○松本 征仁[1]、佐藤 毅[2]、大久保 正彦[2]、大久保 桃絵[1]、水野 洋介[1]、依田 哲也[2]、岡崎 康司[1]（1.埼玉医科大学・ゲノム医センター、2.埼玉医科大学・口外）

09:50 ～ 10:00

[3AT11-07（3P-0806）] ナイーブ型とプライム型多能性幹細胞をわけるエピジェネティックバリアー形成におけるDNAメチル化の役割

○浦 大樹[1]、鈴木 進之介[1]、田多 裕喜[1]、阿部 訓也[1]（1.理研BRC・疾患ゲノム）

10:00 ～ 10:10

[3AT11-08（3P-0874）] ヒトデ類の変態過程におけるレチノイン酸シグナル経路の役割

○山川 隼平[1]、守野 孔明[1]、和田 洋[1]（1.筑波大・院・生命環境）

10:10 ～ 10:20

[3AT11-09（3P-0807）] Adiponectinの新たな機能 -核局在 Adiponectinの過剰発現による細胞死-

○勅使河原 利香[1,2]、曹 準権[1,2]、亀田 雅博[1,2]、多田 高[1]（1.京大 ウイルス・再生研 再生組織構築 発生エピゲノム 多田G、2.京大・医学研究科）

10:20 ～ 10:30

[3AT11-10（3P-0808）] Runx1エンハンサーは多臓器において幹細胞マーカーとなる

○山村 明寛[1,2]、松尾 純一[1]、佐藤 英昭[2]、Lim Yi Hui Melissa[1]、Naing Naing Mon[1]、Dede Liana Heng[1]、M D Zakir Hosain[1]、海野 倫明[2]、Yeoh Khay Guan[3]、大里 元美[1,4]、伊藤 嘉明[1]（1.シンガポール国立大・癌科学研、2.東北大・院医・消化器外科学、3.シンガポール国立大学病院・消化器内科、4.熊本大・国際先端科学技術研究機構）

10:30 ～ 10:40

[3AT11-11（3P-0809）] 胎生期の神経幹細胞におけるリソソームの機能解析

○湯泉 直也[1]、原田 雄仁[1]、川口 大地[1]、古舘 昌平[1]、後藤 由季子[1]（1.東大・院薬・薬科学）

10:40 ～ 10:50

[3AT11-12（3P-0810）] 光感受性陽イオンチャネルChR2を介した NG2陽性グリア前駆細胞のオリゴデンドロサイトへの分化

○小野 健治[1]、川嶋 裕人[1]、鈴木 弘美[1]、澤田 誠[1]（1.名大・環医研・脳機能）

10:50 ～ 11:00

[3AT11-13（3P-0811）] 全能性細胞特異的遺伝子を用いた高品質 iPS細胞の作製

○原口 大生[1]、中村 肇伸[1,2]（1.長浜バイオ・院・バイオ、2.AMED-CREST ）

11:00 ～ 11:10

[3AT11-14（3P-0812）] 肝幹/前駆細胞の新規制御因子Tsukushiの機能解明

○木村 拓也[1,2]、真家 進吾[1,2]、太田 訓正[3]、宮島 篤[1]、田中 稔[1,2]（1.東大・分生研、2.国立国際医療研究センター、3.熊大・院生命）

11:10 ～ 11:20

[3AT11-15（3P-0841）] 低分子化合物を用いたダイレクトリプログラミングによるヒト線維芽細胞から褐色脂肪細胞への直接誘導

○武田 行正[1]、原田 義規[2]、戴 平[1]（1.京都府立医大・院医・細胞再生医学、2.京都府立医大・院医・細胞分子機能病理学）

©日本分子生物学会/日本生化学会

11:20 ～　11:30

一般口頭発表 | 7. 発生・再生 | 発生・再生（一般口頭発表）

[3PT11] 発生・再生 II

座長:石谷 太(群馬大学)、座長:乾 雅史(明治大学)
16:00 ～ 18:30　第11会場 (神戸ポートピアホテル 南館 地下1階 ダイヤモンド)

[3PT11-01（3P-0737）] 新規の減数分裂誘導因子の同定
○石黒 啓一郎[1]（1.熊大・発生医・染色体制御）
16:00 ～　16:10

[3PT11-02（3P-0738）] foxl3制御から見えた、生殖細胞の性決定機構について
○菊地 真理子[1]、津田 弥与[1]、齋藤 大助[2]、重信 秀治[3]、須山 幹太[2]、西村 俊哉[1]、田中 実[1]（1.名大・理・生命理学、2.九大・生体防御・情報生物学、3.基生研・生物機能情報分析室）
16:10 ～　16:20

[3PT11-03（3P-0739）] *Mamld1*遺伝子欠損は精巣サイズ減少と一日精子産生数減少を招く
○宮戸 真美[1]、吉田 薫[2]、宮戸 健二[3]、勝見 桃理[1,4]、齊藤 和毅[1,5]、中村 繁[1,6]、緒方 勤[1,7]、深見 真紀[1]（1.国立成育医療研究セ・分子内分泌、2.桐横大・医用工・生命医工、3.国立成育医療研究セ・生殖・細胞医療、4.東医歯大・院医歯・NCCHD成育医学、5.東医歯大・院医歯・生殖機能協関学、6.自医大・小児泌尿器科、7.浜医大・小児科）
16:20 ～　16:30

[3PT11-04（3P-0740）] テロメラーゼの酵素活性非依存的な機能は精子幹細胞の自己複製に必要である
○長谷川 和輝[1]、Alina Garbuzov[1]、Shengda Lin[1]、Matthew Pech[1]、Steven Artandi[1]（1.スタンフォード大学 医学部）
16:30 ～　16:40

[3PT11-05（3P-0741）] マウス受精過程における精子染色体の極体放出防止機構
○Masashi Mori[1,2]、八尾 竜馬[4]、山縣 一夫[3]、北島 智也[1]、伊川 正人[2]（1.理研・CDB・染色体分配、2.阪大・微研・遺伝子機能、3.近畿大・生物理工学・遺伝子工学、4.扶桑薬品・研究開発センター）
16:40 ～　16:50

[3PT11-06（3P-0742）] 生殖細胞性遺伝子 vasaの発現に関わる母性因子 Mamoを中心とした遺伝子発現制御ネットワーク
○中村 翔一[1]、宮形 奈沙[2]、辻 拓真[2]、小西 紀子[3]、星 克哉[3]、平 誠司[4]、小林 悟[5]、向 正則[3]（1.甲南・自然科学・生命機能、2.甲南・自然科学・生物学、3.甲南・理工・生物、4.基生研、5.筑波・TARA）
16:50 ～　17:00

[3PT11-07（3P-0743）] 精子形成における mRNAポリA鎖による転写後制御の解析
○柳谷 朗子[1]、高橋 明格[1]、Nahum Sonenberg[2]、山本 雅[1]（1.沖縄科学技術大学院大学、2.マギル大学）
17:00 ～　17:10

[3PT11-08（3P-0875）] キイロショウジョウバエ雌性先熟表現型の分子機構の解明
○成 耆鉉[1]（1.理研筑波）
17:10 ～　17:20

[3PT11-09（3P-0744）] 白血球阻止因子(LIF)による胚の着床誘導機序についての検討
○平岡 毅大[1]、廣田 泰[1]、藤田 知子[1]、田中 智基[1]、赤枝 俊[1]、伊賀上 翔太[1]、大須賀 穣[1]、藤井 知行[1]（1.東大・院医・産婦人科学）
17:20 ～　17:30

[3PT11-10（3P-0745）] 始原生殖細胞形成過程におけるエピゲノムリモデリングの動態
○栗本 一基[1]、藪田 幸宏[1]、大田 浩[1]、白根 健次郎[2]、林 克彦[3]、三谷 忠宏[1]、木村 宏[4]、山本 拓也[5]、白髭 克彦[6]、佐々木 裕之[2]、斎藤 通紀[1]（1.京大・院・医、2.九大・生医研、3.九大・院・医、4.東工大・生命理工、5.京大・CiRA、6.東大・分生研）
17:30 ～　17:40

[3PT11-11（3P-0746）] ユビキチンリガーゼβ-TrCPによるオス生殖細胞の減数分裂開始制

©日本分子生物学会/日本生化学会

御
○中川 直[1]、中野 星児[1]、久志 瞭[1]、中山 啓子[1]（1.東北大・医・細胞増殖制御）
17:40 ～ 17:50

[3PT11-12（3P-0747）] カイコ*Sex-lethal*ホモログは、異型精子の一種である無核精子の形成に必須である
○酒井 弘貴[1,2]、大島 宏之[3]、由利 昂大[4]、後藤 寛貴[3]、大門 高明[5]、柳沼 利信[3]、佐原 健[4]、新美 輝幸[1,3,6]（1.基生研・進化発生、2.学振特別研究員、3.名大・院生命農、4.岩大・農、5.京大・院農、6.総研大・生命科学）
17:50 ～ 18:00

[3PT11-13（3P-0748）] ショウジョウバエ種の管状受精嚢の多様性をもたらす形態形成過程の差違
○野口 立彦[1]（1.防衛医科大学校）
18:00 ～ 18:10

[3PT11-14（3P-0749）] 生殖細胞特異的 NANOS2-DND1経路の体細胞における再構成
○平野 孝昌[1]、村岡 正文[1]、相賀 裕美子[1]（1.国立遺伝学研究所 発生工学研究室）
18:10 ～ 18:20

[3PT11-15（3P-0750）] マウス受精卵における前核形成開始時間制御の分子機構とその生理的意義
○添田 翔[1]、大杉 美穂[2]（1.沖縄科学技術大学院大学 細胞シグナルユニット、2.東京大学総合文化研究科）
18:20 ～ 18:30

第12会場

一般口頭発表 | 3. 酵素・レドックス・生体エネルギー | 酵素・レドックス・生体エネルギー（一般口頭発表）

[3AT12] 酵素・レドックス・生体エネルギー II

座長:石森 浩一郎(北海道大学)、座長:高木 博史(奈良先端科学技術大学院大学)
09:00 ～ 11:30 第12会場 (神戸ポートピアホテル 南館 地下1階 エメラルド)

[3AT12-01（3P-0219）] パルスラジオリシス法による転写因子 SoxRの反応性評価
○田中 隆裕[1]、小林 一雄[1]、古澤 孝弘[1]（1.阪大・産研）
09:00 ～ 09:10

[3AT12-02（3P-0220）] カルノシンジペプチダーゼ2 (CN2)に結合する金属イオンと基質特異性の解析
○奥村 宣明[1]、高尾 敏文[1]（1.阪大・蛋白研）
09:10 ～ 09:20

[3AT12-03（3P-0221）] 緑膿菌由来一酸化窒素還元酵素の保存されたグルタミン酸残基の役割
○倉橋 拓也[1]、山際 来佳[1]、武田 真理子[1]、新井 博之[2]、澤井 仁美[1,3]、當舎 武彦[3]、城 宜嗣[1,3]（1.兵県大・院・生命理、2.東大院・農生科・応生工、3.理研・播磨）
09:20 ～ 09:30

[3AT12-04（3P-0222）] 仮性結核菌が持つヘム分解酵素の機能
恩塚 誠士[1]、宮川 大司[1]、下村 直道[1]、○小崎 紳一[1]（1.山口大・創成科学研究科）
09:30 ～ 09:40

[3AT12-05（3P-0223）] 亜鉛欠乏は正常な細胞外ATP代謝を妨げる
○武田 貴成[1]、宮崎 志保[1]、神戸 大朋[1]（1.京大・院生命・統合生命）
09:40 ～ 09:50

[3AT12-06（3P-0216）] ブラシノステロイド生合成における鍵酵素 CYP90B1の結晶構造及び基質の位置・立体特異的な水酸化メカニズム
○藤山 敬介[1]、日野 智也[1]、Jae Lee Hyoung[2]、水谷 正治[2]、永野 真吾[1]（1.鳥取大院・工・化学生物、2.神戸大院・農・生命機能）
09:50 ～ 10:00

[3AT12-07（3P-0224）] 蛍光プローブを用いた生体膜近傍レドックス環境の解析
○羽鳥 勇太[1]、井上 幸江[1]、赤木 玲子[1]（1.安田女子大・薬）
10:00 ～ 10:10

[3AT12-08（3P-0231）] ヤスデ由来ヒドロキシニトリルリアーゼの探索と異種発現系の

©日本分子生物学会/日本生化学会

確立

○山口 拓也[1,2,4]、伊奈 隆年[1,2]、田辺 力[3]、浅野 泰久[1,2]（1.富山県大・生工研セ、2.JST, ERATO、3.熊本大・教育、4.筑波大・生命環境）

10:10 ～ 10:20

[3AT12-09（3P-0232）] *Xanthomonas*属細菌由来β-L-アラビノフラノシダーゼの結晶構造

○澤野 孝太[1]、丸山 瞬[1]、荒川 孝俊[1]、中村 正幸[2]、石渡 明弘[3]、伊藤 幸成[3]、藤田 清貴[2]、伏信 進矢[1]（1.東大・院農・応生工、2.鹿児島大・農・食生科、3.伊藤細胞制御化学研・理研）

10:20 ～ 10:30

[3AT12-10（3P-0227）] 表皮形成におけるタンパク質架橋化酵素の機能解析

○田辺 勇輝[1]、加藤 まなみ[1]、山根 美樹[1]、高間 寛之[2]、秋山 真志[2]、辰川 英樹[1]、人見 清隆[1]（1.名大院・創薬科学、2.名大院・医）

10:30 ～ 10:40

[3AT12-11（3P-0233）] 酢酸菌膜結合型ヘテロ三量体ソルビトール脱水素酵素の分子構築：小サブユニットの役割

○藥師 寿治[1,2,3]、Wichai Soemphol[4]、Huynh Phong[5]、片岡 尚也[1,2,3]、外山 博英[6]、松下 一信[1,2,3]（1.山口大・院創成科学、2.山口大・微研セ、3.山口大・農、4.Khon Kaen Univ.、5.Can Tho Univ.、6.琉球大・農）

10:40 ～ 10:50

[3AT12-12（3P-0234）] 生理活性物質硫化水素とポリサルファイドの産生機構

○渋谷 典広[1]、小池 伸[2]、宮本 亮[1]、湯浅 磨里[1]、田中 真紀子[1]、木村 由佳[1]、高野 陽子[3]、花岡 健二郎[3]、永原 則之[5]、福井 清[4]、浦野 泰照[3]、小笠原 裕樹[2]、木村 英雄[1]（1.国立精神・神経医療研究センター・神経研、2.明治薬大・分析化学、3.東大・院薬・薬品代謝化学、4.徳島大・疾患酵素、5.日医大・アイソトープ）

10:50 ～ 11:00

[3AT12-13（3P-0235）] *Thiobacillus thioparus* THI115の硫化カルボニル加水分解酵素による COS分解の硫黄同位体分別係数の決定

○小川 貴弘[1]、服部 祥平[2]、亀崎 和輝[2]、加藤 広海[3]、吉田 尚弘[2,4]、片山 葉子[1]（1.東農工大・院農、2.東工大・物質理工学院、3.東北大・院生命、4.東工大・地球生命研）

11:00 ～ 11:10

[3AT12-14（3P-0236）] 東京のワルファリン抵抗性ラットの抵抗性獲得機序の解明：ペントースリン酸経路の亢進を通したワルファリン代謝の活性化

○武田 一貴[1]、池中 良徳[1,2]、田中 和之[3]、中山 翔太[1]、谷川 力[3]、水川 葉月[1]、石塚 真由美[1]（1.北大・院獣・毒性学、2.ノースウェスト大・環境科学、3.イカリ消毒(株)・技術研究所）

11:10 ～ 11:20

[3AT12-15（3P-0237）] D-セリンデヒドラターゼの基質となるヒト尿中未知アミノ酸の同定

○戸野 真由香[1]、伊藤 智和[1]、邊見 久[1]、吉村 徹[1]（1.名大・院・生命農学）

11:20 ～ 11:30

一般口頭発表 | 1. 糖質生物学・脂質生物学 | 糖質生物学・脂質生物学（一般口頭発表）

[3PT12] 糖質生物学・脂質生物学 III

座長:岡島 徹也(名古屋大学)、座長:舘野 浩章(産業技術総合研究所)
16:00 ～ 18:30 第12会場 (神戸ポートピアホテル 南館 地下1階 エメラルド)

[3PT12-01（3P-0036）] 赤血球前駆細胞株における新規スフィンゴシン1リン酸輸送体の同定

○小林 直木[1]、西（川崎） 晶子[2]、土井 康平[1]、三木 悠史[1]、大塚 正人[1]、山口 明人[3]、西 毅[2,4]（1.摂大・薬、2.阪大・産研、3.阪大・産研、4.阪大・院薬）

16:00 ～ 16:10

[3PT12-02（3P-0037）] スフィンゴ脂質を介した熱ストレ

©日本分子生物学会/日本生化学会

ス細胞での転写制御メカニズム
○糸瀬 邦之[1]、山銅 ゆかり[2]、岡 昌吾[1]、竹松 弘[1]（1.京大・医・人間健康、2.京大・生命科学）
16:10 ～ 16:20

[3PT12-03（3P-0038）] ω末端修飾型脂肪酸プローブを用いた脂肪酸修飾タンパク質の探索および同定
○徳永 智久[1]、渡辺 文太[1]、木村 駿作[1]、川本 純[1]、栗原 達夫[1]（1.京大・化研）
16:20 ～ 16:30

[3PT12-04（3P-0039）] 種々の脂肪酸残基を有するセラミドの化学合成とその生理活性
○辻 和樹[1]、島田 明奈[1]、宮崎 徹[1]、高橋 尚子[1]、伊賀 永里奈[1]、Rahman Md.Motiur[1]、中尾 允泰[1]、佐野 茂樹[1]、小暮 健太朗[1]、田中 保[1]（1.徳島大・院薬）
16:30 ～ 16:40

[3PT12-05（3P-0040）] チトクローム P450によるアラキドン酸代謝物の神経細胞における生理機能解析
○大黒 亜美[1]、今岡 進[1]（1.関学・理工・生命医化）
16:40 ～ 16:50

[3PT12-06（3P-0041）] リゾホスファチジン酸受容体LPA5を介した T細胞の分化運命決定機構
○丸山 貴司[1]、大戸 貴代[1]、石井 聡[1]（1.秋大・医・生体防御）
16:50 ～ 17:00

[3PT12-07（3P-0042）] Gα12/13共役型リゾホスファチジン酸受容体が調節する血管新生の分子機構
○安田 大恭[1]、石井 聡[1]（1.秋田大・院医・生体防御学）
17:00 ～ 17:10

[3PT12-08（3P-0043）] プロスタグランジン E_2は視索前野特異的に神経突起伸長を促進する
○北條 寛典[1]、吉岡 美樹[2]、土屋 裕義[3]、土屋 創健[1,4]、瀬木ー西田 恵里[5]、杉本 幸彦[1,4]（1.熊本大・薬、2.京都大・薬、3.自治医科大・医、4.AMED-CREST、5.東京理科大・基礎工）
17:10 ～ 17:20

[3PT12-09（3P-0044）] ジアシルグリセロールキナーゼη欠損による躁様行動惹起の分子メカニズム
○米野井 優[1]、坂根 郁夫[1]（1.千葉大・院理・化学）
17:20 ～ 17:30

[3PT12-10（3P-0045）] 脂質代謝酵素ジアシルグリセロールキナーゼ gammaの皮膚における機能解析
菊永 佐紀子[1]、横谷 美由希[2]、藤原 祥高[3]、上田 修司[1]、山之上 稔[1]、高岡 幸二[2]、伊川 正人[3]、○白井 康仁[1]（1.神戸大学大学院 農学研究科 応用生命化学講座 動物資源利用化学分野、2.DSR、3.大阪大・微研・附属遺伝情報実験センター・遺伝子機能解析分野）
17:30 ～ 17:40

[3PT12-11（3P-0046）] ウシ生乳中リポカリン型プロスタグランジン D合成酵素の精製と酵素学的性質ならびに乳房炎のバイオマーカーとしての検討
○長崎 祐樹[1]、川井 恵梨佳[1]、田中 充樹[1]、戸田 圭祐[1]、川上 祐生[1]、高橋 吉孝[1]、木本 眞順美[1]、三木 寿美[2,3]、山本 圭[4,5]、村上 誠[2,3,6]、山本 登志子[1]（1.岡山県大・栄養、2.東大・院医・健康環境医工学、3.都医学研、4.徳島大院・社会産業理工・生物資源産業、5.日本医療研究開発機構PRIME、6.日本医療研究開発機構AMED-CREST）
17:40 ～ 17:50

[3PT12-12（3P-0035）] 新規特発性肺線維症急性増悪モデルにおける LPA_3の保護作用
○大前 直樹[1]、大藤 瞳[1]、可野 邦行[1,2]、青木 淳賢[1,2]（1.東北大・院薬・分子細胞生化学、2.AMED-CREST）
17:50 ～ 18:00

[3PT12-13（3P-0047）] ATX-LPAシグナルは細胞間接着の形成に重要である
○木瀬 亮次[1]、新上 雄司[1]、可野 邦行[1,3]、井上 飛鳥[1,2]、青木 淳賢[1,3]

©日本分子生物学会/日本生化学会

（1.東北大・院薬・分子細胞生化学、2.PRIME、3.AMED-CREST）
18:00 ～ 18:10

[3PT12-14（3P-0073）] コレステロール結合性細菌毒素ストレプトリジン Oを用いたABCA1の機能解析
○小笠原 史彦[1]、加納 ふみ[3,4]、村田 昌之[3,4]、木村 泰久[1]、植田 和光[1,2]（1.京大・院農・応用生命科学、2.京大・物質ー細胞統合システム拠点、3.東大・院総文・広域科学、4.東工大・科学技術創成研究院・細胞制御工学研究センター）
18:10 ～ 18:20

[3PT12-15（3P-0074）] 胆汁酸構造類似体がウェルシュ菌食中毒分離株の芽胞形成に与える影響
○平田 祥太郎[1]、安木 真世[1]、中辻 匡俊[2]、乾 隆[2]、三宅 眞実[1]（1.大阪府大・生命環境・獣医公衆衛生、2.大阪府大・生命環境・生体高分子機能）
18:20 ～ 18:30

第18会場

一般口頭発表 | 6. ゲノムと遺伝情報 | ゲノムと遺伝情報（一般口頭発表）

[3AT18] ゲノムと遺伝情報 I

座長:甲斐田 大輔(富山大学)、座長:岩崎 信太郎(理化学研究所)
09:00 ～ 11:30 第18会場 (神戸国際会議場 5階 502)

[3AT18-01（3P-0673）] RNA顆粒の液相・固相様サブ構造は異なる RNA顆粒因子によって形成される
○椎名 伸之[1,2,3]（1.自然科学研究機構・岡崎統合バイオ、2.基礎生物学研究所、3.総研大）
09:00 ～ 09:10

[3AT18-02（3P-0674）] 環状 RNA（ circRNA）の核外輸送機構の解明
○芳本 玲[1]、谷口 一郎[2]、大野 睦人[2]、前田 明[1]（1.藤田保衛大・総合医科学研・遺伝子発現機構学、2.京都大・ウイルス再生医科学研・生命システム研究）
09:10 ～ 09:20

[3AT18-03（3P-0675）] 低酸素下において HIF1に制御され細胞死を抑制する新規 lncRNAの同定
○三村 維真理[1]、平川 陽亮[1]、神吉 康晴[2]、鈴木 穣[3]、田中 哲洋[1]、油谷 浩幸[4]、南学 正臣[1]（1.東大・医学部附属病院・腎臓・内分泌内科、2.東大・アイソトープセンター、3.東大・新領域・創成科、4.東大・先端研・ゲノムサイエンス）
09:20 ～ 09:30

[3AT18-04（3P-0676）] ヒト紡錘体形成を制御する新規 lncRNAの同定
○白土 玄[1]、芦川 朋子[1]、吉場 聡子[1]、豊田 敦[2]、藤山 秋佐夫[3]、北川 大樹[1]（1.遺伝研・分子遺伝、2.遺伝研・生命情報、3.遺伝研・先端ゲノミクス）
09:30 ～ 09:40

[3AT18-05（3P-0677）] 長鎖非コード RNA, MALAT1を含有する新規核内構造体を介した熱ショック応答機構の解明
○小野口(水谷) 玲菜[1]、鈴木 穣[2]、川村 猛[1]、秋光 信佳[1]（1.東大・アイソトープ総合センター、2.東大院・創域）
09:40 ～ 09:50

[3AT18-06（3P-0678）] 機能未知な新規 lncRNAを介した新たな心腎連関分子機序の解明
○熊澤 拓也[1]、中川 仁[1]、尾上 健児[1]、中田 康紀[1]、中野 知哉[1]、斎藤 能彦[1]（1.奈良医大・医・第一内科）
09:50 ～ 10:00

[3AT18-07（3P-0664）] The role of 3D localization of long non-coding RNAs in the nucleus on their function
○SAUMYA AGRAWAL[1]、Jordan Ramilowski[1]、Chung Chau Hon[1]、Chi-Wai Yip[1]、Kayoko Yasuzawa[1]、Masayoshi Ito[1,2]、Takeya Kasukawa[1]、Naoto Kondo[1]、Ken Yagi[1]、Harukazu Suzuki[1]、Christopher Cameron[3]、Josee Dostie[3]、Jay W. Shin[1]、Michiel de Hoon[1]、Piero Carninci[1]

©日本分子生物学会/日本生化学会

（1.Division of Genomic Technologies (DGT), RIKEN Center for Life Science Technologies、2.RIKEN Preventive Medicine and Diagnosis Innovation Program、3.Department of Biochemistry, McGill University, Canada.）

10:00 ～ 10:10

[3AT18-08（3P-0679）] The hpRNA/RNAi pathway resolves intragenomic conflict to preserve balanced sex ratio

○Ching-Jung Lin[1,2]、Fuqu Hu[1]、Raphaelle Dubruille[3]、Jiayu Wen[1]、Peter Smibert[1]、Benjamin Loppin[3]、Eric C. Lai[1]（1.Dept. of Dev. Biol., Sloan-Kettering Institute、2.Weill Grad. Sch. of Med. Sci., Cornell Univ.、3.Lab. de Biometrie et Biologie Evolutive., Univ. Claude Bernard Lyon I）

10:10 ～ 10:20

[3AT18-09（3P-0680）] 肝臓における miRNAを介した新規 HNF4αネットワークの解明

○秋山 萌[1]、守本 葵[1]、神成 真名[1]、土田 雄一[1]、松田 強志[1]、齊藤 千夏[1]、佐々木 翔太[1]、前田 つかさ[1]、阪口 政清[2]、Frank Gonzalez[3]、井上 裕介[1]（1.群大・院理工、2.岡山大・院総合医歯薬、3.米国NIH）

10:20 ～ 10:30

[3AT18-10（3P-0681）] シロイヌナズナ Dicer-Like 1による miRNA前駆体切断機構の解析

○平田 梨佳子[1]、真壁 智哉[1]、三柴 啓一郎[1]、小泉 望[1]、Samir Hamdan[2]、岩田 雄二[1]（1.大阪府大・生命環境、2.King Abdullah University of Science and Technology）

10:30 ～ 10:40

[3AT18-11（3P-0682）] MiR-142は small GTPase 介した好中球細胞骨格制御による黄色ブドウ球菌感染創の改善に必須である

○森 亮一[1]（1.長大・医・病理学）

10:40 ～ 10:50

[3AT18-12（3P-0683）] カイコ培養細胞において持続感染している昆虫マキュラウイルスに由来する piRNAの性状

○庄司 佳祐[1]、泉 奈津子[3]、鈴木 穣[4]、泊 幸秀[3,4]、岩永 将司[1]、勝間 進[2]（1.宇大・院農、2.東大・院農・生産環境生物学、3.東大・分生研、4.東大・院新領域・メディカル情報生命）

10:50 ～ 11:00

[3AT18-13（3P-0684）] ミトコンドリア外膜に局在する piRNA生合成因子 GasZの機能解析

○山城 はるな[1]、石津 大嗣[1]、塩見 美喜子[1]（1.東大・院理・生物科学）

11:00 ～ 11:10

[3AT18-14（3P-0685）] primary piRNA生合成における RNAヘリカーゼ Armitageの機能解析

○木下 達貴[1]、石津 大嗣[1]、塩見 美喜子[1]（1.東大・院理・生物科学）

11:10 ～ 11:20

[3AT18-15（3P-0686）] PAPIリン酸化修飾による piRNA成熟化制御機構の解明

○山田 紘実[1]、西田 知訓[1]、榊原 和洋[1]、塩見 美喜子[1]（1.東大・院理・生物科学）

11:20 ～ 11:30

一般口頭発表 | 6. ゲノムと遺伝情報 | ゲノムと遺伝情報（一般口頭発表）

[3PT18] ゲノムと遺伝情報 II

座長:大森 義裕(大阪大学)、座長:廣瀬 哲郎(北海道大学)
16:00 ～ 18:30 第18会場 (神戸国際会議場 5階 502)

[3PT18-01（3P-0547）] EBウイルス感染によるエピゲノム異常に伴うクロマチン構造変化

○岡部 篤史[1]、船田 さやか[1]、松坂 恵介[1]、南波 宏枝[1]、福世 真樹[1]、金田 篤志[1]（1.千葉大・院医・分子腫瘍学）

16:00 ～ 16:10

[3PT18-02（3P-0548）] 細胞老化システムの持つ細胞系譜特異的な遺伝子の異所性発現誘導

○富松 航佑[1]、Aled Parry[1]、Dora Bihary[2]、Ioana Olan[1]、Guy

©日本分子生物学会/日本生化学会

Slater[1]、木村 宏[3]、Shamith Samarajiwa[2]、成田 匡志[1]（1.英国癌研・ケンブリッジ大、2.英国医研・ケンブリッジ大、3.東工大・科学技術創成研究院）

16:10 ～ 16:20

[3PT18-03（3P-0549）] 非免疫沈降法 ChILT法による少数細胞のエピゲノム解析

○原田 哲仁[1]、半田 哲也[3]、野上 順平[1]、有村 泰宏[2]、関根 慧[2]、中尾 勝[3]、藤田 理紗[2]、前原 一満[1]、胡桃坂 仁志[2,3]、木村 宏[3]、大川 恭行[1]（1.九大・生医研・トランスクリプトミクス分野、2.早稲田大・院・先進理工、3.東工大・科学技術創成研究院）

16:20 ～ 16:30

[3PT18-04（3P-0550）] メダカにおける*in vivo*エピゲノム編集

○福嶋 悠人[1]、武田 洋幸[1]、中村 遼平[1]（1.東大・院理・生物科学）

16:30 ～ 16:40

[3PT18-05（3P-0551）] *Ezh2*欠損造血幹細胞維持における Ezh1 によるエピジェネティック制御

○青山 和正[1]、鈴木 瑛美[1]、大島 基彦[1]、望月一樫尾 牧子[1]、小出 周平[1]、加藤 裕子[1]、中島 やえ子[1]、指田 吾郎[1,2]、岩間 厚志[1]（1.千葉大・院医・細胞分子医学、2.熊本大・国際先端医学研究拠点施設）

16:40 ～ 16:50

[3PT18-06（3P-0552）] 上皮細胞において p53は E-cadherin遺伝子発現制御部位に結合し、 EZH2による発現抑制に拮抗する

○及川 司[1]、大塚 勇太郎[1]、小野寺 康仁[1]、堀川 芽衣[1]、橋本 あり[1]、橋本 茂[1]、鈴木 穣[2]、佐邊 壽孝[1]（1.北大・院医・分子生物学、2.東大・院新領域）

16:50 ～ 17:00

[3PT18-07（3P-0553）] Mbf1は Pacmanから E(z) mRNAを保護することでポリコームサイレンシングの堅牢性を担保している

○西岡 憲一[1]、宮崎 仁美[2]、副島 英伸[1]、広瀬 進[3]（1.佐賀大・医、2.長崎大・原研、3.遺伝研）

17:00 ～ 17:10

[3PT18-08（3P-0554）] 乳がん細胞のエレノアクロマチンドメインはシス作用性非コードRNA群とクロマチン相互作用により制御される

○山本 達郎[1]、藤原 沙織[1]、前原 一満[2]、大川 恭行[2]、三浦 尚[3]、平谷 伊智朗[4]、斉藤 典子[1,4]、中尾 光善[1]（1.熊本大・発生研・細胞医学、2.九州大・生医研、3.理研・CDB、4.がん研究会・がん研）

17:10 ～ 17:20

[3PT18-09（3P-0555）] 非コード RNA Eleanorはヌクレオソーム中のヒストンの交換を促進する

○藤田 理紗[1]、有村 泰宏[1]、山本 達郎[2]、浜田 道昭[1,3]、斉藤 典子[4]、胡桃坂 仁志[1,3,5]（1.早大・院・先進理工、2.熊大・発生研・細胞医学、3.早大・構造創薬研、4.がん研究会・がん生物部、5.早大・理工研）

17:20 ～ 17:30

[3PT18-10（3P-0556）] Suv39h1のクロモドメインの RNA認識能は H3K9me3認識能と共にヘテロクロマチン形成に関与する

○白井 温子[1]、川口 隆之[2]、村松 大輔[1]、石田 真由美[3]、木村 宏[4]、中山 潤一[2]、眞貝 洋一[1]（1.理研・眞貝細胞記憶研究室、2.基礎生物学研究所　クロマチン制御研究部門、3.理研・CDB、4.東京工業大学大学院生命理工学研究科）

17:30 ～ 17:40

[3PT18-11（3P-0557）] ショウジョウバエの Piwi-piRNA経路における Panoramix/Silencio-Nxf2複合体の機能

○村野 健作[1]、岩崎 由香[1]、益子 あかね[1,2]、塩見 春彦[1]（1.慶應義塾大・医・分子生物学、2.横浜国大・物質工学）

17:40 ～ 17:50

©日本分子生物学会/日本生化学会

[3PT18-12（3P-0558）] Zscan10はマウス ES細胞においてトランスポゾン領域のサイレンシングを抑制する
○山根 万里子[1]、市川 巧[1]、丹羽 仁史[1]（1.熊大・発生研・多能性幹細胞）
17:50 ～ 18:00

[3PT18-13（3P-0559）] 生殖細胞においてトランスポゾンに富んだ染色体領域が一過的に緩む
○山中 総一郎[1]、Sung-Joon Park[2]、渋谷 あおい[1]、Piero Carninci[3]、中井 謙太[2]、塩見 春彦[1]（1.慶応大・医・分子生物、2.東大・医科研・ヒトゲノム解析センター、3.理研・ライフサイエンス技術基盤研究センター・機能性ゲノム解析部門）
18:00 ～ 18:10

[3PT18-14（3P-0560）] Atf7ipによる外来性および内在性レトロウイルス抑制機構の解析
○加藤 雅紀[1]、津坂 剛史[1]、福田 渓[1]、遊佐 宏介[2]、眞貝 洋一[1]（1.理研・眞貝細胞記憶、2.Wellcome Trust Sanger Inst.）
18:10 ～ 18:20

[3PT18-15（3P-0702）] Peg10のプロテアーゼ変異は後期胎盤の形成異常ならびに出生前後致死を引き起こす
○志浦 寛相[1]、小野 竜一[2]、立花 沙織[1]、田中 希弥[1]、金児一石野 知子[3]、石野 史敏[1]（1.東京医歯大・難研、2.国立医薬品食品衛生研究所、3.東海大・健康科学）
18:20 ～ 18:30

第19会場

一般口頭発表 | 4. 細胞の構造と機能 | 細胞の構造と機能（一般口頭発表）

[3PT19] 細胞の構造と機能 I

座長:中野 裕康(東邦大学)、座長:清水 重臣(東京医科歯科大学)
16:00 ～ 18:30 第19会場 (神戸国際会議場 5階 504+505)

[3PT19-01（3P-0316）] オートファゴソーム形成の生細胞観察と物理モデル構築
○小山一本田 郁子[1]、立川 正志[2]、境 祐二[1,2]、田村 律人[1,3]、望月 敦史[2]、水島 昇[1]（1.東大・院医・分子生物学、2.理研、3.医歯大・院医歯学総合）
16:00 ～ 16:10

[3PT19-02（3P-0317）] アミノ酸飢餓により誘導されるオートリソソームの成熟機構
○杤津 芳彦[1]、藤田 尚信[1]、福田 光則[1]（1.東北大院・生命・膜輸送機構解析）
16:10 ～ 16:20

[3PT19-03（3P-0318）] 脂質化に依存しない Atg8の機能および新規ヘリックス様Atg8結合モチーフの解析
○山崎 章徳[1]、Liu Xiao-Man[2]、Du Li-Lin[2]、野田 展生[1]（1.(公財)微生物化学研究会、2.北京生命科学研究所）
16:20 ～ 16:30

[3PT19-04（3P-0319）] ノックアウトマウスを用いた選択的オートファジー基質の探索
○栗川 義峻[1]、大出 晃士[2]、上田 泰己[2,3]、水島 昇[1]（1.東大・院医・分子生物、2.東大・院医・システムズ薬理、3.理研・QBiC）
16:30 ～ 16:40

[3PT19-05（3P-0320）] ゼブラフィッシュを用いたオートファジー関連因子群の in vivo機能解析
○森下 英晃[1]、水島 昇[1]（1.東大・医・分子生物）
16:40 ～ 16:50

[3PT19-06（3P-0321）] リソソームに局在する c-Srcによる LC3量の変化
○鈴木 亘[1]、本田 拓也[1]、平田 健介[1]、高倉 勇気[1]、赤津 亜希[1]、安藤 充岐[1]、山口 憲孝[1]、山口 直人[1]（1.千葉大院薬・分子細胞生物学）
16:50 ～ 17:00

[3PT19-07（3P-0322）] ネッタイツメガエルの変態における*atg5*と*atg7*の関与
○重田 美津紀[1]、山本 卓[1]、鈴木 賢一[1]（1.広大・院理・数理分子生命理学）
17:00 ～ 17:10

[3PT19-08（3P-0392）] 細胞競合の勝敗を規定する組織環境条件の遺伝学および数理学的解

©日本分子生物学会/日本生化学会

析

○片山 宰[1]、西川 星也[2]、大澤 志津江[1]、高松 敦子[2]、井垣 達吏[1]
（1.京大・生命・高次、2.早大・院先進理工・電気情報生命）

17:10 ～ 17:20

[3PT19-09（3P-0393）] 細胞競合における貪食受容体の役割

○永長 一茂[1]、西 千恵子[2]、中井 雄治[1]、野中 さおり[3]、中西 義信[3]
（1.弘前大・食料研、2.金沢大・医薬保、3.金沢大・院医薬保）

17:20 ～ 17:30

[3PT19-10（3P-0394）] 細胞脱落時における上皮バリア維持機構の解析

○中井 彩香[1]、山田 信人[1]、早矢仕 健留[1]、川根 公樹[1,2]（1.京産大・院生科、2.JSTさきがけ）

17:30 ～ 17:40

[3PT19-11（3P-0395）] 酸化ストレス強度依存的な細胞死パターンシフトの解析

○西田 卓人[1]、名黒 功[1]、一條 秀憲[1]
（1.東大・院薬・細胞情報）

17:40 ～ 17:50

[3PT19-12（3P-0396）] Bach1によるフェロトーシス誘導と細胞老化抑制による細胞運命の二極化

○西澤 弘成[1]、松本 光代[1]、進藤 智彦[2]、三枝 大輔[3]、蝦名 真行[1]、下川 宏明[2]、五十嵐 和彦[1]（1.東北大・医学系研究科・生物化学、2.東北大・医学系研究科・循環器内科学、3.東北メディカルメガバンク機構）

17:50 ～ 18:00

[3PT19-13（3P-0397）] Caspase-8は RIPK1とRIPK3を介してレチノイン酸が誘導するネクロプトーシスと細胞分化を制御する

○染田 真孝[1]、黒木 俊介[2]、立花 誠[2]、米原 伸[1]（1.京大・院・生命科学、2.徳島大・疾患酵素学研究センター）

18:00 ～ 18:10

[3PT19-14（3P-0398）] MIND BOMB-2は cFLIP$_L$をユビキチン化することで細胞死を抑制する

○中林 修[1]、高橋 宏隆[2]、澤崎 達也[2]、吉田 雪子[3]、佐伯 泰[4]、中野 裕康[1]
（1.東邦・医・生化、2.愛媛・PROS・無細胞生命科学、3.医総研・ユビキチンプロジェクト、4.医総研・蛋白質代謝）

18:10 ～ 18:20

[3PT19-15（3P-0399）] 細胞死 DNA断片化とクロマチン凝集の生成メカニズムと生理的意義

○木島 真理恵[1]、河野 莉穂[1]、渡邊 太樹[1]、水田 龍信[1]（1.理科大・生命・生命科学）

18:20 ～ 18:30

第25会場

一般口頭発表 | 11. バイオテクノロジー、新領域、進化 | バイオテクノロジー、新領域、進化（一般口頭発表）

[3AT25] バイオテクノロジー、新領域、進化 I

座長:増井 良治(大阪市立大学)、座長:美川 務(理化学研究所)
09:00 ～ 11:30 第25会場 (神戸商工会議所 3階 神商ホールB)

[3AT25-01（3P-1417）] Time-resolved fluorescence resonance energy transfer法により同定した低分子 claudin-4 binderの機能解析

○坂本 雄太[1]、渡利 彰浩[1]、小高 美樹[1]、久家 広大[1]、八木 清仁[1]、近藤 昌夫[1]（1.阪大・院薬）

09:00 ～ 09:10

[3AT25-02（3P-1418）] エンドメンブレンを標的としたタンパク質局在移行誘導化合物の創製と Rasシグナル制御

○澤田 隼佑[1]、片平 莉香[1]、中村 彰伸[2]、吉井 達之[2]、築地 真也[2,3]（1.長岡技科大・院工・生物、2.名工大・院工・生命応用化学、3.名工大・フロンティア）

09:10 ～ 09:20

[3AT25-03（3P-1419）] がん細胞の代謝がもたらす組織微小環境を標的にしたがん治療

○豊本 雅靖[1]、井上 飛鳥[2]、飯田 慶[1]、出縄 政嗣[1]、喜井 勲[1]、林 佳子[1]、岸 貴之[2]、小野木 博[1]、吉田 優[3]、細谷 孝充[3]、青木 淳賢[2]、萩原 正敏[1]（1.京大・院医、2.東北大・院

©日本分子生物学会/日本生化学会

薬、3.医科歯科大・生体材料）
09:20 ～ 09:30

[3AT25-04（3P-1439）] 蛍光分子の明滅計測による細胞内微小環境のマルチモーダルイメージング
○高田 涼子[1]、岡部 弘基[1,2]、菅原 皓[1]、船津 高志[1]（1.東大・院薬・薬科学、2.JSTさきがけ）
09:30 ～ 09:40

[3AT25-05（3P-1440）] 計画的ネクローシスをモニターする FRETバイオセンサーによる DAMPs放出メカニズムの解明
○村井 晋[1]、山口 良文[2,5]、白崎 善隆[3]、中林 修[1]、三浦 亮介[1,4]、冨田 太一郎[5]、赤羽 悟美[5]、三浦 正幸[2]、中野 裕康[1,6]（1.東邦大学・医学部・生化学講座、2.東京大学・薬学系研究科・遺伝学教室、3.東京大学・理学系研究科・1分子遺伝学研究室、4.東京理科大学・基礎工学研究科・生物工学専攻、5.東邦大学・医学部・生理学講座・統合生理学分野、6.東邦大学・医学部・生体防御基盤研究センター）
09:40 ～ 09:50

[3AT25-06（3P-1441）] 放射線被ばく細胞のデュアル蛍光レポーターイメージングシステムの構築
○須藤 仁美[1]、須堯 綾[1]、相良 雅史[2]、辻 厚至[1]、東 達也[1]（1.量研機構・放医研・分子イメ、2.量研機構・放医研・被ばく医療）
09:50 ～ 10:00

[3AT25-07（3P-1442）] 生体イメージング技術による時空間情報を保持した１細胞遺伝子解析
○尾上 ひかる[1,2]、菊田 順一[1,2]、粟生 智香[1,2]、内田 穣[1,2]、石井 優[1,2]（1.阪大・院生命機能・免疫細胞生物学、2.JST CREST）
10:00 ～ 10:10

[3AT25-08（3P-1443）] 匂い受容体発現細胞パネルよる気相中の匂い分子検出および識別手法の開発
○福谷 洋介[1,2]、木田 仁[2,3]、Vihani Aashutosh[5]、Mainland Joel[4]、亀田 正治[3]、養王田 正文[1]、松波 宏明[2,5]（1.農工大・院工・生命工、2.デューク大・医・分子遺伝、3.農工大・院工・機械、4.モネル化学感覚研究所、5.デューク大・医・神経生物）
10:10 ～ 10:20

[3AT25-09（3P-1444）] スパースモデリングを用いたライブイメージング技術の改善
○曽我部 舞奈[1,2]、大関 真之[3]、瀬原 淳子[1,2]（1.京大・院医・医学、2.京大・ウイルス再生研、3.東北大・院情報・応用情報）
10:20 ～ 10:30

[3AT25-10（3P-1445）] 血管内皮細胞の YAPは流れによる機械的刺激に応答してゼブラフィッシュの血管安定化に寄与する
○中嶋 洋行[1]、望月 直樹[1,2]（1.国循セ研・細胞生物、2.AMED-CREST）
10:30 ～ 10:40

[3AT25-11（3P-1446）] 三量体 Gタンパク質の活性化センサーの開発
井上 飛鳥[1,2]、○Francois Marie Kadji[1]、川上 耕季[1]、青木 淳賢[1,3]（1.東北大・院薬・分子細胞生化学、2.AMED・PRIME、3.AMED・AMED-CREST）
10:40 ～ 10:50

[3AT25-12（3P-1447）] ナノダイヤモンドを用いた生体分子の一分子動態計測
○藤咲 貴大[1]、五十嵐 龍治[2]、源城 拓哉[1]、白川 昌宏[1]（1.京大・工院・分子工学、2.さきがけ）
10:50 ～ 11:00

[3AT25-13（3P-1448）] 小胞体におけるコラーゲンとその特異的分子シャペロン間の相互作用の検出と阻害
○伊藤 進也[1]、永田 和宏[1,2]（1.京産大・タンパク質動態研、2.京産大・総合生命）
11:00 ～ 11:10

[3AT25-14（3P-1449）] 生きたマウス体内の線維化イメージングモデル系の開発
○三輪 佳宏[1,2]、森 夕海[3]、田中 順子

©日本分子生物学会/日本生化学会

[1]、逆井 智貴[3]、水野 聖哉[1,2]、杉山 文博[1,2]、 村谷 匡史[1]、高橋 智[1,2]
（1.筑波大・医学医療系、2.筑波大・実験動物セ、3.筑波大・人間総合）
11:10 ～ 11:20

[3AT25-15（3P-1450）] ペキソファジー高感度可視化方法の分子基盤の確立

○谷田 以誠[1]、上野 隆[2]、小池 正人[1]
（1.順大・医・神経生物、2.順大・医・研究基盤セ・生体分子）
11:20 ～ 11:30

一般口頭発表 | 10. 植物、農生物学、食品科学 | 植物、農生物学、食品科学（一般口頭発表）

[3PT25] 植物、農生物学、食品科学

座長:矢澤 隆志(旭川医科大学)、座長:佐藤 貴弘(久留米大学)
16:00 ～ 18:30 第25会場 (神戸商工会議所 3階 神商ホールB)

[3PT25-01（3P-1230）] イネの表皮分化に関わる受容体型プロテインキナーゼ遺伝子*OSNION4*の同定

菊池 達也[1]、小暮 恵太[1]、小松 陽花[2,3]、佐藤 菜々[2,4]、高橋 ほなみ[1]、○伊藤 幸博[1,2] （1.東北大・農、2.東北大・科学者の卵養成講座、3.現・東北大・工、4.現・東北大・理）
16:00 ～ 16:10

[3PT25-02（3P-1272）] 金時草由来のメラトニン合成酵素SNAT及びCOMTの単離と酵素学的解析

○金澤 直子[1]、金崎 由穂[1]、海老原 充[1] （1.石川県大）
16:10 ～ 16:20

[3PT25-03（3P-1260）] トマトモザイクウイルスの増殖過程におけるタバコの膜タンパク質レモリンの関与

○高島 永太[1]、丹生谷 博[2]、松下 保彦[3]、佐々木 信光[3] （1.農工大・院農・応用生命化学、2.早稲田大・創造理工、3.農工大・遺伝子実験施設）
16:20 ～ 16:30

[3PT25-04（3P-1261）] 酢酸を利用して乾燥に対抗する植物の新規生存戦略

○金 鍾明[1]、藤 泰子[2]、関 原明[1,3,4]
（1.理研・環境資源センター、2.東大院・理、3.横市大院・木原生研、4.CREST JST）
16:30 ～ 16:40

[3PT25-05（3P-1231）] トリアシルグリセロールリパーゼSDP1の発現抑制はダイズの脂質含量と脂肪酸組成を改良する

○金井 雅武[1]、山田 哲也[2]、林 誠[3]、真野 昌二[1,4]、西村 幹夫[1]
（1.基礎生物学研究所、2.北海道大学、3.長浜バイオ大学、4.総合研究大学院大学）
16:40 ～ 16:50

[3PT25-06（3P-1246）] 多検体 RNA-seqを用いた野外におけるイネの環境応答予測

○鹿島 誠[1]、齊藤 大樹[2]、岩山 幸治[3]、手塚 あゆみ[1]、出口 亜由美[1]、永野 惇[4,5] （1.龍大・食農研、2.京大・院農、3.滋賀大・データサイエンス教育研究センター、4.龍大・学農・植物生命科学、5.JST, CREST）
16:50 ～ 17:00

[3PT25-07（3P-1247）] バイオマス植物ソルガムにおけるマルチトランスクリプトーム解析

○蒔田 由布子[1]、川島 美香[1]、栗山 朋子[1]、嶋田 勢津子[1]、松井 南[1]
（1.理研・CSRS・合成ゲノミクス）
17:00 ～ 17:10

[3PT25-08（3P-1278）] Effectiveness of Electrical Conductivity for Diagnosing Subclinical Mastitis in Dairy Cows

○T Navishka Bandara Abeyratna Kobbekaduwa Kobbekaduwa Walawwe[1]、M.S. Kurukulasuriya[1]、U.L.P. Mangalika[2]
（1.Department of Animal Science, Uva Wellassa University, Sri Lanka、2.Veterinary Research Institute, Sri Lanka）
17:10 ～ 17:20

[3PT25-09（3P-1279）] フタホシコオロギ*Gryllus bimaculatus*における交尾と卵巣摘出によるタンパク質選好性行動と脂肪体の代謝変化の関連性

○塚本 悠介[1]、永田 晋治[1]
（1.東大・院新領域・先端生命科

©日本分子生物学会/日本生化学会

学）
17:20 ～ 17:30

[3PT25-10（3P-1280）] 植物性食物内の鉄キレート化合物による小腸の鉄吸収効果
○村田 佳子[1]、吉田 雅美[1]、渡辺 健宏[1]、難波 康祐[2]、佐治 英郎[3]、木村 寛之[4]（1.公益財団法人サントリー生科財団・生有研、2.徳島大・院医歯薬学・有機合成薬学、3.京大・薬学・病態機能分析学、4.京都薬科大・代謝分析学）
17:30 ～ 17:40

[3PT25-11（3P-1281）] 食品中に含まれる匂い（香り）物質ヘキサナールのヒト血清アルブミンへの結合
○小林 葉子[1]（1.桐生大・医療保健・栄養）
17:40 ～ 17:50

[3PT25-12（3P-1282）] 抗筋萎縮ペプチド Cblnを高含有するコメの開発とモデル動物を用いた投与試験
○赤間 一仁[1]、金崎 雅子[1]、鳥越 奈津子[1]、高林 綾子[1]、佐々木 礼菜[1]、西川 彰男[1]、二川 健[2]（1.島根大・生資・生物科、2.徳島大・院・IBS）
17:50 ～ 18:00

[3PT25-13（3P-1283）] 白色脂肪細胞のベージュ化を伴うサンショウの抗肥満効果の解析
○井原 勇人[1]、竹島 健[1]、門脇 昭夫[2]、山下 雅礼[2]、大西 紗与[2]、岸田 邦博[3]、我藤 伸樹[2]、赤水 尚史[1]（1.和医大・RI実験施設 / 第一内科、2.中野BC・食品科学研究所、3.近大・生物理工）
18:00 ～ 18:10

[3PT25-14（3P-1284）] SIRT1を増強するアンチエイジング乳酸菌の機能性
○阿部 佳世子[1]、山口 大貴[1]、味志 美穂[2]、片倉 喜範[3]（1.九大院・システム生、2.九大院・生資環、3.九大院・農院）
18:10 ～ 18:20

[3PT25-15（3P-1285）] 健康的日本食の成分解析とその応用
○都築 毅[1]、坂本 有宇[1]、岩垣 ゆい[1]、菅原 沙恵子[1]、山本 和史[1]（1.東北大・院・農）
18:20 ～ 18:30

第26会場

一般口頭発表 | 8. 疾患生物学 | 疾患生物学（一般口頭発表）

[3AT26] 疾患生物学 III

座長:岡本 康司(国立がん研究センター研究所)、座長:池田 和博(埼玉医科大学)
09:00 ～ 11:30 第26会場 (神戸商工会議所 3階 第1+2会議室)

[3AT26-01（3P-0900）] 血小板における ASK1がADP受容体 $P2Y_{12}$のリン酸化を介して肺へのがん転移を制御する
○神山 美樹[1]、名黒 功[1]、一條 秀憲[1]（1.東大・院薬・細胞情報）
09:00 ～ 09:10

[3AT26-02（3P-0901）] がん-マクロファージ間相互作用を標的とした新規がん免疫療法の開発
○村田 陽二[1]、柳田 匡彦[1]、田中 大介[1]、羽間 大祐[1]、齊藤 泰之[1]、小谷 武徳[1]、大西 浩史[2]、的崎 尚[1]（1.神戸大・院・医・シグナル統合学、2.群馬大・院・保健学・生体情報検査科学）
09:10 ～ 09:20

[3AT26-03（3P-0902）] Mg2+トランスポーター CNNM4は大腸での発がんを抑制する
○山崎 大輔[1]、長谷川 綾郁[1]、船戸 洋佑[1]、三木 裕明[1]（1.大阪大・微研・細胞制御）
09:20 ～ 09:30

[3AT26-04（3P-0903）] 核小体による細胞分裂制御と癌治療戦略
○河原 康一[1]、川畑 拓斗[1,2]、下川 倫子[1]、古川 龍彦[1]（1.鹿児島大・院医歯・分子腫瘍学、2.鹿児島大・院理工・システム情報）
09:30 ～ 09:40

[3AT26-05（3P-0904）] 悪性中皮腫における BAP1遺伝子変異に対する合成致死遺伝子の網羅的探索
○村上（渡並） 優子[1]、天野 美希[1,2]、小木曽 杏奈[1,2]、清成 信一[3]、紅 朋浩[4]、金田 典雄[2]、門松 健治[3]、村

上 浩士[5]、関戸 好孝[1]（1.愛知がんセ・分子腫瘍、2.名城大・薬・生体機能分析学、3.名大・院医・分子生物、4.名大・院医・オミクス、5.中大・理工・分子細胞遺伝）

09:40 ～ 09:50

[3AT26-06（3P-0905）] 様々な動物モデルを用いたWntシグナル調節異常による発がん機構の解析

○簗山 忠維[1]、Jihoon Kim[2]、増田 隆昌[4]、寺井 小百合[1]、高橋 秀尚[1]、石谷 太[3,4]、Bon-Kyoung Koo[2]、畠山 鎮次[1]（1.北大・院医・医化学、2.Stem Cell Inst, Univ. of Canbridge、3.群大・生調研・個体統御システム、4.九大・生医研・細胞統御システム）

09:50 ～ 10:00

[3AT26-07（3P-0906）] 慢性的低酸素環境はピルビン酸脱水素酵素 PDHの発現を低下させてがん細胞の解糖系に依存した代謝を誘導する

與那城 亮[1]、和氣 正樹[2]、武田 憲彦[2]、○中山 恒[1]（1.東京医科歯科大・難治研・低酸素、2.東大・院医・循環器内科）

10:00 ～ 10:10

[3AT26-08（3P-0907）] BRCA2ノックダウン細胞に対するパクリタキセルによる合成致死誘導機構の解明

○山田 翔太[1]、高岡 美帆[1]、中西 啓[1]、三木 義男[1,2]（1.東京医科歯科大・難研・分子遺伝、2.癌研・研・遺伝子診断）

10:10 ～ 10:20

[3AT26-09（3P-0908）] 前立腺がん細胞由来の細胞外小胞顆粒による骨転移分子機構の解明

○占部 文彦[1,2]、小坂 展慶[1]、吉岡 祐亮[1]、竹下 文隆[3]、頴川 晋[2]、落谷 孝広[1]（1.国立がん研セ・研・分子細胞治療、2.慈恵・医・泌尿器、3.国立がん研セ・研・FIOC）

10:20 ～ 10:30

[3AT26-10（3P-0909）] 三層マルチオミクスによるHER2陽性乳癌のトラスツズマブ感受性マーカーの同定

○山下 聡[1]、服部 奈緒子[1]、藤井 誠志[2]、永野 玲子[1]、木村 佳奈[1]、向井 博文[3]、牛島 俊和[1]（1.国がん研セ・研・エピゲノム、2.国がん研セ・先端医療開発セ、3.国がん研セ・東病院）

10:30 ～ 10:40

[3AT26-11（3P-0910）] Abcg2を発現するMDS/AML細胞は骨髄間質細胞の骨芽細胞への分化障害を引き起こし骨形成を阻害する

○林 康貴[1]、川畑 公人[1,2]、上原 康史[3]、田中 洋介[1]、國崎 祐哉[4]、合山 進[1]、新井 文用[4]、北村 俊雄[1]（1.東大・医科研・細胞療法、2.コーネル大、3.九大・病態修復内科、4.九大・幹細胞再生修復医学）

10:40 ～ 10:50

[3AT26-12（3P-0911）] ユビキチンリガーゼ FBXL5による鉄代謝制御と肝がん抑制

○武藤 義治[1]、西山 正章[1]、諸石 寿朗[1]、中山 敬一[1]（1.Med. Insti. of Bioreg., Univ. of Kyushu）

10:50 ～ 11:00

[3AT26-13（3P-0912）] NRF2活性化は Kras変異を伴う肺腺がんへの炎症細胞浸潤を促進する

○林 真貴子[1]、久我 有祐美[1]、本橋 ほづみ[3]、鈴木 未来子[2]、山本 雅之[1]（1.東北大・院医・医化学、2.東北大・医・RIセンター、3.東北大・加齢研・遺伝子発現制御）

11:00 ～ 11:10

[3AT26-14（3P-0913）] 細胞間コミュニケーションによるがん進展制御

○榎本 将人[1,3]、本田 直樹[2]、武本 花奈美[3]、竹本 大策[1]、井垣 達吏[1,3]（1.京大院・生命・システム機能、2.京大院・医・イメージング、3.京大院・薬・生理活性）

11:10 ～ 11:20

[3AT26-15（3P-0914）] オルガノイド培養法による腫瘍内不均一性の高精度分子進化学的解析

©日本分子生物学会/日本生化学会

○佐々木 伸雄[1,2,3,4]、Hans Clevers[1,5]（1.オランダ・フブレクト研、2.慶應大・医学部・消化器内科、3.AMED-CREST、4.ロッテ重光財団、5.オランダ・マキシマ女王センター）

11:20 ～ 11:30

一般口頭発表 | 8. 疾患生物学 | 疾患生物学（一般口頭発表）

[3PT26] 疾患生物学 IV

座長:稲垣 毅(群馬大学)、座長:田中 智洋(名古屋市立大学)
16:00 ～ 18:30 第26会場 (神戸商工会議所 3階 第1+2会議室)

[3PT26-01（3P-1057）] 単一の個人から分離された線維芽細胞及びその細胞から作製したiPS細胞のエピジェネティッククロックの解析

○堀江 信之[1]、加治 和彦[2,3]、高橋 和利[4]（1.名古屋女子大・家政・食物栄養、2.日本薬科大・生命医療薬学分野、3.（株）コーセー、4.京大・iPS研究所）

16:00 ～ 16:10

[3PT26-02（3P-1058）] 線虫における寿命を制御するインスリン/IGF-1シグナルの組織間コミュニケーションの解析

○谷 侑利[1]、宇野 雅晴[1]、栗原 拓也[1]、安部 亮次[1]、西田 栄介[1]（1.京大・生命）

16:10 ～ 16:20

[3PT26-03（3P-1059）] Mg^{2+}トランスポーターCNNMは線虫でROSレベルと寿命を調節する

○橋爪 脩[1]、船戸 洋佑[1]、三木 裕明[1]（1.阪大・微研・細胞制御分野）

16:20 ～ 16:30

[3PT26-04（3P-1060）] JAG1-Notchシグナルの活性化を介した Ras/Raf 誘導性早期細胞老化誘導機構

○眞野 恭伸[1]、福世 真樹[1]、山中 遼太[2]、岡部 篤史[1]、油谷 浩幸[2]、金田 篤志[1,2,3]（1.千葉大・院医・分子腫瘍、2.東大・先端研・ゲノムサイエンス、3.AMED CREST）

16:30 ～ 16:40

[3PT26-05（3P-1159）] 細胞老化の除去による肺気腫病変の抑制

三河 隆太[1]、○杉本 昌隆[1,2]（1.国立長寿研、2.名大・院医・老化基礎科学）

16:40 ～ 16:50

[3PT26-06（3P-1061）] カルパインファミリーは動脈硬化病変を制御する

○宮崎 拓郎[1]、礪波 一夫[2]、秦 勝志[3]、相内 敏弘[4]、大西 紘二[5]、雷 小峰[1]、金山 朱里[1]、竹屋 元裕[5]、板部 洋之[4]、反町 洋之[3]、栗原 裕基[2]、宮崎 章[1]（1.昭和大・医・生化学、2.東大・院医・代謝生理化学、3.都医学研・生体分子・カルパイン、4.昭和大・薬・生物化学、5.熊大院・医・細胞病理）

16:50 ～ 17:00

[3PT26-07（3P-1062）] 甲状腺ホルモン結合蛋白μ-Crystallinの欠損は高脂肪食下でマウスに肥満を引き起こす

○大久保 洋輔[1,2]、関戸 貴志[1]、関戸 恵子[1]、北原 順一郎[1]、柴田 有亮[1]、西尾 真一[1,2]、駒津 光久[1]、鈴木 悟[3]（1.信大・医・糖尿病内分泌代謝、2.信大・医・次代クラスター、3.福島医大・放医健康管理センター）

17:00 ～ 17:10

[3PT26-08（3P-1063）] CNPの肥満における新たな作用-抗炎症、インスリン抵抗性改善、白色脂肪組織の Beige化作用

○日野 純[1]、ベ チョロン[1]、細田 洋司[2]、孫 徹[3,4]、槙野 久士[3]、徳留 健[1]、冨田 努[3,5]、細田 公則[3]、宮里 幹也[1]、寒川 賢治[1]（1.国立循環器病研究センター・研・生化学、2.国循・研・再生医療、3.国循・病院・動脈硬化・糖尿病、4.国循・創薬オミックスセンター、5.国循・バイオバンク）

17:10 ～ 17:20

[3PT26-09（3P-1064）] 生体内における CREG1の褐色脂肪化促進作用の検討

○橋本 理尋[1]、楠堂 達也[2]、竹内 環[1]、山下 均[1]（1.中部大・生命医科、2.帝塚山学院大・人間科学）

17:20 ～ 17:30

©日本分子生物学会/日本生化学会

[3PT26-10（3P-1065）] プロリン異性化酵素 Pin1を介した脂肪細胞機能の制御と肥満発症への関与

○中津 祐介[1]、山本屋 武[1]、上田 晃司[1]、井上 由貴[1]、井上 賢紀[1]、松永 泰花[1]、浅野 知一郎[1]（1.広島大院・医歯薬保・医化学）

17:30 ～ 17:40

[3PT26-11（3P-1464）] Long-term adaptation to a specific food condition may be sufficient to explain the major changes of life-history evolution.

○Lucas Trindade[1]、Toshiro Aigaki[2]、Kazutaka Akagi[1]（1.Aging Homeostasis Research Project Team, NCGG、2.Dept. of Biol. Sci., Tokyo Metropolitan Univ.）

17:40 ～ 17:50

[3PT26-12（3P-1066）] メトホルミンは HMGB1 に直接結合しその炎症促進作用を抑制する

○坂田 菜摘[1]、堀内 崇弘[1]、鳴海 善洋[1]、木村 朋寛[1]、林 隆史[2]、長野 圭介[2]、劉 克約[3]、西堀 正洋[3]、突田 壮平[4]、山田 哲也[4]、片桐 秀樹[4]、白川 龍太郎[1]、堀内 久徳[1]（1.東北大・加齢研・基礎加齢研究、2.大塚製薬、3.岡山大・院医歯薬・薬理、4.東北大・院医・糖尿病代謝）

17:50 ～ 18:00

[3PT26-13（3P-1067）] 腸特異的胆汁酸受容体活性化による１型、２型糖尿病制御

○吉原 栄治[1,3]、Sungsoon Fang[1,3]、Chun Shi Lin[1]、Ting Fu[1]、Zong Wei[1]、Jae Myoung Suh[1]、Ruth Yu[1]、Ann Atkins[1]、Michael Downes[1]、Ronald Evans[1,2]（1.遺伝子発現制御、ソーク研究所、2.ハワードヒューズ医学研究所、3.Equally contribution）

18:00 ～ 18:10

[3PT26-14（3P-1068）] FGF19による非アルコール性脂肪肝炎（ NASH）改善作用の分子機構

○土田 芽衣[1]、山田 真佑花[1]、高橋 未来[1]、平田 祐介[1]、宮田 昌明[2]、吉成 浩一[1,3]、野口 拓也[1]、松沢 厚[1]（1.東北大・院薬・衛生化学、2.水大校・食品科学、3.静岡県立大・院薬）

18:10 ～ 18:20

[3PT26-15（3P-1069）] Regnase-1は鉄代謝関連のmRNAを分解することで鉄恒常性を維持する

○吉永 正憲[1]、三野 享史[1]、竹内 理[1]（1.京都大学 ウイルス・再生医科学研究所）

18:20 ～ 18:30

©日本分子生物学会/日本生化学会

2017年12月9日(土)

第1会場

一般口頭発表 | 2. タンパク質 | タンパク質（一般口頭発表）

[4LT01] タンパク質 II

座長:佐伯 泰(東京都医学総合研究所)、座長:村田 茂穂(東京大学)
11:45 ～ 13:15 第1会場 (神戸ポートピアホテル 本館 地下1階 偕楽1)

[4LT01-01（3P-0147）] 高浸透圧ストレス応答におけるプロテアソーム依存的な ASK3不活性化機構とその意義
○周 翔宇[1]、渡邊 謙吾[1]、一條 秀憲[1]（1.東大・院薬・細胞情報）
11:45 ～ 11:55

[4LT01-02（3P-0158）] 2種類のユビキチンリガーゼを介した癌抑制遺伝子STK11/LKB1の新たな発現量調節機構
○高橋 祐介[1]、平田 祐介[1]、野口 拓也[1]、松沢 厚[1]（1.東北大・院薬・衛生化学）
11:55 ～ 12:05

[4LT01-03（3P-0159）] LUBACユビキチンリガーゼの複合体安定性、機能における新規相互作用の役割
○藤田 宏明[1]、徳永 暉[2]、白川 昌宏[2]、岩井 一宏[1]（1.京大院・医・細胞機能、2.京大院・工・分子工）
12:05 ～ 12:15

[4LT01-04（3P-0160）] LUBAC活性を制御する新規RING型ユビキチンリガーゼの機能解析
○阿部 貴則[1]、後藤 栄治[1]、及川 大輔[1]、高橋 宏隆[2]、堀居 拓郎[3]、寺脇 正剛[1]、畑田 出穂[3]、澤崎 達也[2]、徳永 文稔[1]（1.大阪市立大学・大学院医学研究科・分子病態学、2.愛媛大学・プロテオサイエンスセンター、3.群馬大学・生体情報ゲノムリソースセンター）
12:15 ～ 12:25

[4LT01-05（3P-0276）] SUMOとユビキチンによる不完全ポリペプチド鎖の核内凝集と離散の制御
松尾 花佳[1]、魚住 直毅[1]、松本 蛍[1]、○斉藤 寿仁[1,2]（1.熊大・理・生物、2.熊大・院・先端科学・生物）
12:25 ～ 12:35

[4LT01-06（3P-0148）] 異なる細胞内分解経路に関わるCFTR 変異体のポリユビキチン化修飾解析
○原 寛幸[1]、遠藤 彬則[2]、寺川 真奈[1]、加藤 知希[1]、駒田 雅之[2]、沖米田 司[1]（1.関学大・理工・生命医化学、2.東工大・理工・生命理工）
12:35 ～ 12:45

[4LT01-07（3P-0161）] ライソゾームに局在するユビキチンリガーゼ RNF182はアミノ酸トランスポーター LAT1の輸送を調節する
○金子 雅幸[1]、郭 暁鵬[1]、今泉 和則[1]（1.広島大・院医歯薬保・分子細胞情報学）
12:45 ～ 12:55

[4LT01-08（3P-0149）] SCF^{FBXO27}による損傷リソソームから細胞質へ露出した糖蛋白質のユビキチン化はリソファジーの引き金となる
○吉田 雪子[1]、安田 さや香[2]、藤田 敏治[3]、濱崎 万穂[3]、村上 有沙[1]、川脇 純子[1]、岩井 一宏[4]、佐伯 泰[2]、吉森 保[3]、松田 憲之[1]、田中 啓二[2]（1.都医学研・ユビキチン、2.都医学研・蛋白質代謝、3.阪大・医・遺伝学、4.京大・医・細胞機能）
12:55 ～ 13:05

[4LT01-09（3P-0174）] 大規模細胞プロテオームデータを用いた包括的ユビキチン結合モチーフ解析
○小塚（秦） 裕子[1]、廣木 朋子[1]、北村 亜矢[1]、市倉 慎也[1]、津本 浩平[1,2]、井上 純一郎[1,3]、尾山 大明[1]（1.東大・医科研・疾患プロテオミクス、2.東大・院工・バイオエンジ、3.東大・医科研・分子発癌）
13:05 ～ 13:15

第2会場

一般口頭発表 | 8. 疾患生物学 | 疾患生物学（一般口頭発表）

[4LT02] 疾患生物学 VI

座長:若月 修二(国立精神・神経医療研究センター)、座長:松本

©日本分子生物学会/日本生化学会

弦(長崎大学)
11:45 ～ 13:15 第2会場 (神戸ポートピアホテル 本館 地下1階 偕楽2)

[4LT02-01（3P-1091）] Aβ分泌機構における Rab7およびその結合分子群の機能解析
○小座間 大翔[1]、川村 暢幸[2]、和田 戈虹[2]、和田 洋[3]、富田 泰輔[1]
（1.東大・院薬・機能病態学教室、2.同志社大・薬・生化学研究室、3.阪大・産業科学・生体分子反応科学研究分野）
11:45 ～ 11:55

[4LT02-02（3P-1092）] APP-βCTFによる小胞輸送障害機構の解析
○金城 那香[1]、上原 孝[1]、高杉 展正[1]
（1.岡大・院薬・薬科学）
11:55 ～ 12:05

[4LT02-03（3P-1093）] アルツハイマー病モデルマウスにおけるアミロイド病理特異的にTauと結合するタンパク質の同定および解析
○石井 綾乃[1,2]、橋本 翔子[1]、松葉 由紀夫[1]、三平 尚美[1]、高島 明彦[3]、村松 慎一[4]、横須賀 誠[2]、斉藤 貴志[1]、西道 隆臣[1]（1.理研・脳科学・神経蛋白、2.日獣大・院獣医生命、3.学習院大・理学・生命科学、4.自治医大・医学・神経内科）
12:05 ～ 12:15

[4LT02-04（3P-1088）] 微小管結合タンパク質タウシステイン残基の、タウ安定性と毒性における役割
○知久 朋樹[1]、岡 未来子[2]、住岡 暁夫[3]、斎藤 太郎[1,2]、浅田 明子[1,2]、久永 眞市[1,2]、飯島 浩一[4,5]、高島 明彦[3]、安藤 香奈絵[1,2]（1.首都大・理工・生命科学、2.首都大・院理工・生命科学、3.学習院大・院理・自然科学、4.国立長寿研・アルツハイマー病研究部、5.名古屋市立大・院薬・加齢病態制御学分野）
12:15 ～ 12:25

[4LT02-05（3P-1089）] 軸索ミトコンドリアの欠乏によるショウジョウバエ視神経軸索変性における CaMKIIの役割
○真野 叶子[1]、岡 未来子[2]、淺田 明子[2,3]、斎藤 太郎[2,3]、久永 眞市[2,3]、鈴木 えみ子[4,5]、飯島 浩一[6,7]、安藤 香奈絵[2,3]（1.北里大・理・生物科学、2.首都大・院理・生命科学、3.首都大・理工・生命科学、4.国立遺伝研・遺伝子回路研究室、5.総研大・遺伝学専攻、6.国立長寿研・アルツハイマー病研究部、7.名古屋市立大大学院・薬）
12:25 ～ 12:35

[4LT02-06（3P-1094）] 神経細胞におけるタウ蛋白質の動態と軸索局在機構の解明
○岩田 実里[1]、渡辺 祥司[1]、宮坂 知宏[2]、朴 洪宣[3]、御園生 裕明[1]（1.同志社大学大学院 脳科学研究科 チャネル病態生理部門、2.同志社大学 生命医科学部 神経病理学研究室、3.同志社大学大学院 脳科学研究科 認知記憶加齢部門）
12:35 ～ 12:45

[4LT02-07（3P-1095）] ジストログリカノパチーモデルマウスの中枢神経病態の解析
○首藤 篤史[1]、金川 基[1]、近藤 舞[1]、小林 千浩[1]、遠藤 光晴[2]、南 康博[2]、戸田 達史[1,3]（1.神戸大・院医・神経内科学/分子脳科学、2.神戸大・院医・細胞生理学、3.東大・院医・神経内科学）
12:45 ～ 12:55

[4LT02-08（3P-1096）] グアニン四重鎖の酸化は TDP-43による mRNA輸送機能を阻害する
○石黒 亮[1]、野間 崇志[2]、木村 展之[3]、昆 隆英[2]（1.法政大・ナノテク、2.阪大・院理・生物科学、3.長寿研・アルツハイマー・病因遺伝子）
12:55 ～ 13:05

[4LT02-09（3P-1097）] 筋萎縮性側索硬化症にみられる変異型 SOD1への金属イオン結合の異常
○古川 良明[1]、徳田 栄一[1]、大原 慎司[2]、山中 宏二[3]、三澤 日出巳[4]（1.慶應・理工、2.まつもと医療センター・神経内科、3.名大・環境医学、4.慶應・薬）
13:05 ～ 13:15

©日本分子生物学会/日本生化学会

第3会場

一般口頭発表 | 2. タンパク質 | タンパク質（一般口頭発表）

[4LT03] タンパク質 III

座長:光岡 薫(大阪大学)、座長:川本 晃大(大阪大学)
11:45 ～ 13:15 第3会場 (神戸ポートピアホテル 本館 地下1階 偕楽3)

[4LT03-01（3P-0082）] 電子顕微鏡と高速 AFMの組み合わせにより明らかになった脂質二重膜中オリゴ糖転移酵素の動的構造

○川崎 由貴[1]、眞柳 浩太[1]、Ashutosh Srivastava[2]、有山 弘高[4]、Florence Tama[2,3]、安藤 敏夫[4,5]、神田 大輔[1]（1.九大・生医研・構造生物、2.名大・理学・物理、3.理研・計算科学、4.金大・バイオAFM先端研究センター、5.金大・物理）

11:45 ～ 11:55

[4LT03-02（3P-0083）] The effect of different target nucleic acids on the structural change of TLS

○Nesreen Hamad[1,2]、Tsukasa Mashima[1,2]、Hiroki Watanabe[3]、Takayuki Uchihashi[3]、Riki Kurokawa[4]、Takashi Nagata[1,2]、Masato Katahira[1,2]（1.Inst. of Adv. Energy, Kyoto Univ.、2.Grad. Sch. of Energy Sci., Kyoto Univ.、3.Dept. of phys., Nagoya Univ.、4.RCGM, Saitama Medical Univ.）

11:55 ～ 12:05

[4LT03-03（3P-0084）] Development of a new protein labeling system to map subunits &domains of macromolecular complexes for electron microscopy (EM)

○Zuben Brown[1,2,3]、Kenji Iwasaki[1]、Junichi Takagi[1]（1.Osaka U., IPR, Lab. Prot. Syn.、2.Osaka U., FBS、3.Osaka U., Humanwear Innov. Prog.）

12:05 ～ 12:15

[4LT03-04（3P-0085）] Toll様受容体7の新規リガンド認識機構

○張 志寛[1]、大戸 梅治[1]、清水 敏之[1]（1.東大・院薬・構造）

12:15 ～ 12:25

[4LT03-05（3P-0086）] クライオ電子顕微鏡とプロテイントモグラフィー法を用いた一分子構造レベルにおける低分子化合物と蛋白質の結合領域同定手法の開発

○前川 あゆ美[1]、三瀬 武[1]、Ulf Skoglund[2]、亀井 朗[1]（1.沖縄プロテイントモグラフィー（株）、2.沖縄科学技術大学院大・構造細胞生物学）

12:25 ～ 12:35

[4LT03-06（3P-0087）] FliLは細菌べん毛モーター固定子を制御するメカノセンサーか？

○竹川 宜宏[1]、伊角 実優[1]、朱 世偉[2,3]、西野 優紀[2]、佐久間 麻由子[2,4]、小嶋 誠司[2]、本間 道夫[2]、今田 勝巳[1]（1.阪大・院理・高分子科学、2.名大・院理・生命理学、3.Dept. of Pathol. and Laboratory Medicine, McGovern Medical School at UTHealth、4.名大・RIセンター）

12:35 ～ 12:45

[4LT03-07（3P-0088）] LTTR-DNA複合体の MR-native SAD法による結晶構造解析

○千田 美紀[1]、Maharani Koentjoro[2,3]、安達 成彦[1]、小川 直人[2]、千田 俊哉[1]（1.高エネ研・構造生物、2.静大・農、3.岐大・院農）

12:45 ～ 12:55

[4LT03-08（3P-0089）] Functional structure of Kv1.2 ion channel in lipid environment

○Hideki Shigematsu[1]、Mikako Shirouzu[1]、Fred Sigworth[2]（1.DSSB, RIKEN CLST、2.Dept. Cell &Mol. Phys., Yale Univ. Med. School）

12:55 ～ 13:05

[4LT03-09（3P-0090）] 黄疸の原因物質ビリルビンの生成反応機構の解明 -ビリベルジン還元酵素-基質複合体の結晶構造解析-

高尾 春奈[1]、福山 恵一[2]、杉島 正一

©日本分子生物学会/日本生化学会

[3]、○和田 啓[4]（1.宮崎大・院医獣、2.阪大・院工、3.久留米大・医、4.宮崎大・医）
13:05 ～ 13:15

第5会場

一般口頭発表 | 8. 疾患生物学 | 疾患生物学（一般口頭発表）

[4AT05] 疾患生物学 V

座長:増本 博司(長崎大学)、座長:根本 崇宏(日本医科大学)
09:00 ～ 11:30 第5会場 (神戸ポートピアホテル 本館 地下1階 菊水)

[4AT05-01（3P-1031）] ヤブカにおける共生細菌ボルバキアとウイルスの相互作用
○大手 学[1,2]、嘉糠 洋陸[1,2]（1.慈恵医大・熱帯医学、2.慈恵医大・衛生動物セ）
09:00 ～ 09:10

[4AT05-02（3P-1032）] 黄色ブドウ球菌の嫌気呼吸系発現上昇の病原性に対する寄与
○浜本 洋[1]、Suresh Panthee[1]、Atmika Paudel[1]、扇喜 秀[1]、鈴木 穣[2]、関水 和久[2]（1.帝京大学・医真菌、2.東大・新領域）
09:10 ～ 09:20

[4AT05-03（3P-1033）] Molecular characterization and proteome analysis of *Vibrio vulnificus* isolated from diseased brown-marbled grouper (*Epinephelus fuscoguttatus*)
○Thararat Phurahong[1]、Atittaya Hoihuan[1]、Patcharee Soonson[2]、Paiboon Bunlipatanon[2]、Jumroensri Thawonsuwan[2]、Varin Tanasomwang[2]、Nontawith Areechon[3]、Sittiruk Roytrakul[4]、Sasimanas Unajak[1]（1.Dept. of Biochemistry, Faculty of Science, Kasetsart University、2.Coastal Fisheries Research and Development Bureau, Department of Fisheries, Ministry of Agriculture and Cooperatives、3.Dept. of Aquaculture, Faculty of Fisheries, Kasetsart University、4.Proteomics Laboratory, Genome Institutes, National Center for Genetic Engineering and Biotechnology）
09:20 ～ 09:30

[4AT05-04（3P-1034）] プロタミンのアクネ菌に対する抗菌性の評価
○田代 有香[1]、本田 みちよ[1]（1.明大・院理工・応用化学）
09:30 ～ 09:40

[4AT05-05（3P-1035）] 呼吸器感染症を起こすフィラメント状桿菌
○池 郁生[1]、梶田 亜矢子[1]、吉木 淳[1]、坂本 光央[2]、小久保 年章[3]（1.理研・BRC・実験動物、2.理研・BRC・JCM、3.QST放医研・技術安全部・生物研究推進課）
09:40 ～ 09:50

[4AT05-06（3P-1036）] CFTR発現は*Campylobacter jejuni*の微小管を介した輸送を抑制する
○木戸 純子[1]、下畑 隆明[1]、天野 幸恵[1]、畑山 翔[1]、天宅 あや[1]、福島 志帆[1]、中橋 睦美[2]、上番増 喬[1]、馬渡 一諭[1]、高橋 章[1]（1.徳島大・院医歯薬学研究部・予防環境栄養学、2.徳島大・生物資源産業学部）
09:50 ～ 10:00

[4AT05-07（3P-1037）] 抗酸菌由来 Ag85Bを組み込んだ組換え BCGワクチンが誘導する H2-K^{d}拘束性 CD8^{+}T細胞は結核感染防御にはたらく
○相澤（小峯） 志保子[1,3]、Jiansheng Jiang[3]、松尾 和浩[2]、早川 智[1]、Lisa Boyd [3]、David Margulies[3]、本多 三男[1]（1.日大・医・微生物学、2.日本BCG研究所、3.米国NIH・NIAID・Lab. of Immunol.）
10:00 ～ 10:10

[4AT05-08（3P-1038）] 熱帯熱マラリア原虫・生殖母体期のヘモグロビン輸送における寄生胞膜動態の形態学的アプローチ
○入子 英幸[1]、見村 琴美[1]、大槻

©日本分子生物学会/日本生化学会

均[2]、橘 真由美[3]、石野 智子[3]、鳥居 本美[3]、坪井 敬文[4]（1.神戸大・院保・国際保健学、2.鳥取大・医・医動物学、3.愛媛大・PROS・寄生病原体学、4.愛媛大・PROS・マラリア研究）

10:10 ～ 10:20

[4AT05-09（3P-1039）] インフルエンザウイルスのヒストン様タンパク質・ヌクレオプロテインに対する アセチル化修飾によるウイルス RNAポリメラーゼ活性変化

○畠山 大[1]、庄司 正樹[1]、山吉 誠也[2]、楊 理奈[1]、大海 菜穂[1]、竹中 志織[1]、齋藤 彩香[1]、新垣 優美絵[1]、増田 麻来[1]、小松 嗣典[1]、中野 雅博[3]、野田 岳志[3]、河岡 義裕[2]、葛原 隆[1]（1.徳島文理大・薬、2.東大・医科研、3.京大・ウイルス研）

10:20 ～ 10:30

[4AT05-10（3P-1040）] プリオン蛋白質はインフルエンザ Aウイルスの感染を制御する

○千田 淳司[1]、原 英之[1]、坂口 末廣[1]（1.徳大・先端酵素研・神経変性病態学）

10:30 ～ 10:40

[4AT05-11（3P-1041）] GAPDHおよび ENO1はmoonlightingタンパク質としてHIV複製を制御する

○岸本 直樹[1]、伊賀 望[2]、山本 謙吾[2]、高宗 暢暁[3]、三隅 将吾[1]（1.熊本大院・生科・環境分子保健学、2.熊本大・薬・環境分子保健学、3.熊本大・KUICC）

10:40 ～ 10:50

[4AT05-12（3P-1042）] Inhibition of Notch Signaling contributes to the degradation of Intracellular HBV by regulation of ITCH in an ubiquitin dependent manner

○Zijing Wang[1]、 Kazunori Kawaguchi[1]、Masao Honda[1]、Hikari Okada[1]、Shirasaki Takayoshi[1]、Tetsuro Shimakami[1]、Shuichi Kaneko[1]（1.Department of Gastroenterology, Kanazawa University Graduate School of Medical Science）

10:50 ～ 11:00

[4AT05-13（3P-1043）] ヒト小腸エンテロイドにおけるヒトノロウイルス GII.3の複製に関与する胆汁成分の同定

○村上 耕介[1]、Victoria Tenge[2]、Khalil Ettayebi[2]、Sue Crawford[2]、Sasirekha Ramani[2]、Xi-Lei Zeng[2]、Robert Atmar[2]、Mary Estes[2]（1.感染研・ウイルス２、2.ベイラー医科大学・MVM）

11:00 ～ 11:10

[4AT05-14（3P-1044）] 新規ペプチド性抗インフルエンザ薬は新生ヘマグルチニンを誘導性ラメラボディへと隔離する

○近江 純平[1]、高橋 美帆[1]、猪飼 桂[2]、ツェン チン・イ[1]、名取 泰博[3]、山下 誠[4]、西川 喜代孝[1]（1.同志社大・生命医科・分子生命化学、2.長崎大・熱帯医学研究所・国際保健学分野、3.岩手医科大・薬・衛生化学講座、4.東京大・医科研・ウイルス感染分野）

11:10 ～ 11:20

[4AT05-15（3P-1045）] インフルエンザウイルス感染における HIF-1活性化因子Mint3を介した自然免疫応答機構の解析

○植松 崇之[1]、藤田 智子[1]、中岡 寛樹[2]、原 敏朗[3]、小林 憲忠[1]、村上 善則[2]、清木 元治[4]、坂本 毅治[2]（1.北里大・北里大メディカルセ・研究部門、2.東大・医科研・人癌病因遺伝子分野、3.東大・医科研・腫瘍細胞社会学分野、4.金沢大・医薬保健研究域・医学系）

11:20 ～ 11:30

第6会場

一般口頭発表 | 8. 疾患生物学 | 疾患生物学（一般口頭発表）

[4P1T06] 疾患生物学 IX

座長:曽我 朋義(慶應義塾大学)、座長:南嶋 洋司(九州大学)

13:30 ～ 16:00 第6会場 (神戸ポートピアホテル 本館 地下1階 北野)

©日本分子生物学会/日本生化学会

[4P1T06-01（3P-1070）] 脂肪細胞とマクロファージのクロストーク<インスリン抵抗性が慢性炎症を引き起こす>
○下林 貢[1]、Verena Albert[1]、Bettina Woelnerhanssen[2]、Irina Frei[1]、Diana Weissenberger[1]、Anne Meyer-Gerspach[2]、Nicolas Clement[2]、Suzette Moes[1]、Marco Colombi[1]、Marta Swierczynska[1]、Paul Jenoe[1]、Jerome Meier[1]、Christoph Beglinger[2]、Peterli Ralph[2]、Michael Hall[1]（1.バーゼル大学 バイオセンター、2.聖クララ病院）
13:30 ～ 13:40

[4P1T06-02（3P-1071）] NAD合成酵素 Namptは代謝リプログラミングを介して前駆脂肪細胞分化を制御する
○岡部 圭介[1,2]、薄井 勲[1]、戸邉 一之[1]、中川 崇[2]（1.富大・院医・一内、2.富大・院医・病態代謝解析）
13:40 ～ 13:50

[4P1T06-03（3P-1072）] 転写因子 ChREBP欠損マウスにおける抗肥満効果の解明
○崎山 晴彦[1]、井上 美奈子[1]、中川 勉[2]、江口 裕伸[1]、吉原 大作[1]、藤原 範子[1]、鈴木 敬一郎[1]（1.兵医・生化学、2.神大・院医・薬物動態）
13:50 ～ 14:00

[4P1T06-04（3P-1073）] ヘム欠乏は骨格筋での細胞内ATPレベル上昇を介してグリコーゲン合成異常を惹起する
○斉藤 真一[1]、尾崎 司[2]、中野 博[1]、野原 豪和[1]、岡野 聡[1]、一瀬 白帝[2]、白澤 信行[3]、内藤 輝[3]、山本 雅之[4]、Kelly Vincent[5]、高橋 究[6]、田中 徹[6]、中島 元夫[6]、中島 修[1]（1.山形大・医・メディカル研、2.山形大・医・分子病態、3.山形大・医・解剖一、4.東北大院・医・医化学、5.トリニティカレッジ ダブリン・トリニティ医科学研、6.SBIファーマ）
14:00 ～ 14:10

[4P1T06-05（3P-1074）] AMP-activated kinase（ AMPK）を介した膵島β細胞特異的な転写因子MafAのグルコースによる制御機構の解明
○岩岡 諒[1]、片岡 浩介[1]（1.横浜市大・生命医・生体機能）
14:10 ～ 14:20

[4P1T06-06（3P-1075）] スルフォラファンによる転写因子 Nrf2活性化を介した肥満及び脂肪肝抑制機構の検討
○長田 直人[1]、太田 嗣人[2]、安藤 仁[1]（1.金沢大・医、2.金沢大・先進予防医学研究セ）
14:20 ～ 14:30

[4P1T06-07（3P-1053）] LY6Dにより誘導されるマクロピノサイトーシスは老化細胞の生存促進に働く
○長野 太輝[1]、大西 健悟[2]、岩崎 哲史[1,2]、中嶋 昭雄[1,3]、吉川 潮[1,3]、鎌田 真司[1,2]（1.神戸大・バイオシグナル総合研究センター、2.神戸大・院理・生物、3.神戸大・院農・資源生命科学）
14:30 ～ 14:40

[4P1T06-08（3P-1076）] DNA損傷刺激により、副腎皮質腫瘍細胞株（ H295R）においてコルチゾール分泌能が増大する。
○安達（玉盛） 三美[1]、諏佐 崇生[1]、久樹 晴美[1]、飯塚 眞由[1]、岡崎 具樹[1]（1.帝京大学 医学部生化学講座）
14:40 ～ 14:50

[4P1T06-09（3P-1077）] ロイシン代謝産物、ヒドロキシメチル酪酸による肝性リパーゼの挙動とその解析
○大久保 友貴[1]、藤井 朋保[1]、中村 徹也[1]、上敷領 淳[1]、森田 哲生[1]（1.福山大学薬学部薬学科生化学研究室）
14:50 ～ 15:00

[4P1T06-10（3P-1078）] ミトコンドリアユビキチンリガーゼ MITOLは Drp1の制御を通して心臓老化を防いでいる
○徳山 剛士[1]、武田 啓佑[1]、松野

©日本分子生物学会/日本生化学会

圭悟[1]、塩田 実優[1]、松下 暢子[1]、稲留 涼子[1]、柳 茂[1]（1.東薬大・生命科学・分子生化学）

15:00 ～ 15:10

[4P1T06-11（3P-1079）] 老化細胞による細胞外分泌小胞を介したがん抑制活性

○幾尾 真理子[1]、岡田 恵[1]、寺西 茂之[1]、木根原 匡希[1]、田原 栄俊[1]（1.広大・院医歯薬保健学（薬））

15:10 ～ 15:20

[4P1T06-12（3P-1080）] スクロース過剰摂食は肝臓脂質代謝関連遺伝子の概日リズムを変動させることにより脂質蓄積を起こす

○孫 淑敏[1]、半澤 史聡[2]、金 多恩[1]、梅木 美樹[3]、池田 彩子[2]、望月 聡[3]、小田 裕昭[1]（1.名大・院生命農・栄養生化学、2.名古屋学芸大・院栄養科学・管理栄養、3.大分大・教育）

15:20 ～ 15:30

[4P1T06-13（3P-1081）] グルカゴンは脂肪組織概日時計の同調因子ではなく，脂質代謝を変化させない

○渡辺 彩子[1]、橋本 尚央子[1]、金 多恩[1]、孫 淑敏[1]、林 良敬[2]、小田 裕昭[1]（1.名大・院生命農・栄養生化学、2.名大・環医研）

15:30 ～ 15:40

[4P1T06-14（3P-1082）] Gα13 is a metabolic G protein switch in muscle that regulates systemic energy homeostasis

○Sang Geon Kim[1]、Ja Hyun Koo[1]（1.College of Pharmacy, Seoul National University）

15:40 ～ 15:50

[4P1T06-15（3P-1083）] Discovery of novel anti-diabetic drugs by interrupting the DGKζ and IRS-1 interaction

○BU CHIN YU[1]、Akihiro Ito[2]、Minoru Yoshida[2]、Yasutoshi Ando[1]、Fumihiko Hukuno[1]、Shin-Ichiro Takahashi[1]（1.Dept. of Animal Sciences and Applied Biological Chemistry, Grad.Sch. of Agriculture and Life Sciences., Univ. of Tokyo、2.Chemical Genetics Laboratory, RIKEN）

15:50 ～ 16:00

第8会場

一般口頭発表 | 9. 神経科学 | 神経科学（一般口頭発表）

[4LT08] 神経科学I

座長:齊藤 実(東京都医学総合研究所)、座長:古川 貴久(大阪大学)
11:45 ～ 13:15 第8会場 (神戸ポートピアホテル 本館 地下1階 生田)

[4LT08-01（3P-1189）] ショウジョウバエの視神経においてシナプス可塑性を制御する神経活動依存的な Wgのエンドサイトーシス

○川村 ひなた[1]、鈴木（羽毛田）聡子[1]、鈴木 えみ子[3]、杉江 淳[2]、鈴木 崇之[1]（1.東工大・生命理工学院、2.新潟大・脳病態解析分野、3.国立遺伝学研究所）

11:45 ～ 11:55

[4LT08-02（3P-1190）] *Drosophila*幼虫侵害覚ニューロンにおける small conductance Ca^{2+}依存性 K^+チャネルを介した制御機構により忌避行動が促進される

○小野寺 孝興[1]、村上 晃[2]、上村 匡[1]、碓井 理夫[1]（1.京大・院生命、2.京大・院情報）

11:55 ～ 12:05

[4LT08-03（3P-1191）] 遺伝学的手法によるショウジョウバエ歩行の神経機構の解明

○峯岸 諒[1]、Kai Feng[2]、Barry Dickson[1,2]（1.ハワードヒューズ医学研究所・ジャネリア、2.クイーンズランド大）

12:05 ～ 12:15

[4LT08-04（3P-1192）] *C. elegans*の嗅覚学習をモデルとした餌シグナルを介した忘却の制御機構の解析

○新井 美存[1]、井上 明俊[1]、石原 健[1]（1.九大・院理・生物科学）

12:15 ～ 12:25

[4LT08-05（3P-1193）] 複合体特異的な AMPA受容体光不活化技術の開発と海馬記憶の解

ConBio2017 Consortium of Biological Sciences 2017

析
○竹本 研[1]、高橋 琢哉[1]（1.横浜市大・医・生理）
12:25 ～ 12:35

[4LT08-06（3P-1194）] 行動選択および行動柔軟性における視床-線条体路の機能解析
○加藤 成樹[1]、小林 和人[1]（1.福島医大・医・生体機能）
12:35 ～ 12:45

[4LT08-07（3P-1195）] Ｄ１/Ｄ２ドーパミン受容体コンディショナル発現マウスによる運動制御機構の解明
○笹岡 俊邦[1]、佐藤 朝子[2]、知見 聡美[3]、大久保 直[2]、阿部 学[1]、川村 名子[1]、中尾 聡宏[1]、齊藤 奈英[1]、酒井 清子[1]、小田 佳奈子[1]、前田 宜俊[1]、神保 幸弘[4]、田中 稔[1]、山本 美丘[1]、佐藤 俊哉[1]、藤澤 信義[1]、崎村 建司[1]、南部 篤[3]（1.新潟大学脳研究所、2.北里大学医学部、3.生理学研究所、4.新潟大学医学部）
12:45 ～ 12:55

[4LT08-08（3P-1196）] ニューロン IDの可視化　～クラスター型プロトカドヘリンの発現解析～
○金子 涼輔[1]、阿部 学[2]、高鶴 裕介[1]、渡辺 雅彦[3]、崎村 建司[2]、柳川 右千夫[1]、八木 健[4]（1.群馬大・院医、2.新潟大・脳研、3.北大・院医、4.阪大・生命機能）
12:55 ～ 13:05

[4LT08-09（3P-1197）] CaMKII 依存的なゲフィリンのリン酸化はグリシン受容体のクラスター形成と音驚愕反射の脱感作を誘導した
○荻野 一豊[1]、平田 普三[1]（1.青山学院・理工・化生）
13:05 ～ 13:15

一般口頭発表 | 9. 神経科学 | 神経科学（一般口頭発表）

[4P1T08] 神経科学 II

座長:水本 公大(The University of British Columbia)、座長:丹羽 伸介(東北大学)
13:30 ～ 16:00 第8会場 (神戸ポートピアホテル 本館 地下1階 生田)

[4P1T08-01（3P-1172）] マウス大脳皮質2/3層神経細胞の発達における長短2つのafadin アイソフォームの機能差異
○大浜 大揮[1]、生沼 泉[1]（1.兵県大・生命理学・細胞機能学）
13:30 ～ 13:40

[4P1T08-02（3P-1173）] TRPM1チャネルの網膜神経回路発達における役割
○茶屋 太郎[1]、小塚 孝司[1]、田丸 文信[2]、島田 真理子[1]、桑原 隆亮[3]、渡辺 修一[2]、古川 貴久[1]（1.阪大・蛋白研・分子発生、2.埼玉医大・生理学、3.阪大・電顕センター）
13:40 ～ 13:50

[4P1T08-03（3P-1174）] ショウジョウバエ NRSF/REST相同因子 Charlatanの転写後修飾による神経機能調節機構
林 永美[1]、山崎 泰豊[1]、南 竜之介[1]、○津田 玲生[1]（1.国立長寿医療セ）
13:50 ～ 14:00

[4P1T08-04（3P-1175）] マウス大脳新皮質におけるアストロサイトの多様性についての解析
○表 伯俊[1]、Darin Lanjakornsiripan[1]、川口 大地[1]、古舘 昌平[1]、後藤 由季子[1]（1.東大・院薬・薬科学）
14:00 ～ 14:10

[4P1T08-05（3P-1176）] ポリコーム群タンパク質による視床皮質回路形成の制御
○城野 克磨[1]、川口 大地[1]、壷井 将史[1]、後藤 由季子[1]（1.東大・院薬・薬科学科）
14:10 ～ 14:20

[4P1T08-06（3P-1206）] 睡眠、摂食、求愛：ショウジョウバエ脳の神経内分泌回路
○伊藤 正芳[1]、Gerald Rubin[1]、伊藤 啓[2]（1.HHMI Janelia Reserch Campus、2.Univ. of Cologne, Inst. for Zoo.）
14:20 ～ 14:30

[4P1T08-07（3P-1215）] 小胞体ストレス応答シグナルの逆行性伝播は末梢神経の軸索再生を促進する。

©日本分子生物学会/日本生化学会

○大竹 洋輔[1]、齋藤 敦[2]、松久 幸司[2]、今泉 和則[1]（1.広島大・院医歯薬保・分子細胞情報学、2.広島大・院医歯薬保・ストレス分子動態学）

14:30 ～　14:40

[4P1T08-08（3P-1177）] ショウジョウバエ神経における、軸索近位部特異的な輸送をSpectraplakin (Shot) が仲介する

○木下 貴明[1]、佐藤 主税[2]、西原 祥子[1]（1.創大・院工・生命情報工、2.産総研・バイオメディカル）

14:40 ～　14:50

[4P1T08-09（3P-1204）] REV-ERBの新規分解経路は哺乳類概日リズムの振幅を増幅する

○瓜生 耕一郎[1]、大場 祐希[1]、程 肇[1]（1.金沢大・理工・自然システム）

14:50 ～　15:00

[4P1T08-10（3P-1207）] CNOT1 elongates circadian period through post-transcriptional regulation of Per2 and BMAL1.

○Haytham Mohamed[1]、Akinori Takahashi[1]、Hitoshi Okamura[2]、Tadashi Yamamoto[1]（1.Cell Signal Unit, Okinawa Institute of Science and Technology Graduate School (OIST)、2.Department of Systems Biology, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Kyoto University）

15:00 ～　15:10

[4P1T08-11（3P-1178）] STARファミリーによる神経接着分子の選択的スプライシング制御

○飯島 崇利[1]、飯島 陽子[1]、田中 正視[2]、田中 政之[3]、鈴木 暁子[1]、鮎川 典子[1]、Peter Scheiffele[4]（1.東海大・創造機構、2.京大・T-CiRA、3.東海大・支援センター、4.Biozentrum, Univ. of Basel）

15:10 ～　15:20

[4P1T08-12（3P-1179）] 成体神経幹細胞の胎生期起源細胞 nicheの解析

○丁 悦文[1]、川口 大地[1]、原田 雄仁[1]、後藤 由季子[1]（1.東大・院薬）

15:20 ～　15:30

[4P1T08-13（3P-1180）] 中脳神経細胞の細胞移動におけるダウン症関連因子の機能解析

○有村 奈利子[1]、出羽 健一[1,2]、岡田 茉子[1,2]、柳川 右千夫[3]、田谷 真一郎[1]、星野 幹雄[1]（1.国立精神神経センター・病態生化学、2.山梨大・院医工総合・薬理学、3.群馬大・院医遺・遺伝発達行動）

15:30 ～　15:40

[4P1T08-14（3P-1181）] 電気けいれん刺激による海馬神経の分化・生存への影響

○上野 美由紀[1]、井本 有基[2]、瀬木 (西田) 恵里[1,2]（1.東京理科大・基礎工・生物工、2.京都大・薬学）

15:40 ～　15:50

[4P1T08-15（3P-1208）] 時計遺伝子*Rev-erbα*欠損マウスにおける不安様行動と脳内セロトニン調節の関連性

○大塚 剛司[1]、向阪 彰[1]、Hue Le[1]、中尾 友美[1]、Zaw Thein[1]、前田 正信[1]（1.和歌山医大・医・第二生理）

15:50 ～　16:00

第10会場

一般口頭発表 | 5. 細胞応答 | 細胞応答（一般口頭発表）

[4LT10] 細胞応答 IV

座長:深田 俊幸(徳島文理大学)、座長:本間 謙吾(理化学研究所)
11:45 ～ 13:15　第10会場 (神戸ポートピアホテル 南館 地下1階 ルビー)

[4LT10-01（3P-0435）] ヒト疾患を招く奇異性 Gタンパク共役型受容体機能亢進メカニズムの解明

○鈴木 江莉奈[1]、泉 陽子[1]、鳥居 知宏[2]、五十嵐 麻希[1]、宮戸 真美[1]、勝見 桃理[1]、山内 淳司[2]、藤澤 泰子[3]、鳴海 覚志[1]、緒方 勤[3]、深見 真紀[1]（1.国立成育医療研究セ・分子内分泌、2.国立成育医療研究セ・薬剤治療、3.浜松医科大・小児科）

11:45 ～　11:55

[4LT10-02（3P-0436）] 3.43Q変異に起因する恒常活性化

©日本分子生物学会/日本生化学会

GPCRの性状解析

○川上 耕季[1]、井上 飛鳥[1,2,3]、柴田 剛明[1]、青木 淳賢[1,4]（1.東北大院・薬・分子細胞生化学、2.さきがけ・JST、3.AMED-PRIME、4.AMED-CREST）

11:55 ～ 12:05

[4LT10-03（3P-0437）] ヒトエンドセリン A受容体異常症から明らかになった GPCRのリガンド結合ーシグナル活性化連関の新たな側面

○栗原 由紀子[1]、土井 知子[3]、北沢 太郎[1]、小谷 理紗[1]、河村 悠美子[1]、東山 大毅[1]、谷 一寿[4]、Christopher Gordon[2]、Jeanne Amiel[2]、栗原 裕基[1]（1.東大・院医・代謝生理化学、2.Institut Imagine、3.京大・院理・生物物理、4.名大・細胞生理学研究センター）

12:05 ～ 12:15

[4LT10-04（3P-0438）] 22q11.2欠失症候群の骨格異常に関する DGCR2の TGF-betaシグナル制御メカニズム

○梶原 景正[1]、渡部 聡[3]、青山 謙一[2]、内堀 雅博[2]、斎藤 雅幸[1]、弥栄 聡介[2]、太田 嘉英[2]、木村 穣[1]（1.東海大・医・分子生命科学、2.東海大・医・口腔外科、3.農研機構・畜産研究部門）

12:15 ～ 12:25

[4LT10-05（3P-0439）] 非古典的 NF-κBシグナル伝達経路に対するオイデスマン誘導体の作用機序の解析

○近藤 哲也[1]、Quach Hue[1]、渡辺 萌[1]、田村 隆一[1]、矢島 愛樹[1]、佐山 信成[2]、安東 政義[3]、片岡 孝夫[1]（1.京工繊大・応生、2.福島医大・自然科学、3.新潟大・工）

12:25 ～ 12:35

[4LT10-06（3P-0440）] 阿波晩茶に見出された新規NFATシグナル抑制化合物の同定とその作用機序

水口 博之[1]、中野 友寛[1]、○西田 浩平[1]、北村 紀子[2]、内田 勝幸[2,3]、藤野 裕道[1]、神沼 修[4]、福井 裕行[5]（1.徳大・院医歯薬学・分子情報薬理学、2.東京都医学総合研究所・花粉症プロジェクト、3.（株）明治・研究本部・食機能科学研究所、4.山梨大・総合分析実験セ・資源開発、5.徳大・院医歯薬学・分子難病学）

12:35 ～ 12:45

[4LT10-07（3P-0441）] ケミカルゲノミクスを用いたFTY720感受性遺伝子の網羅的探索と ROS/カルシウムシグナルの関わり

○萩原 加奈子[1]、石田 紘基[1]、木下 佳那子[1]、亀岡 佳則[1]、北條 志穂美[1]、佐藤 亮介[1]、高崎 輝恒[1]、杉浦 麗子[1]（1.近畿大・薬）

12:45 ～ 12:55

[4LT10-08（3P-0442）] CASTing（ cyclic amplification of selective target）法による Smad結合配列の探索と機能解明

○伊藤 友香[1]、小俣 千帆[1]、望月 光由[1]、齋藤 正夫[1]、宮澤 恵二[1]（1.山梨大・院医・生化学）

12:55 ～ 13:05

[4LT10-09（3P-0443）] フォトアフィニティープローブによるノシスタチン結合タンパク質の同定

○原田 雅士[1]、南 敏明[2]、伊藤 誠二[3]、芦高 恵美子[1]（1.大阪工大・院工・生体医工、2.大阪医大・麻酔、3.関西医大・医化学）

13:05 ～ 13:15

第12会場

一般口頭発表 | 7. 発生・再生 | 発生・再生（一般口頭発表）

[4LT12] 発生・再生 III

座長:森本 充(理化学研究所)、座長:倉永 英里奈(東北大学)
11:45 ～ 13:15 第12会場 (神戸ポートピアホテル 南館 地下1階 エメラルド)

[4LT12-01（3P-0759）] 小胞輸送アダプターNUMB/NUMBLは、 ERBB2の分解を促進することにより、細胞周期の休止期に導く

○平井 希俊[1,2]、有田 陽[2]、Sylvia Evans[2]（1.関西医大・薬理、2.SSPPS, UCSD）

11:45 ～ 11:55

[4LT12-02（3P-0760）] 咽頭弓および未分節中胚葉におけ

©日本分子生物学会/日本生化学会

るHey1遺伝子の発現は遠位エンハンサーにより制御される
○渡邉 裕介[1,2]、石井 修平[1,2]、深山 俊治[1]、上本 泰生[1,2]、井原 大[1,3]、西谷 友重[1]、荒井 勇二[4]、中川 修[1,2]
（1.国循・研究所・分子生理、2.奈良医大・院医、3.立命館・院・生命科学、4.国循・研究所・動物実験管理）
11:55 ～　12:05

[4LT12-03（3P-0754）] 血管新生の素過程としての単一内皮細胞動態の解析
○礪波 一夫[1]、金井 政宏[2,3]、牛島 俊征[1]、内島 泰信[1]、栗原 裕基[1]
（1.東大・院医・代謝生理化学、2.東大・院理・数理科学、3.久工大・工・教育）
12:05 ～　12:15

[4LT12-04（3P-0761）] 血管内皮細胞におけるアクチン構造体の動態
○Li-Kun Phng[1]、Holger Gerhardt[2]
（1.理研・CDB、2.Max-Delbruck Center ）
12:15 ～　12:25

[4LT12-05（3P-0755）] 血管新生における内皮細胞の協調運動を担う VE-カドヘリンとアクチンファイバーの相互調節機構
○牛島 俊征[1]、礪波 一夫[1]、内島 泰信[1]、栗原 裕基[1]（1.東大・院医・代謝生理化学）
12:25 ～　12:35

[4LT12-06（3P-0762）] 間充織細胞の極性化によるマウス気管形成の制御
○岸本 圭史[1]、森本 充[1]（1.理研CDB・呼吸器形成研究チーム）
12:35 ～　12:45

[4LT12-07（3P-0763）] Wntシグナルによる頂端膜収縮の調節は肺分岐構造と肺胞形成を制御する
○麓 勝己[1]、今村 寿子[2]、菊池 章[1]
（1.阪大院・医・分子病態生化学、2.九大院・医・基礎医学部門）
12:45 ～　12:55

[4LT12-08（3P-0764）] EGF-ERK/MAPKシグナルの反復リレーによる上皮の陥入
○小椋 陽介[1]、Fu-Lai Wen[2]、Mustafa Sami[1]、柴田 達夫[2]、林 茂生[1]
（1.理研・ CDB・形態形成シグナル研究チーム、2.理研・QBiC・フィジカルバイオロジー研究チーム）
12:55 ～　13:05

[4LT12-09（3P-0765）] 生体内管状組織における周期的な自己組織化アクチンネットワーク形成の観察
○関根 清薫[1]、林 茂生[1]（1.理研・CDB）
13:05 ～　13:15

一般口頭発表 | 7. 発生・再生 | 発生・再生（一般口頭発表）

[4P1T12] 発生・再生 IV

座長:八代 健太(大阪大学)、座長:髙里 実(理化学研究所)
13:30 ～ 16:00　第12会場 (神戸ポートピアホテル 南館 地下1階 エメラルド)

[4P1T12-01（3P-0766）] ニワトリ胚頚髄運動神経で観察されるアポトーシスは Hox発現パターンに依存して実行される
○向笠 勝貴[1]、佐久間 千恵[1]、八木沼 洋行[1]（1.福島医大・医・神経解剖発生学）
13:30 ～　13:40

[4P1T12-02（3P-0767）] SOX2による消化管前部における領域性の決定機構
○寺元 万智子[1]、菅原 諒[1]、黒岩 厚[3]、石井 泰雄[2]、近藤 寿人[1]
（1.京産大・総合生命科学部、2.東京女子医科大学・医学部、3.名大大学院・理学部）
13:40 ～　13:50

[4P1T12-03（3P-0768）] 淡水産巻貝 Lymnaea stagnalis 初期胚の分化はいつから始まるのか？
○黒田 玲子[1]、高梨 恭平[1]、高橋 厚弥[1]、故　升島 努[2]、江崎 剛史[3]、阿部 真典[1]（1.東京理科大・総研、2.理研生命システム研究センター、3.医薬基盤・健康・栄養研究所）
13:50 ～　14:00

[4P1T12-04（3P-0769）] リン脂質フリッパーゼ ATP11Aの骨格筋における役割
○奥田 雅貴[1]、土谷 正樹[1]、長尾 耕治郎[1]、原 雄二[1,2]、梅田 眞郷[1]
（1.京大・院工・合成・生物化

学、2.AMED PRIME）
14:00 ～ 14:10

[4P1T12-05（3P-0770）] BMPアンタゴニストCerberusの新たな役割と N-acetylヘパラン硫酸
○山元 孝佳[1]、平良 眞規[1]
（1.東大・院理・生物科学・分子生物）
14:10 ～ 14:20

[4P1T12-06（3P-0771）] ゼブラフィッシュの内胚葉細胞分化において、 Smad非依存的な Nodal-JNKシグナルにより制御される核の移動が Nodal-Smad2シグナル伝達を促進する
○穂積 俊矢[1]、青木 駿[1]、菊池 裕[1]
（1.広大・院理・生物科学）
14:20 ～ 14:30

[4P1T12-07（3P-0772）] GPR17によるソニックヘッジホッグシグナルの負のフィードバック制御機構が与える神経管パターン形成への影響
○八塚 敦輝[1]、西 晶子[1]、笹井 紀明[1]
（1.奈良先端大・バイオ）
14:30 ～ 14:40

[4P1T12-08（3P-0773）] ショウジョウバエ初期胚の同期的な形態形成には NumbによるNotchシグナルの抑制が必要である
○桑名 悟史[1]、松本 顕治郎[3]、具志堅 拓磨[1]、Martin Baron[2]、松野 健治[1]（1.阪大・院理・生物科学、2.マンチェスター大・生命科学、3.ジョージア大・Complex Carbohydrate研究所）
14:40 ～ 14:50

[4P1T12-09（3P-0774）] 一細胞レベルの蛍光イメージングによる分節時計遺伝子Hes7の発現振動位相調節機構の解析
○小林 久美子[1]、新野 祐介[2]、宮脇 敦史[2,3]、影山 龍一郎[1]（1.京都大学ウイルス・再生医科学研究所、2.理化学研究所 脳科学総合研究センター 細胞機能探索技術開発チーム、3.理化学研究所 光量子工学研究領域 生命光学技術研究チーム）
14:50 ～ 15:00

[4P1T12-10（3P-0775）] Importin13は、着床期マウス胚の発生に必須である
○田中 聡[1]、山口 泰華[1,3]、Patrick Tam[2]（1.熊保大、2.CMRI, Australia、3.学振・特別研究員）
15:00 ～ 15:10

[4P1T12-11（3P-0776）] 体外受精胚の遺伝子発現制御
○幸田 尚[1]、川井 清考[1,2]、石川 智則[2]、久保田 俊郎[2]、宮坂 尚幸[2]、石野 史敏[1]（1.東京医歯大・難治研・エピジェネティクス、2.東京医歯大・医歯学総合・生殖機能協関学）
15:10 ～ 15:20

[4P1T12-12（3P-0777）] マウス着床前胚のエピブラストは Tead/Yap活性依存的な選択的細胞死を経て多能性を均質化させる
○橋本 昌和[1]、竹之下 憂祐[1]、百合 祐樹[1]、佐々木 洋[1]（1.阪大・生命機能・初期胚発生）
15:20 ～ 15:30

[4P1T12-13（3P-0778）] 細胞ターンオーバーを介した発生ロバストネス機構の遺伝学的解析
○乾 由希子[1]、大澤 志津江[1]、井垣 達吏[1]（1.京大院・生命・システム機能学）
15:30 ～ 15:40

[4P1T12-14（3P-0756）] 葉形成に関わる epigenetic因子AS2の核顆粒と核への局在における zn-finger-様 motifの領域の役割
○町田 泰則[1]、小島 晶子[2]、Lilan Luo[1]、安藤 小百合[2]、町田 千代子[2]（1.名大・理・生命、2.中部大・応用生物）
15:40 ～ 15:50

[4P1T12-15（3P-0876）] 子宮の HIF2aは胚盤胞の生存と子宮への浸潤を制御する
○藤田 知子[1]、廣田 泰[1]、松本 玲央奈[1]、武田 憲彦[2]、藤田 英俊[3]、原口 広史[1]、松尾 光徳[1]、平岡 毅大[1]、田中 智基[1]、赤枝 俊[1]、大須賀 穣[1]、藤

©日本分子生物学会/日本生化学会

井 知行[1]（1.東大・附属病院・産婦人科、2.東大・附属病院・循環器内科、3.東医大・医総研・未来医科学）

15:50 ～　16:00

第14会場

一般口頭発表 | 6. ゲノムと遺伝情報 | ゲノムと遺伝情報（一般口頭発表）

[4LT14] ゲノムと遺伝情報 III

座長:鵜木 元香(九州大学)、座長:長尾 恒治(大阪大学)
11:45 ～ 13:15　第14会場 (神戸国際会議場 3階 国際会議室)

[4LT14-01（3P-0561）] マウス*Zrsr1* DMRの転写は卵ではメチル化を起こすが、体細胞ではメチル化を起こさない。

○城 圭一郎[1]、西岡 憲一[1]、北嶋 修司[2]、松久 葉一[2]、河野 友宏[3]、古関 明彦[4]、副島 英伸[1]（1.佐大・医・分子生命科学、2.佐大・総合分析実験センター生物資源開発部門、3.東京農大・応用生物科学部・バイオサイエンス・動物発生工学、4.理研・統合生命医科学・免疫器官形成）

11:45 ～　11:55

[4LT14-02（3P-0562）] RUNX1は DNA脱メチル化機構をリクルートすることにより、結合部位特異的な DNA脱メチル化を制御する

○鈴木 貴紘[1,2]、清水 友理[1]、降旗 絵里奈[1]、前田 紫緒里[1]、木嶋 真美[1]、西村 創[1]、榎本 早彩[1,2]、林崎 良英[3]、鈴木 治和[1]（1.理研・CLST・DGT、2.横市大・生命医科学、3.理研・PMI）

11:55 ～　12:05

[4LT14-03（3P-0563）] ヒストン H3.3のサブバリアント H3mm7は正常な骨格筋再生に必要とされる

○前原 一満[1]、原田 哲仁[1]、大川 恭行[1]（1.九大・生医研・トランスクリプトミクス）

12:05 ～　12:15

[4LT14-04（3P-0564）] ナルディライジンはヒストン修飾の制御を介して細胞周期調節に寄与する

○森田 雄介[1]、大野 美紀子[2]、西 清人[1]、西城 さやか[1]、松田 真太郎[1]、木村 剛[1]、西 英一郎[2]（1.京大・院医・循内、2.滋賀医大・薬理）

12:15 ～　12:25

[4LT14-05（3P-0565）] 血管内皮細胞における炎症性刺激に応じた miRNA-ヒストン修飾ネットワーク機構

○東島 佳毅[1,4]、神吉 康晴[4,5]、井上 剛[2]、南学 正臣[3]、古川 哲史[1]、和田 洋一郎[4]（1.東京医科歯科大・難治研・生体情報薬理、2.バージニア大、3.東大・院医・腎内、4.東大・アイソトープ総合センター、5.アメリカ国立がん研究所）

12:25 ～　12:35

[4LT14-06（3P-0566）] エピジェネティクスへのアクチンファミリーの関与：環状ペプチドを用いた解析と人為的操作の試み

○秋山 祐亮[1]、高橋 裕一朗[1]、町田 奈々子[1]、村上 和寛[1]、Christian Heinis[2]、原田 昌彦[1]（1.東北・院農・分子生物、2.EPFL. LPPT, Lausanne）

12:35 ～　12:45

[4LT14-07（3P-0567）] マウス ES細胞におけるセレノプロテイン Hのエピジェネテッィク作用

○廣澤 瑞子[1]、田部井 靖亨[1]、早川 晃司[1]、奈良 大輔[1]、塩田 邦郎[1,2]、田中 智[1]（1.東大・院農・応用動物科学、2.早大・理工総研）

12:45 ～　12:55

[4LT14-08（3P-0568）] iPS細胞誘導における X染色体再活性化機構の解析

○相澤 志穂[1]、Linh Bui[1]、西村 健[1]、久武 幸司[1]（1.筑波大・医学・遺伝子制御学）

12:55 ～　13:05

[4LT14-09（3P-0569）] ヘテロクロマチンによる転写制御はセントロメア・リピートを介した染色体異常を抑制する

○沖田 暁子[1]、Dayalini Weerasekara[1]、升方 久夫[1]、中川 拓郎[1]（1.阪大・院理・生物科学）

13:05 ～　13:15

©日本分子生物学会/日本生化学会

一般口頭発表 | 6. ゲノムと遺伝情報 | ゲノムと遺伝情報（一般口頭発表）

[4P2T14] ゲノムと遺伝情報 VII

座長:山縣 一夫(近畿大学)、座長:田代 聡(広島大学)
16:15 〜 17:45 第14会場 (神戸国際会議場 3階 国際会議室)

[4P2T14-01（3P-0597）] 重粒子線に特徴的な DNA損傷の可視化と細胞運命決定に与える影響の解析
〇新美 敦子[1]、萩原 慶彦[2]、リムシリチャイクル シリパン[3]、尾池 貴洋[2]、佐藤 浩央[2]、中野 隆史[1,2,4]、柴田 淳史[5]（1.群馬大・未来先端、2.群馬大・腫瘍放射線学分野、3.Silpakorn大・薬学部、4.群馬大・重粒子線医学研究センター、5.群馬大・大学院教育支援センター）
16:15 〜 16:35

[4P2T14-03（3P-0599）] ヒト Rad17タンパク質の酸性C末端テールによる9-1-1複合体との相互作用の制御
〇福本 泰典[1]、中山 祐治[2]、山口 直人[1]（1.千葉大・院薬・分子細胞生物学、2.京都薬大・生化学）
16:35 〜 16:45

[4P2T14-04（3P-0600）] 植物 DNA損傷応答におけるクロマチンリモデリング因子RAD54の核内動態解析
〇平川 健[1]、Sachihiro Matsunaga[1]（1.東理大・院・理工・応用生物科学）
16:45 〜 16:55

[4P2T14-05（3P-0601）] ヌクレオチドアナログ誘導性DNA複製ストレス発生メカニズムと p53を介した細胞運命決定
〇北尾 洋之[1]、飯森 真人[1]、片岡 裕貴[1,2]、藤澤 量[3]、釣本 敏樹[3]、一瀬 智美[4]、三浦 大典[4]、若狭 武司[2,5]、松岡 和明[2]、佐伯 浩司[5]、沖 英次[5]、前原 喜彦[5]（1.九州大・薬・抗がん剤育薬、2.大鵬薬品工業株式会社、3.九州大・理、4.九州大・農、5.九州大・医・消化器・総合外科）
16:55 〜 17:05

[4P2T14-06（3P-0602）] 放線菌において見出した新規DNAミスマッチ修復機構の解析
〇竹本 訓彦[1]、沼田 格[2]、末次 正幸[2]、秋山 徹[1]（1.国立国際医療研究センター研究所・病原微生物、2.立教大・生命理）
17:05 〜 17:15

[4P2T14-07（3P-0603）] 無顎類抗原受容体 VLR遺伝子再編成のしくみ
〇名川 文清[1]（1.東大・院理・生物科学）
17:15 〜 17:25

[4P2T14-08（3P-0604）] 新規53BP1結合タンパク質SCAIは、 RIF1に阻害的に働くことで BRCA1-mediated repairを促進する
〇磯部 真也[1]、長尾 恒治[1]、野崎 直仁[2]、木村 宏[3]、小布施 力史[1]（1.阪大・理学・生物科学、2.株式会社モノクローナル抗体研究所、3.東工大・科学技術創成研究院）
17:25 〜 17:35

[4P2T14-09（3P-0605）] ヌクレオチド除去修復の開始を制御するクロマチン構造の役割
〇加藤 安佳梨[1,2]、各務 恵理菜[1,2]、中西 正哉[1,2]、日下部 将之[1,2]、栗原 文佳[1,2]、酒井 恒[1,2]、菅澤 薫[1,2]（1.神戸大・バイオシグナル総研、2.神戸大・院理）
17:35 〜 17:45

第15会場

一般口頭発表 | 6. ゲノムと遺伝情報 | ゲノムと遺伝情報（一般口頭発表）

[4LT15] ゲノムと遺伝情報 IV

座長:黒川 理樹(埼玉医科大学)、座長:大吉 崇文(静岡大学)
11:45 〜 13:15 第15会場 (神戸国際会議場 3階 レセプションホール)

[4LT15-01（3P-0621）] MED1の核内受容体結合能を廃絶した変異マウスにおける脂質代謝制御分子の発現
〇物延 沙耶[1]、平野 希依[1]、安達 枝里[1]、峰松 侑希[1]、松尾 美希[1]、後和 佳澄[1]、服部 美咲[1]、黒沼 加菜[1]、Robert Roeder[3]、長谷川 菜摘[1]、伊藤 光宏[1,2,3]（1.神戸大・保健学研究科・病態解析学、2.早稲田大・ナノ・ライフ創新研究機構、3.ロック

©日本分子生物学会/日本生化学会

フェラー大・生化学・分子生物学）
11:45 ～ 11:55

[4LT15-02（3P-0622）] Recq5遺伝子の発現制御
○川崎 勝己[1]、辻 結花[1]、岡 なつみ[1]、河村 香寿美[3]、田代（桜井） 晴奈[2]（1.摂南大・院理工・生命科学、2.摂南大・薬・生化学、3.京都大・院人間環境学・分子生命環境論）
11:55 ～ 12:05

[4LT15-03（3P-0623）] CRISPR/Cas9によるシス調節エレメントの編集を用いた抗体遺伝子改変酵素 AIDの発現調節機構の解析
○佐藤 克哉[1]、安田 一[1]、金山 佳史[1]、堀 賢一郎[1]、長岡 仁[1]（1.岐阜大・院医・分子病態）
12:05 ～ 12:15

[4LT15-04（3P-0624）] Mechanisms that affect post-transcriptional fate of RNA polymerase II-transcribed genes
○Fajar Muhamad[1]、Ari Zukeran[1]、Shumpei Tateno[1]、Junichi Yamamoto[2]、Hiroshi Handa[2]、Yuki Yamaguchi[1]（1.Dept Life Science and Tech.,Tokyo Tech.、2.Dept.of Nanoparticle Translational Research, Tokyo Med. Univ.）
12:15 ～ 12:25

[4LT15-05（3P-0625）] 新規なヘムセンサータンパク質による転写調節の分子メカニズム
西永 惠[1]、杉本 宏[2]、青野 重利[3]、城 宜嗣[2,4]、○澤井 仁美[2,4]（1.兵庫県立大・理・生命科学、2.理研・播磨、3.分子研・統合バイオ、4.兵庫県立大・院・生命理学）
12:25 ～ 12:35

[4LT15-06（3P-0626）] GABPAとヒストンアセチル化は早期 G1期遺伝子に対してBookmarking因子として機能する
○後藤 峻也[1]、高橋 将史[1]、安恒 徳美[1]、稲山 純生[1]、柏葉 脩一郎[1]、村上 康文[1]（1.東理大・基礎工・生物工）
12:35 ～ 12:45

[4LT15-07（3P-0627）] 胎生期血管内皮細胞における Hey1遺伝子の発現制御機構
○深山 俊治[1]、渡邉 裕介[1,2]、瀬谷 大貴[1]、井原 大[1,3]、荒井 勇二[4]、磯本 祥恵[4]、中川 修[1,2,3]（1.国循・研究所・分子生理、2.奈良医大・院医、3.立命・院生命科学、4.国循・研究所・研究推進）
12:45 ～ 12:55

[4LT15-08（3P-0628）] piRNAを介したトランスポゾン転写抑制機構の解析
○大西 遼[1]、佐藤 薫[1]、塩見 美喜子[1]（1.東大・院理・生物科学）
12:55 ～ 13:05

[4LT15-09（3P-0629）] ナルディライジンによる PER2の機能調節を介した概日リズム制御機構
○平岡 義範[1]、吉種 光[2]、大野 美紀子[3]、森田 雄介[4]、布川 莉奈[2]、西 清人[4]、久米 典昭[1]、木村 剛[4]、深田 吉孝[2]、西 英一郎[3]（1.神院大・薬・臨床薬学、2.東大・院理・生物科学、3.滋賀医大・医・薬理学、4.京大・院医・循内）
13:05 ～ 13:15

一般口頭発表 | 6. ゲノムと遺伝情報 | ゲノムと遺伝情報（一般口頭発表）

[4P2T15] ゲノムと遺伝情報 VIII

座長:今井 祐記(愛媛大学)、座長:大庭 伸介(東京大学)
16:15 ～ 17:45 第15会場 (神戸国際会議場 3階 レセプションホール)

[4P2T15-01（3P-0630）] 胚性幹細胞における単アリル性発現遺伝子はゲノム及び付随したエピゲノムによって制御される
○大石 裕晃[1]、鵜木 元香[2]、一柳 健司[3]、福田 渓[4]、白根 健次郎[6]、前之原 章司[1]、佐渡 敬[5]、佐々木 裕之[2]（1.九大・医・エピゲノム制御、2.九大・生医研・エピゲノム制御、3.名大・農・ゲノム・エピゲノムダイナミクス研究分野、4.理研・細胞記憶研究室、5.近大・農・バイオサイエンス学科、6.LSI, Dep. of Med.

©日本分子生物学会/日本生化学会

Genetics, Univ. of British Columbia）
16:15 ～ 16:25

[4P2T15-02（3P-0631）] インターフェロン応答遺伝子に見られる転写記憶と Chromatin marksによる制御
○鎌田 瑠泉[1,2]、Wenjing Yang[3]、應田 涼太[2]、坂口 和靖[1]、Jun Zhu[3]、Keiko Ozato[2]（1.北大院・理・化、2.NICHD/NIH、3.NHLBI/NIH）
16:25 ～ 16:35

[4P2T15-03（3P-0632）] ヘムシグナルによる天然変性タンパク質 Bach2の制御機構と生理学的意義の解明
○松井 美紀[1,2]、島 弘季[2]、武藤 哲彦[2]、松本 光代[2]、村山 和隆[3]、五十嵐 和彦[2]（1.日本学術振興会RPD特別研究員、2.東北大・院医・生物化学、3.東北大・医工院・分子構造解析）
16:35 ～ 16:45

[4P2T15-04（3P-0633）] 転写共役因子 MED1による IL-33誘導性の2型自然リンパ球の動員調節
○安達 枝里[1]、長谷川 菜摘[1]、前川 茜[1]、物延 沙耶[1]、平野 希依[1]、後藤 千恵[1]、横井 彩[1]、黒沼 加菜[1]、宮田 宗明[2,3]、高井 義美[3,4]、Robert Roeder[5]、伊藤 光宏[1,4,5]（1.神戸大・保健学研究科・病態解析学、2.先端医療振興財団、3.神戸大・医学研究科・生化学・分子生物学、4.早稲田大・ナノ・ライフ創新研究機構、5.ロックフェラー大・生化学・分子生物学）
16:45 ～ 16:55

[4P2T15-05（3P-0634）] 転写共役因子 MED1の核内受容体結合能は低温環境での体温維持に必須である
○平野 希依[1]、物延 沙耶[1]、安達 枝里[1]、長崎 洋樹[1]、福岡 知也[1]、峰松 侑希[1]、後藤 千恵[1]、横井 彩[1]、松尾 美希[1]、レーダー ロバート[3]、長谷川 菜摘[1]、伊藤 光宏[1,2,3]（1.神戸大・保健学研究科・病態解析学、2.ロックフェラー大・生化学・分子生物学、3.早稲田大・ナノ・ライフ創新研究機構）
16:55 ～ 17:05

[4P2T15-06（3P-0635）] メディエーター複合体による転写終結制御機構
○高橋 秀尚[1]、柴田 美音[1]、瀧川 一学[2]、渡部 昌[1]、簗山 忠維[1]、山本 淳一[3]、山口 雄輝[3]、藤井 聡[4]、飯田 緑[4]、Amol Ranjan[5]、Shigeo Sato[5]、Chieri Tomomori-Sato[5]、Joan Conaway[5]、Ronald Conaway[5]、畠山 鎮次[1]（1.北大院・医・生化学、2.北大・情報科学、3.東工大・生命理工、4.九工大・情報工学、5.ストワーズ医学研究所）
17:05 ～ 17:15

[4P2T15-07（3P-0636）] iPS細胞から網膜神経節細胞への分化におけるエピジェネティックな放射線影響
○桂 真理[1]、戸澤 英人[1]、南齋 ひろ子[2]、小野 久子[1,3]、田口 明糸[1]、小林 美佳[1]、興梠 貴英[4]、高橋 政代[5]、和田 洋一郎[1,6]、曽根 秀子[2]（1.東大・アイソトープ、2.国環境研・環境リスク健康、3.東大・院医・眼、4.自治医大・メディカルインフォ、5.理研・多細胞システム、6.東大・先端研・システム生物）
17:15 ～ 17:25

[4P2T15-08（3P-0637）] BRCA2とエストロゲン受容体相互作用による生理的役割
○東條 陽[1]、佐藤 亜美[1]、高岡 美帆[1]、中西 啓[1]、三木 義男[1,2]（1.東医歯大・難研・分子遺伝、2.癌研・研・遺伝子診断）
17:25 ～ 17:35

[4P2T15-09（3P-0638）] Single-molecule transcriptome analysis with the CAGEscan method - the case of host-virus chimeric RNAs
○Charles Plessy[1]、Anton Kratz[1]、Kazunori Nagasaka[3]、S

©日本分子生物学会/日本生化学会

achi Kato[1]、Stephane Poulain[1]、Ophelie Arnaud[1]、Sofia Khan[2]、Martin Frith[2]（1.RIKEN CLST Division of Genomics Technologies、2.AIST AIRC Computational Omics Research Team、3.The University of Tokyo, Graduate School of Medicine, Department of Obstetrics and Gynecology）

17:35 ～　17:45

第16会場

一般口頭発表 | 6. ゲノムと遺伝情報 | ゲノムと遺伝情報（一般口頭発表）

[4LT16] ゲノムと遺伝情報 V

座長:原口 徳子(情報通信研究機構)、座長:升方 久夫(大阪大学)
11:45 ～ 13:15　第16会場 (神戸国際会議場 4階 401+402)

[4LT16-01（3P-0588）] 大腸菌の複製オリジン近傍での複製フォーク進行の遅延

○秋山 昌広[1]、大島 拓[2]、Chumsakul Onuma[3]、石川 周[4]、真木 寿治[1]（1.奈良先端大・バイオサイエンス研究科、2.富山県立大・生物工学科、3.ロート製薬・リサーチビレッジ京都、4.神戸大・科学技術イノベーション研究科）

11:45 ～　11:55

[4LT16-02（3P-0589）] ヒト ORC1の N末端側領域の機能解析

中塚 萌[1]、堀之内 遥香[1]、溝部 彩子[1]、由良 敬[2]、○和賀 祥[1]（1.日本女子大・理・物質生物、2.お茶大・生命情報、早稲田大・理工）

11:55 ～　12:05

[4LT16-03（3P-0590）] Rif1が結合するグアニン４重鎖構造の細胞内存在と形成のメカニズムの解明

○加納 豊[1]、松本 清治[1]、深津 理乃[1]、覚正 直子[1]、正井 久雄[1]（1.東京都医学研・ゲノム医科学）

12:05 ～　12:15

[4LT16-04（3P-0591）] 複製 DNAポリメラーゼの合成・修正スイッチングにおける DNAクランプ PCNAの積極的関与

○西田 洋一[1]、依田 卓也[2]、田邉 麻衣子[1]、辻 敏之[3]、依田 隆夫[3]、石野 園子[4]、白井 剛[3]、竹山 春子[2]、石野 良純[4]（1.日立・研開、2.早大・先進理工、3.長浜バイオ大・コンピューターバイオサイエンス、4.九大・院農）

12:15 ～　12:25

[4LT16-05（3P-0592）] テロメア結合タンパク質およびシェルタリン構成因子による DNA複製の時空間的制御機構の解明

○小川 志帆[1]、半田 哲也[1]、城戸 沙友里[1]、中村 優太[1]、小川 英知[2]、浅川 東彦[2]、高橋 達郎[1,3]、中川 拓郎[1]、平岡 泰[2]、升方 久夫[1]（1.阪大・院理・生物科学、2.阪大・院生命、3.九大・院理）

12:25 ～　12:35

[4LT16-06（3P-0593）] 複製ストレスにおける染色体脆弱部位への R-Loop依存性 FANCD2集積メカニズム

○岡本 裕介[1,2]、岩嵜 航[3]、高橋 数冴[3]、久郷 和人[4]、小田 有沙[4]、河合 秀彦[5]、佐藤 浩一[6]、小林 航[6]、逆井 良[7]、高折 晃史[2]、山本 卓[8]、鐘巻 将人[9,10]、田岡 万悟[11]、磯部 俊明[1]、胡桃坂 仁志[6]、印南 秀樹[3]、太田 邦史[4]、石合 正道[1]、高田 穣[1]（1.京大・放生研・晩発、2.京大院・血内、3.総研大・先科、4.東大・院理・生物科学、5.広大・原医研、6.早大・先進理工、7.金医大・生化学1、8.広大・院理・分遺、9.遺伝研・分細工、10.総研大・遺伝、11.首都大・理工）

12:35 ～　12:45

[4LT16-07（3P-0594）] 分裂酵母 Frc１は相同組換え欠損細胞で起こる染色体異常に関与する

豊福 直子[1]、沖 慶太郎[1]、蘇 傑[1]、升方 久夫[1]、○中川 拓郎[1]（1.阪大・院理・生物科学）

12:45 ～　12:55

[4LT16-08（3P-0595）] DNA polymerase θis essential for alternative end-joining

○斎藤 慎太[1]、足立 典隆[1,2]（1.横浜市大・院・生命ナノ、2.横浜市大・先端医科学研究センター）

12:55 ～　13:05

[4LT16-09（3P-0596）] RNAポリメラーゼ阻害因子Maf1はtRNA遺伝子におけるDNA損傷を防ぎ、カロリー制限による寿命延長に必要である

Mihir Shetty[1]、野口 千晶[1]、Sydney Wilson[1]、塩崎 一裕[2]、Christian Sell[3]、○野口 英史[1]（1.ドレクセル大学・医・分子生物学、2.奈良先端・バイオサイエンス、3.ドレクセル大学・医・病理学）

13:05 ～　13:15

一般口頭発表 | 7. 発生・再生 | 発生・再生（一般口頭発表）

[4P2T16] 発生・再生 V

座長:谷水 直樹(札幌医科大学)、座長:松井 貴輝(奈良先端科学技術大学院大学)

16:15 ～ 17:45　第16会場 (神戸国際会議場 4階 401+402)

[4P2T16-01（3P-0813）] microRNA-494は転写共役因子p300を介して筋線維型特異的ヒト骨格筋細胞分化を制御する。

○岩崎 広高[1]、今村 武史[3]、森野 勝太郎[2]、櫻井 英俊[4]、大野 美紀子[1]、前川 聡[2]、西 英一郎[1]（1.滋賀医大・薬理、2.滋賀医大・内科（糖尿病・腎臓）、3.鳥大・医・分子薬理、4.京大・iPS研）

16:15 ～　16:25

[4P2T16-02（3P-0814）] 神経幹細胞で発現するPrdm16はミトコンドリアROS量を規程することで、神経分化を調節する

○岩井 亮太[1,2]、井上 真悠子[2]、田畑 秀典[3]、今野 大治郎[4]、鈴木 真理子[1]、浜窪 隆雄[5]、松崎 文雄[4]、永田 浩一[3]、水谷 健一[1,6]（1.神戸学院大学 大学院薬学研究科 幹細胞生物学研究室、2.同志社大学、3.愛知県コロニー、4.理研・CDB、5.東京大学先端技術研究センター、6.JSTさきがけ（脳神経回路の形成・動作と制御））

16:25 ～　16:35

[4P2T16-03（3P-0815）] 酸素濃度依存的Sox2-RhoAシグナルによるエナメル上皮幹細胞制御機構

○大津 圭史[1]、依田 浩子[2]、藤原 尚樹[1]、大島 勇人[2]、原田 英光[1]（1.岩手医大・解剖・発生再生学、2.新潟大・院医歯・硬組織形態学）

16:35 ～　16:45

[4P2T16-04（3P-0816）] 妊娠期における、肝細胞・肝幹細胞の時空間依存的細胞分裂による肝細胞再編成機構の解析

○上月 智司[1,2]、豊島 文子[1,2]（1.京大・ウイ再、2.京大・院生命）

16:45 ～　16:55

[4P2T16-05（3P-0817）] 毛包幹細胞の起源と誘導メカニズムの解明

○森田 梨津子[1]、三千 典子[1]、林 哲太郎[2]、梅田 茉奈[2]、芳村 美佳[2]、二階堂 愛[2]、阿部 高也[3]、清成 寛[3,4]、古田 泰秀[3,4]、藤原 裕展[1]（1.理化学研究所、2.理化学研究所、3.理化学研究所、4.理化学研究所）

16:55 ～　17:05

[4P2T16-06（3P-0818）] マウス始原生殖細胞が生み出す多様な多能性スペクトル

○岡村 大治[1]、Jun Wu[2]、Juan Carlos Belmonte[2]（1.近大・農・バイオ、2.ソーク研究所）

17:05 ～　17:15

[4P2T16-07（3P-0819）] ES細胞から未分節中胚葉様組織への分化誘導

○松宮 舞奈[1,2]、富田 丈仁[1]、小林 久美子[1,3]、磯村 彰宏[1,4]、影山 龍一郎[1,2,3,5]（1.京大・ウイルス再生医科学研究所、2.京大・院・生命、3.京大・院・医、4.JST・さきがけ、5.京大・iCeMS）

17:15 ～　17:25

[4P2T16-08（3P-0842）] Tcl1による代謝リプログラミングはiPS細胞の多能性を向上させる

©日本分子生物学会/日本生化学会

○西村 健[1]、相澤 志穂[1]、櫻木 佑太[1]、林 洋平[1]、福田 綾[1]、久武 幸司[1]（1.筑波大・医学・遺伝子制御学）
17:25 ～ 17:35

[4P2T16-09（3P-0843）] ３次元組織形成能を持つヒトiPS由来腎臓ネフロン前駆細胞の増幅培養法の確立
○谷川 俊祐[1]、賀来 祐介[1]、太口 敦博[1]、西中村 隆一[1]（1.熊大・発生研・腎臓発生）
17:35 ～ 17:45

第17会場

一般口頭発表 | 4. 細胞の構造と機能 | 細胞の構造と機能（一般口頭発表）

[4LT17] 細胞の構造と機能 III

座長:山本 林(東京大学)、座長:阪口 雅郎(兵庫県立大学)
11:45 ～ 13:15 第17会場 (神戸国際会議場 5階 501)

[4LT17-01（3P-0304）] 膜タンパク質の小胞体標的化を抑制する機能モチーフ（ ETS）と作用因子
○阪口 雅郎[1]、高原 教代[1]、森川 真衣[1]、寶澤 雅也[1]、阪上 春花[2]（1.兵庫県大・院・生命理学、2.京産大・総生）
11:45 ～ 11:55

[4LT17-02（3P-0181）] OPA1およびカルジオリピンの一方向性のはたらきによるミトコンドリアの選択的な融合機構
○伴 匡人[1]、石原 直忠[1]（1.久留米大・分子生命化学）
11:55 ～ 12:05

[4LT17-03（3P-0411）] リン脂質フリップ活性による膜曲率の形成
高田 直人[1]、内藤 明樹[1]、井上 尊生[2]、中山 和久[1]、高津 宏之[1]、○申 惠媛[1]（1.京大・院薬、2.米国ジョンズホプキンス大・医）
12:05 ～ 12:15

[4LT17-04（3P-0182）] 反転膜小胞を用いた細菌べん毛III型分泌装置によるタンパク質輸送の in vitro再構成
○寺島 浩行[1,2]、川本 晃大[3]、巽 千夏[1]、難波 啓一[3,4]、南野 徹[3]、今田 勝巳[1]（1.阪大・院理・高分子、2.名大・院理・生命、3.阪大・院生命機能、4.理研・QBiC）
12:15 ～ 12:25

[4LT17-05（3P-0305）] IFT-B複合体に依存するBBSome複合体の繊毛内移行
○野崎 梢平[1]、加藤 洋平[1]、中山 和久[1]（1.京大院・薬・生体情報）
12:25 ～ 12:35

[4LT17-06（3P-0306）] 小胞体膜のコレステロールセンサーである SCAPは、小胞体-ゴルジ体接触部位においてVAPA-OSBP-Sac1複合体と相互作用する
○根本 拓海[1]、若菜 裕一[1]、林 開人[1]、多賀谷 光男[1]（1.東京薬大・生命）
12:35 ～ 12:45

[4LT17-07（3P-0307）] αシヌクレイン凝集体が引き起こす細胞障害メカニズムの解析：分裂酵母モデル生物を用いた細胞内輸送システムとの関わり
○高崎 輝恒[1]、吉本 佐紀[1]、萩原 加奈子[1]、佐藤 亮介[1]、杉浦 麗子[1]（1.近畿大・薬）
12:45 ～ 12:55

[4LT17-08（3P-0308）] 細胞毒性を激減させた変異Equinatoxin-IIの創出とスフィンゴミエリンプローブとしての生細胞への応用
○仁木 隆裕[1]、牧野 麻美[3]、小林 俊秀[3]、田口 友彦[2]、新井 洋由[1,4]（1.東大・院薬・衛生化学、2.東大・院薬・疾患細胞生物学、3.理研・佐甲細胞情報研究室、4.AMED-CREST, AMED）
12:55 ～ 13:05

[4LT17-09（3P-0309）] 高速原子間力顕微鏡を用いた細胞表面膜構造動態のライブセルイメージング
○吉田 藍子[1,2]、酒井 信明[3]、植草 良嗣[3]、桑田 昌宏[1]、吉村 成弘[1]、大場 雄介[2]（1.京大・院生命科学・統合生命科学、2.北大・院医・細胞生理、3.オリンパス・技術開発）
13:05 ～ 13:15

一般口頭発表 | 4. 細胞の構造と機能 | 細胞の構造と機能（一般口頭発表）

©日本分子生物学会/日本生化学会

[4P1T17] 細胞の構造と機能 V

座長:林 謙一郎(大阪大学)、座長:村井 稔幸(大阪大学)
13:30 ～ 16:00 第17会場 (神戸国際会議場 5階 501)

[4P1T17-01（3P-0337）] 微小管リモデリングとWnt/PCPシグナルの相互依存性を制御する新規分子メカニズム
○菊池 浩二[1]、中村 輝[2]、新田 昌輝[3]、石 東博[4]、中川 真美[4]、田中 翼[2]、上村 匡[3]、藤森 俊彦[4]、菊池 章[5]、中西 宏之[1]（1.熊大・院生命科学・細胞情報薬理、2.熊大・発生研・生殖発生、3.京大・院生命・細胞認識学、4.基生研・初期発生、5.大阪大・院医・分子病態生化学）
13:30 ～ 13:40

[4P1T17-02（3P-0338）] ホスホイノシチドホスファターゼ SHIP2によるPI(3,4)P2産生を介した MDA-MB-231転移性乳がん細胞のfocal adhesion形成と浸潤能の制御
○伊集院 壮[1]、福本 末記[2]、竹縄 忠臣[2]（1.神戸大・院医・生化学、2.神戸大・院医・分子細胞生物学）
13:40 ～ 13:50

[4P1T17-03（3P-0339）] 膨張顕微鏡法を用いた一次繊毛の超解像イメージング
○加藤 洋平[1]、千葉 秀平[2]、中山 和久[1]（1.京大・院薬・生体情報、2.大阪市立大・院医・細胞機能制御学）
13:50 ～ 14:00

[4P1T17-04（3P-0340）] NEDD8化シグナル伝達経路は血管内皮細胞運動を制御する
○坂上 倫久[1,2]、前川 大志[2]、藤崎 亜耶子[2]、高橋 宏隆[3]、澤崎 達也[3]、泉谷 裕則[1]、東山 繁樹[2]（1.愛大・院医・心外、2.愛大・PROS・細胞増殖・腫瘍制御、3.愛大・PROS・無細胞生命）
14:00 ～ 14:10

[4P1T17-05（3P-0341）] 表面プラズモン共鳴イメージングを利用した細胞表面分子間相互作用のスクリーニング
○笠井 優[1]、伊東 剛[1]、大橋（熊谷） 友紀[1]、鈴木 大輔[1]、入倉 大祐[2]、三宅 司郎[2]、村上 善則[1]（1.東大・医科研・人癌病因遺伝子、2.堀場製作所・先行開発センター）
14:10 ～ 14:20

[4P1T17-06（3P-0342）] RacGAP因子 FilGAPは癌細胞の運動において前後軸極性の維持に関与する
○斉藤 康二[1]、神原 仁人[1]、太田 安隆[1]（1.北里大・理・細胞生物）
14:20 ～ 14:30

[4P1T17-07（3P-0343）] FilGAPは Rho/ROCKの下流で細胞運動と細胞接着の制御を介して上皮管腔形成の成熟に関与する
○隨念 卓也[1]、堤 弘次[1]、太田 安隆[1]（1.北里大・院理・生物科学・細胞生物）
14:30 ～ 14:40

[4P1T17-08（3P-0344）] 微小管モータータンパク質Kinesin-5は創傷治癒において細胞運動に抑制的に働く
○宮崎 碧[1]、堤 弘次[1]、柴垣 芳夫[2]、服部 成介[2]、太田 安隆[1]（1.北里大・理・生物科学、2.北里大・薬・生化学）
14:40 ～ 14:50

[4P1T17-09（3P-0345）] 収縮力の発生による大腸がん細胞の細胞間接着の回復
○伊藤 祥子[1]、竹市 雅俊[1]（1.理研・CDB）
14:50 ～ 15:00

[4P1T17-10（3P-0346）] Cep104は微小管重合活性を持ち一次繊毛の伸長に寄与する
○山添 隆史[1]、梅田 真也[1]、菅谷 優子[2]、永井 友朗[1]、水野 健作[1]（1.東北大・院・生命科学、2.東北大・理・生物）
15:00 ～ 15:10

[4P1T17-11（3P-0347）] Rho-GEF Soloは細胞-基質間接着における力覚応答に関与し上皮腺房形成を制御する
○藤原 佐知子[1]、出口 真次[1]、松井

©日本分子生物学会/日本生化学会

翼[1]、水野 健作[2]（1.阪大・院・基礎工、2.東北大・院・生命科学）
15:10 ～ 15:20

[4P1T17-12（3P-0348）] 上皮形態形成における活性化Srcの時空間的制御
○梶原 健太郎[1]、松本 邦夫[2]、岡田 雅人[1]（1.阪大・微研・発癌制御、2.金沢大・がん研・腫瘍動態制御）
15:20 ～ 15:30

[4P1T17-13（3P-0349）] AMPKによるリン酸化はタイトジャンクション分子cingulinの分子形態を変化させる
○矢野 智樹[1]、鳥澤 嵩征[2]、大岩 和弘[2]、月田 早智子[1]（1.大阪大学大学院生命機能研究科／医学系研究科、2.情報通信研究機構 未来ICT研究所）
15:30 ～ 15:40

[4P1T17-14（3P-0350）] 接着・非接着による細胞骨格制御機構の解析
○立花 宏一[1]（1.産総研・バイオ）
15:40 ～ 15:50

[4P1T17-15（3P-0412）] 魚類ヒレ骨格形成に必須なコラーゲン結晶の自律的合成メカニズム
○黒田 純平[1]、丸田 尚道[1]、中川 日々紀[1]、近藤 滋[1]（1.大阪大学生命機能研究科）
15:50 ～ 16:00

一般口頭発表 | 4. 細胞の構造と機能 | 細胞の構造と機能（一般口頭発表）

[4P2T17] 細胞の構造と機能 VII

座長:齋藤 敦(広島大学)、座長:金子 雅幸(広島大学)
16:15 ～ 17:45 第17会場 (神戸国際会議場 5階 501)

[4P2T17-01（3P-0310）] ダイニン2複合体の構築様式および IFT複合体との相互作用の解明
○濱田 勇輝[1]、鶴見 侑大[1]、加藤 洋平[1]、中山 和久[1]（1.京大・院薬・生体情報）
16:15 ～ 16:25

[4P2T17-02（3P-0311）] COP２コート因子のリン酸化/脱リン酸化による小胞輸送制御メカニズムの解明
○島川 純一[1]、依光 朋弘[1]、佐藤 健[1]（1.東大・総合文化）
16:25 ～ 16:35

[4P2T17-03（3P-0312）] TANGO1は Sec16を ER exit siteにリクルートし、小胞体からの効率的なタンパク質分泌を可能にする
○前田 深春[1]、堅田 利明[2]、齋藤 康太[1]（1.東京大学 大学院薬学系研究科 生理化学教室、2.武蔵野大学 薬学部 分子細胞生物学研究室）
16:35 ～ 16:45

[4P2T17-04（3P-0313）] REI-1 homolog, Parcasはロドプシンのポストゴルジ輸送に必要である
○大塚 侑奈[1]、佐藤 卓至[1]、稲葉 諒太[1]、佐藤 明子[1]（1.広大・院総科）
16:45 ～ 16:55

[4P2T17-05（3P-0314）] 浸潤性がん細胞特異的な新規SNARE複合体は浸潤突起へのMT1-MMPの効率的な輸送に必要である
○長谷川 花奈[1]、宮川 拓也[1]、青木 瑶子[1]、渡邉 卓也[1]、山口 英樹[2]、多賀谷 光男[1]、井上 弘樹[1]（1.東京薬科大・生命科学・分子細胞、2.国立がん研究センター・難治進行がん研究分野）
16:55 ～ 17:05

[4P2T17-06（3P-0251）] リソソーム膜を介したビタミンB_{12}輸送機構の解析
○岡元 拓海[1]、川口 甲介[1]、守田 雅志[1]、今中 常雄[1,2]（1.富山大・院薬、2.広島国際大・薬）
17:05 ～ 17:15

[4P2T17-07（3P-0297）] エンドサイトーシス経路における PtdIns(3)P産生の調節機構
○草苅 健太[1]、鱧屋 隆博[1]、長野 真[1]、十島 純子[2]、十島 二朗[1]（1.東京理大・基礎工・生物工、2.東京工科大・医療保健）
17:15 ～ 17:25

[4P2T17-08（3P-0252）] ヒト ABCB4の第4膜貫通ヘリックスの機能解析
○小川 峻[1]、末永 健人[1]、木岡 紀幸

ConBio2017 Consortium of Biological Sciences 2017

[1]、木村 泰久[1]、植田 和光[1]（1.京大院・農・応用生命科学専攻）
17:25 ～ 17:35

[4P2T17-09（3P-0315）] 神経突起伸長におけるリン脂質分解酵素 PA-PLA$_1$の役割

○前本 佑樹[1]、根本 和彰[1]、本橋 愛依[1]、馬場 崇[1,2]、伊藤 昭博[1]、谷 佳津子[1]（1.東京薬大・生命、2.アメリカ国立衛生研究所）
17:35 ～ 17:45

第18会場

一般口頭発表 | 5. 細胞応答 | 細胞応答（一般口頭発表）

[4AT18] 細胞応答 III

座長:武田 弘資(長崎大学)、座長:吉久 徹(兵庫県立大学)
09:00 ～ 11:30 第18会場 (神戸国際会議場 5階 502)

[4AT18-01（3P-0457）] 脂肪細胞の成熟化を導くPKA依存的な ASK1活性化のメカニズム

○坂内 千尋[1]、服部 一輝[1]、一條 秀憲[1]（1.東大・院薬・細胞情報）
09:00 ～ 09:10

[4AT18-02（3P-0458）] がん遺伝子 v-Srcによる染色体不安定性を介した形質転換

○本田 拓也[1]、森井 真理子[1]、中山 祐治[2]、鈴木 亘[1]、山口 憲孝[1]、山口 直人[1]（1.千葉大院薬・分子細胞生物学、2.京都薬大・生化学）
09:10 ～ 09:20

[4AT18-03（3P-0459）] 新規 CaMKIV特異的阻害ペプチドによる破骨細胞分化制御

○中村 友美[1]、高橋 美帆[1]、藤原 誠[1]、西園 貴志[1]、西村 浩輝[1]、尾藤 晴彦[2]、高柳 広[3]、田口 祐[4]、井上 純一郎[4]、西川 喜代孝[1]（1.同志社大・院生命医科・分子生命化学、2.東大・院医学・神経生化学、3.東大・院医学・免疫学、4.東大・医科研・分子発癌）
09:20 ～ 09:30

[4AT18-04（3P-0460）] Role of ERK1/2 in invasion induction and growth inhibitory activities of TGF-beta in cholangiocarcinoma cell line

○Tuangporn Suthiphongchai[1]、Phaijit Sritananuwat[1]、Natthaporn Sueangoen[1]、Parichut Thummarati[1]（1.Dept. of Biochem., Fac. of Sci., Mahidol Univ.）
09:30 ～ 09:40

[4AT18-05（3P-0499）] 抗ウイルス自然免疫応答におけるミトコンドリア呼吸活性の意義

○吉住 拓馬[1]、今村 博臣[2]、小柴 琢己[1,3]（1.九大院・システム生命科学、2.京大・生命科学、3.九大院・理・生物科学）
09:40 ～ 09:50

[4AT18-06（3P-0500）] 精巣組織器官培養法を用いた放射線照射影響の検討と治療への応用

○福永 久典[1,2]、神長 輝一[2,3]、佐藤 卓也[4]、Karl Butterworth[1]、横谷 明徳[2,3]、小川 毅彦[4]、Kevin Prise[1]（1.クイーンズ大ベルファスト・がん研、2.量子機構・東海量子研、3.茨大・院理、4.横市大・院生医）
09:50 ～ 10:00

[4AT18-07（3P-0501）] 線虫 C. elegansにおける転写因子 DAF-16の活性化に働く熱センサーの同定

○新生 翔[1]、大徳 浩照[1,2]、金子 悠太[1]、深水 昭吉[1,2]（1.筑波大・院・生命環境科学、2.筑波大・TARAセンター）
10:00 ～ 10:10

[4AT18-08（3P-0502）] 独立した二つのシグナル経路による糖輸送体の発現制御：細胞外ヘキソース濃度センサーと細胞内解糖系 fluxモニター

○寺田 祐子[1]、副島 朗子[1]、齋藤 成昭[1]（1.久留米大・分生・細胞）
10:10 ～ 10:20

[4AT18-09（3P-0503）] 培養ディッシュの超音波振動を用いた細胞接着の制御

○谷 健太朗[1]、小山 大介[1]（1.同志社大学 理工学部 ）
10:20 ～ 10:30

©日本分子生物学会/日本生化学会

[4AT18-10（3P-0504）] 間葉系幹細胞における遺伝子発現および細胞内代謝物の酸素濃度応答性について
○藤原 重良[1]、辻 弓子[1]、松永 由紀子[2]、相馬 勤[1]、斉 覇[1]、青木 宏文[1]（1.資生堂 グローバルイノベーションセンター、2.株式会社資生堂 フロンティアサイエンス事業部）
10:30 ～ 10:40

[4AT18-11（3P-0505）] 酵母に見出したフラボタンパク質 Tah18依存的な一酸化窒素合成の制御機構と細胞死誘導機構
○吉川 雄樹[1]、那須野 亮[1]、高木 博史[1]（1.奈良先端大）
10:40 ～ 10:50

[4AT18-12（3P-0506）] ヒト皮膚細胞モデル HaCaTにおける DJ-1誘導因子の同定および酸化ストレス防御効果の評価
○安藤 万由[1]、斎藤 芳郎[1]、石渡 潮路[2]、松熊 祥子[2]、野口 範子[1]（1.同志社大学大学院生命医科学研究科システム生命科学研究室 、2.株式会社ファンケル総合研究所）
10:50 ～ 11:00

[4AT18-13（3P-0507）] がん遺伝子 RAS発現細胞のラメリポディア形成における NF-κBの役割
○伊藤 功彦[1]、杉本 渉[1]、神足 俊也[1,4]、Alvin Guo[3]、江畑 貴弘[1]、平田 宏聡[2]、川内 敬子[1,4]（1.甲南大・FIRST、2.名大・院医学科、3.Duke-NUS、4.日医大・先端研）
11:00 ～ 11:10

[4AT18-14（3P-0508）] IKKβ遺伝子の改変により生じた肝臓における慢性炎症は遺伝子発現の改変を介して化学発がんを抑制する
土谷 佳弘[1,2]、金井 昭教[3]、金輪 真佐美[4]、外丸 祐介[5]、前田 愼[6]、○鎌田 英明[1]（1.広大・院医・医化学、2.広女学院大、3.広大・原医研・がん分子病態、4.広大・自然科学研究支援開発センター・生命科学機器、5.広大・自然科学研究支援開発センター、6.横浜市立大・院医・消化器）
11:10 ～ 11:20

[4AT18-15（3P-0509）] Induction of Nrf2 by Chlorogenic Acid in Hep3B Cells and Elongation of Lifespan of *Caenorhabditis elegans* by Induction of SKN-1 (Nrf2 Homolog)
○Ferbian Siswanto[1]、Ami Oguro[1]、Susumu Imaoka[1]（1.Dept. of Biomed Chem., Sch. of Sci. and Tech., Kwansei Gakuin Univ.）
11:20 ～ 11:30

一般口頭発表 | 4. 細胞の構造と機能 | 細胞の構造と機能（一般口頭発表）

[4LT18] 細胞の構造と機能 IV

座長:高橋 達郎(九州大学)、座長:河野 恵子(名古屋市立大学)
11:45 ～ 13:15 第18会場 (神戸国際会議場 5階 502)

[4LT18-01（3P-0277）] 細胞小器官ミトコンドリアにおける複雑でユニークな DNA複製メカニズム
○安川 武宏[1]、Ian Holt[2]、康 東天[1]（1.九大・院・医・臨床検査医学、2.Biodonostia Research Institute）
11:45 ～ 11:55

[4LT18-02（3P-0278）] Drp1欠損細胞においてmtDNAからなる核様体の配置がミトコンドリア機能制御に関与する
○太田 あずさ[1,2]、石原 孝也[2]、石原 直忠[2]（1.久留米大・院医、2.久留米大・分子生命研・高分子化学）
11:55 ～ 12:05

[4LT18-03（3P-0279）] アフリカツメガエルにおけるDNA量依存的な核サイズ制御機構
○平城 裕子[1]、原 裕貴[1]（1.山口大・院創成科学）
12:05 ～ 12:15

[4LT18-04（3P-0280）] 二核性生物テトラヒメナの大小核核膜孔複合体の違い
○岩本 政明[1]、小坂田 裕子[1]、森 知栄[1]、福田 康弘[2]、長尾 恒治[3]、小布施 力史[3]、平岡 泰[1,3,4]、原口 徳子[1,3,4]（1.情報通信研・未来ICT、2.東北

©日本分子生物学会/日本生化学会

大・院農、3.大阪大・院理・生物科学、4.大阪大・院・生命機能）
12:15 ～ 12:25

[4LT18-05（3P-0281）] 小胞体膜タンパク質 OASISの核膜への局所的集積とその生理的意義

〇浅田 梨絵[1]、金子 雅幸[1]、今泉 和則[1]（1.広島大・院・医歯薬保・分子細胞情報学）
12:25 ～ 12:35

[4LT18-06（3P-0282）] ショウジョウバエの GPI合成酵素 PIG-Bは、核膜で機能する必要がある

〇山本（日野） 美紀[1]、勝俣 恵理[1]、鈴木 えみ子[4]、前田 裕輔[2]、木下 タロウ[3]、後藤 聡[1]（1.立教大・生命理学、2.阪大・微研、3.阪大・免疫フロンティア、4.国立遺伝研）
12:35 ～ 12:45

[4LT18-07（3P-0283）] 分裂酵母に特異的な核膜孔複合体の構造

〇淺川 東彦[1]、糀谷 知子[2,3]、Hui-Ju Yang[1]、小坂田 裕子[2]、大槻 千鶴[1]、長尾 恒治[4,5]、小布施 力史[4,5]、平岡 泰[1,2,5]、原口 徳子[1,2,5]（1.大阪大・院生命機能、2.情報通信研究機構・未来ICT研、3.日本女子大・理、4.北大・生命科学院、5.大阪大・院理）
12:45 ～ 12:55

[4LT18-08（3P-0284）] 植物体細胞におけるセントロメア配置の制御メカニズムと意義の解析

〇坂本 卓也[1]、坂本 勇貴[2]、山下 朋恵[1]、御子 侑香[1]、松永 幸大[1,2]（1.東理大・理工・応用生物科学、2.東理大・総研院・イメージングフロンティア）
12:55 ～ 13:05

一般口頭発表 | 6. ゲノムと遺伝情報 | ゲノムと遺伝情報（一般口頭発表）

[4P1T18] ゲノムと遺伝情報 VI

座長:眞貝 洋一(理化学研究所)、座長:齋藤 都暁(国立遺伝学研究所)
13:30 ～ 16:00 第18会場 (神戸国際会議場 5階 502)

[4P1T18-01（3P-0687）] ALKBH1による哺乳類tRNAの5-formylcytidine修飾生合成

〇川原田 礼以良[1]、鈴木 健夫[1]、鈴木 勉[1]（1.東大・院工・化生）
13:30 ～ 13:40

[4P1T18-02（3P-0688）] 真核生物 tRNAメチル化酵素 Trm7-Trm734複合体の活性発現メカニズムの構造基盤

〇平田 章[1]、岡田 圭祐[1]、吉井 一晃[1]、白石 裕之[1]、西條 慎也[2]、米澤 健人[2]、清水 伸隆[2]、堀 弘幸[1]（1.愛媛大・院理工・物質生命、2.高エネ機構・物構研・放射光）
13:40 ～ 13:50

[4P1T18-03（3P-0689）] ヒト骨格筋特異的な Alu配列エキソン化の制御における A-to-I RNAエディティングの機能と生理的意義

〇野田 悠太[1]、岡田 俊平[1]、矢野 孝紀[1]、鈴木 勉[1]（1.東大・院工・化学生命）
13:50 ～ 14:00

[4P1T18-04（3P-0690）] TERTによる RNA合成と RNA編集との相互作用に関する検討

〇毎田 佳子[1]、櫻井 雅之[2]、城本 悠助[2]、安川 麻美[1]、Marco Ghilotti[1]、有吉 健太郎[3]、西倉 和子[2]、増富 健吉[1]（1.国がん・研・がん幹細胞、2.米・ウィスター研究所、3.弘前大・被ばく医研・放射線生物学）
14:00 ～ 14:10

[4P1T18-05（3P-0691）] 出芽酵母における各 isodecoder tRNAの絶対定量

〇永井 陽久[1]、森 滉平[1]、吉久 徹[1]（1.兵庫県立大・院・生命理学）
14:10 ～ 14:20

[4P1T18-06（3P-0692）] 脱ユビキチン化酵素 USP10が機能する新規 mRNAポリ A鎖制御機構

〇細田 直[1]、福島 真[1]、名和 優紀子[1]、星野 真一[1]（1.名市大・院薬）
14:20 ～ 14:30

[4P1T18-07（3P-0693）] ポリ C結合蛋白質による Sortilinの転写後発現制御機構

©日本分子生物学会/日本生化学会

○和田 俊樹[1]、松葉 慎太郎[1]、小内 伸幸[1]（1.金沢医大・医・免疫学）

14:30 ～ 14:40

[4P1T18-08（3P-0694）] The role of the catalytic subunits of CCR4-NOT complex in mRNA deadenylation and cell viability

○Dina Mostafa[1]、Akinori Takahashi[1]、Taku Kureha[1]、Toru Suzuki[2]、Tadashi Yamamoto[1,2]（1.OIST Graduate University、2.RIKEN Center of Integrative Medical Sciences）

14:40 ～ 14:50

[4P1T18-09（2P-0683）] metabolic stress-induced lncRNA(mlonRNA)転写はクロマチン再編成を誘導し、転写と減数分裂期組換えを活性化させる。

○千松 賢史[1]、浅田 隆大[1]、廣田 耕志[1]（1.首都大・理工・分子物質化学）

14:50 ～ 15:00

[4P1T18-11（3P-0697）] RNA結合タンパク質のMAPK依存的なリン酸化の役割 ～ RNA結合能と細胞内局在の二重制御～

○佐藤 亮介[1]、萩原 加奈子[1]、深尾 亜喜良[1]、藤原 俊伸[1]、平井 晋哉[2]、谷 時雄[2]、高崎 輝恒[1]、杉浦 麗子[1]（1.近畿大・薬、2.熊本大学・自然科学）

15:00 ～ 15:10

[4P1T18-12（3P-0669）] UAP56と URH49による選択的mRNA輸送制御を決定づける分子機構の解明

○藤田 賢一[1]、入江 みどり[1]、原田 光太郎[1]、伊藤 慶紗[1]、引間 孝明[4]、小島 正樹[3]、三上 文三[2]、増田 誠司[1]（1.京大院・生命科学、2.京大院・応用生命、3.東薬大・生命科学、4.理研）

15:10 ～ 15:20

[4P1T18-13（3P-0698）] RNA結合タンパク質 FUSはRNA細胞内局在とその局所的翻訳を阻害する

○安田 恭大[1]、ミリ スタブルーラ[1]（1.National Institutes of Health）

15:20 ～ 15:30

[4P1T18-14（3P-0703）] LINE-1 ORF2タンパク質の一本鎖 DNA切断活性

○中村 光宏[1]、Huira Kopera[1]、John Moran[1,2]（1.ミシガン大・医・ヒト遺伝学、2.ミシガン大・医・内科）

15:30 ～ 15:40

[4P1T18-15（3P-0704）] シロイヌナズナ CCR4-NOTを構成する脱アデニル化酵素の同定と標的認識に関わるRNA結合タンパク質の機能解析

○荒江 星拓[1]、森田 琴音[2]、鈴木 悠也[1]、千葉 由佳子[1,3,4]（1.北大院・生命、2.北大・理、3.北大院・理、4.JST・さきがけ）

15:40 ～ 15:50

一般口頭発表 | 6. ゲノムと遺伝情報 | ゲノムと遺伝情報（一般口頭発表）

[4P2T18] ゲノムと遺伝情報 IX

座長:吉岡 研一(国立がん研究センター研究所)、座長:深川 竜郎(大阪大学)

16:15 ～ 17:45 第18会場 (神戸国際会議場 5階 502)

[4P2T18-01（3P-0524）] ゲノム塩基配列における特定塩基長の頻度情報を利用した深層学習による種分類

○片桐 沙紀[1]、岡村 浩司[2]（1.お茶大・理・生物、2.成育医療セ・システム医学）

16:15 ～ 16:25

[4P2T18-02（3P-0525）] Noonan症候群様症状を示す一卵性双生児の全ゲノム解析

○青砥 早希[1]、岡村 浩司[2]、右田 王介[3,5]、高田 史男[4]、中林 一彦[5]、秦 健一郎[5]（1.成育医療セ・メディカルゲノム、2.成育医療セ・システム医学、3.聖マリアンナ医大・遺伝診療、4.北里大院・臨床遺伝、5.成育医療セ・周産期）

16:25 ～ 16:35

[4P2T18-03（3P-0526）] CRISPRを利用した*in vitro* enChIP法の開発およびゲノム領

©日本分子生物学会/日本生化学会

域間相互作用の検出への応用
○藤田 敏次[1]、藤井 穂高[1]
（1.弘大・院医・ゲノム生化学）
16:35 ～ 16:45

[4P2T18-04（3P-0522）] TFIIICをアンカーとしてtDNAに結合する転写因子群の特徴抽出
○岩崎 裕貴[1]、池村 淑道[2]、黒川 顕[1]、岡田 典弘[3]（1.国立遺伝学研究所、2.長浜バイオ大学、3.公益財団法人国際科学振興財団）
16:45 ～ 16:55

[4P2T18-05（3P-0527）] SAF-Aはオリゴマーを形成しクロマチン結合 RNAとともに間期の染色体構造を制御する
○野澤 竜介[1]、Nick Gilbert[1]
（1.エディンバラ大）
16:55 ～ 17:05

[4P2T18-06（3P-0528）] ヌクレオソーム結合因子の探索及び機能解析
○鯨井 智也[1]、粉間 信樹[1]、増本 博司[2]、胡桃坂 仁志[1,3]（1.早稲田大・院・先進理工、2.長崎大・医・共同利用研究センター、3.早稲田大・構造生物創薬研）
17:05 ～ 17:15

[4P2T18-07（3P-0529）] ゲノム動力学シミュレーションによる出芽酵母のすべてのtRNA遺伝子の空間分布解析
○徳田 直子[1]、笹井 理生[1]
（1.名大・院工）
17:15 ～ 17:25

[4P2T18-08（3P-0530）] ネオセントロメアの解析により明らかになったセントロメア領域のゲノム3D構造の実体
○西村 浩平[1]、堀 哲也[1]、古宮 正隆[2]、伊藤 武彦[2]、深川 竜郎[1]
（1.阪大・生命機能、2.東工大・生命理工）
17:25 ～ 17:35

[4P2T18-09（3P-0531）] セパレースの急激な活性化と安定した染色体分配
○進藤 軌久[1]、小西 惇[1]、広田 亨[1]
（1.公財）がん研究会・がん研）
17:35 ～ 17:45

第19会場

一般口頭発表 | 4. 細胞の構造と機能 | 細胞の構造と機能（一般口頭発表）

[4AT19] 細胞の構造と機能 II

座長:原 裕貴(山口大学)、座長:榎本 将人(京都大学)
09:00 ～ 11:20 第19会場 (神戸国際会議場 5階 504+505)

[4AT19-01（3P-0378）] JNKと Yorkieの協調は多倍体肥大化細胞を誘導することで腫瘍悪性化を促進する
○叢 博杰[1]、大澤 志津江[1]、井垣 達吏[1]（1.京都大学 大学院生命科学研究科 システム機能学）
09:00 ～ 09:10

[4AT19-02（3P-0379）] 細胞分裂の異常を監視する核小体の新たな役割
○川畑 拓斗[1,2]、河原 康一[1]、下川 倫子[1]、上條 陽平[1,2]、白石 岳大[1,3]、朝日 汰一[1,4]、山本 雅達[1]、新里 能成[1]、南 謙太朗[1]、武井 孝行[4]、吉田 昌弘[4]、有馬 一成[2,5]、濱田 季之[2,5]、古川 龍彦[1]（1.鹿大・院医歯・分子腫瘍、2.鹿大・院理工・システム情報、3.鹿大・院理工・生命化学、4.鹿大・工・環境化学プロセス工学、5.鹿大・学術研究院・理工学域・理学系）
09:10 ～ 09:20

[4AT19-03（3P-0370）] がん細胞における p27機能抑圧因子の探索
○米谷 達哉[1]、河崎 優太郎[1]、松下 凪沙[1]、美根 崇志[1]、千葉櫻 拓[1]
（1.東農大院・バイオ）
09:20 ～ 09:30

[4AT19-04（3P-0380）] Dynamic process of CDK-regulated assembly of the CENP-A deposition machinery
○Dongqing Pan[1]、Kerstin Klare[1]、Arsen Petrovic[1]、Annika Take[1]、Kai Walstein[1]、Priyanka Singh[1]、Arnaud Rondelet[1]、Alexander Bird[1]、Andrea Musacchio[1]（1.Department of Mechanistic Cell Biology, Max Planck Institute of Molecular Physiology, Dortmund, Germany）
09:30 ～ 09:40

©日本分子生物学会/日本生化学会

[4AT19-05（3P-0381）] 染色体オシレーションと異常な結合の修正を記述する動原体-微小管結合の数学的モデル
〇Manuel Campos[1]、家村 顕自[1]、田中 耕三[1]（1.東北大・加齢研・分子腫瘍）
09:40 ～ 09:50

[4AT19-06（3P-0382）] キアズマによる染色体とスピンドルの結合修正と相同染色体のセントロメアの同調的な往復運動
〇西 絵里子[1]、板橋 裕太[1]、勝俣 和大[1]、平安 亜美[1]、山本 歩[1]（1.静大・院総合科学・理）
09:50 ～ 10:00

[4AT19-07（3P-0383）] 格子光シート顕微鏡により取得した細胞分裂装置3次元動態の時空間情報解析
〇山下 典理男[1]、森田 正彦[1]、Wesley Legant[2]、Bi-Chang Chen[2,3]、Eric Betzig[2]、横田 秀夫[1]、清末 優子[4]（1.理研・RAP、2.HHMI, Janelia Research Campus、3.RCAS・Academia Sinica、4.理研・CLST）
10:00 ～ 10:10

[4AT19-08（3P-0384）] 中心体複製開始を司る PLK4中心体局在機構の解明
〇中村 貴紀[1]、西住（渡海） 紀子[1]、中澤 嵩[2]、鈴木 貴[2]、武川 睦寛[1]（1.東大・医科研・分子シグナル制御、2.阪大・数理/データ科学教育研究センター）
10:10 ～ 10:20

[4AT19-09（3P-0385）] 可逆的中心体消失法を用いた中心体非依存的紡錘体形成メカニズムの解析
〇渡邉 定則[1,2,3]、Franz Meitinger[1,2]、Andrew Shiau[4]、Karen Oegema[1,2]、Arshad Desai[1,2]（1.カリフォルニア大・サンディエゴ校・細胞分子医学、2.ルドウィグ癌研究所、3.名大・院理・生命理学、4.ルドウィグ癌研究所 低分子化合物探索部）
10:20 ～ 10:30

[4AT19-10（3P-0386）] 増殖抑制刺激依存的な一次繊毛形成における Cep97の分解の役割
〇向山 祥帆[1]、永井 友朗[1]、水野 健作[1]（1.東北大・院・生命科学）
10:30 ～ 10:40

[4AT19-11（3P-0387）] 細胞質ダイニン軽鎖 Tctex-1は分枝アクチン形成とエンドサイトーシスを介して一次繊毛短縮を促進する
〇斎藤 将樹[1,2]、大津 航[2]、柳澤 輝行[1]、Ching-Hwa Sung[2]（1.東北大・医・分子薬理、2.米国・コーネル大・医・眼科）
10:40 ～ 10:50

[4AT19-12（3P-0388）] 老化細胞が分泌するエクソソームの解析
〇岡田 遼[1]、長尾 恒治[2]、鐘巻 将人[3]、小布施 力史[2]、原 英二[4]、高橋 暁子[1]（1.がん研・細胞老化プロジェクト、2.大阪大・院理・生物科学・染色体構造機能学、3.遺伝研・分子細胞工学、4.大阪大・微研遺伝子生物学）
10:50 ～ 11:00

[4AT19-13（3P-0389）] Tschimganineとその類縁体はSty1経路を活性化して酵母の経時寿命を延長する
〇日比 駿秀[1]、大塚 北斗[1]、島崎 嵩史[1]、乾 祥吾[1]、澁谷 正俊[1]、山本 芳彦[1]、饗場 浩文[1]（1.名大・院創薬科学）
11:00 ～ 11:10

[4AT19-14（3P-0390）] 周期的な Ca2+の取り込み・アクチンの重合・エキソサイトーシスにより段階的に伸長するカビの菌糸
〇竹下 典男[1]、Minoas Evangelinos[2]、Lu Zhou[3]、芹澤 知子[1]、高谷 直樹[1]、Ulrich Nienhaus[3]、Reinhard Fischer[2]（1.筑波大・生命環境系、2.カールスルーエ工科大学・微生物学、3.カールスルーエ工科大学・応用物理学）
11:10 ～ 11:20

©日本分子生物学会/日本生化学会

一般口頭発表 | 5. 細胞応答 | 細胞応答（一般口頭発表）

[4LT19] 細胞応答 V

座長:川内 敬子(甲南大学)、座長:田中 信之(日本医科大学)
11:45 ～ 13:15 第19会場 (神戸国際会議場 5階 504+505)

[4LT19-01（3P-0444）] 活性化型 RASによるマクロピノサイトーシスを伴う細胞死の誘導および MYCによるその抑制
○大坪 香澄美[1,2]、温川 恭至[1]、中原 知美[1]、清野 透[1]（1.国立がんセ・研究所・発がん・予防、2.東京医科歯科・医歯学総合・生命理工）
11:45 ～ 11:55

[4LT19-02（3P-0445）] KRasタンパク質の C末端側における新規の点変異は特異な生化学的特性と細胞がん化能を示す
○多胡 憲治[1]、多胡 めぐみ[2]、太田 聡[1]、大村 千尋[1]、松儀 実広[1]、柳澤 健[1]（1.自治医大・生化学、2.慶應大・薬・衛生化学）
11:55 ～ 12:05

[4LT19-03（3P-0446）] Wnt/Rasシグナル標的因子 Arl4cの膵癌における機能
○松本 真司[1]、赤間 俊之[1]、庄嶋 健作[1]、菊池 章[1]（1.阪大院・医・分子病態生化学）
12:05 ～ 12:15

[4LT19-04（3P-0421）] PRLによる酸性微小環境への適応
○船戸 洋佑[1]、吉田 篤[1]、山崎 大輔[1]、三木 裕明[1]（1.阪大・微研・細胞制御）
12:15 ～ 12:25

[4LT19-05（3P-0447）] 低酸素条件下での脂肪組織由来間葉系幹細胞における Notchシグナルの役割
○井上 翔[1]、森山 麻里子[1]、木村 徳仁[1]、藤村 朱美香[1]、和多田 巧[1]、小澤 俊之[2]、早川 堯夫[1]、森山 博由[1]（1.近大・薬総研、2.大阪市大・院医）
12:25 ～ 12:35

[4LT19-06（3P-0448）] チロシンキナーゼ Sykによるファゴソームの酸性化と殺菌能の調節
○田畑 裕幸[1]、森田 寛之[1]、通山 由美[1]（1.姫路獨協大・薬学部・生化学）
12:35 ～ 12:45

[4LT19-07（3P-0449）] 新規細胞体積調節分子 ASK3と制御分子 mGluR5の同定
○丹羽 國祥[1]、渡邊 謙吾[1]、名黒 功[1]、一條 秀憲[1]（1.東京大学大学院薬学系研究科 細胞情報学教室）
12:45 ～ 12:55

[4LT19-08（3P-0450）] ヒト２万種プロテインアレイを用いたユビキチンリガーゼ MIB2の大規模基質探索と解析
○城戸 康希[1]、上松 篤史[1]、高橋 宏隆[1]、澤崎 達也[1]（1.愛媛大・PROS・無細胞生命科学）
12:55 ～ 13:05

[4LT19-09（3P-0451）] コムギ無細胞ヒトプロテインアレイを基盤とした新規直鎖型ポリユビキチン鎖結合タンパク質の探索と機能解析
○長尾 和哉[1]、中島 達朗[1]、高橋 宏隆[1]、徳永 文稔[2]、澤崎 達也[1]（1.愛媛大・PROS・無細胞生命科学、2.大阪市大・院医・分子病態学 ）
13:05 ～ 13:15

一般口頭発表 | 4. 細胞の構造と機能 | 細胞の構造と機能（一般口頭発表）

[4P1T19] 細胞の構造と機能 VI

座長:鈴木 喜晴(東京医科歯科大学)、座長:亀高 諭(名古屋大学)
13:30 ～ 16:00 第19会場 (神戸国際会議場 5階 504+505)

[4P1T19-01（3P-0351）] ヒト扁平上皮がん A431細胞の集団浸潤におけるインテグリン α2β1の機能
○熊谷 祐二[1]、小林 純子[2]、芳賀 永[3]（1.北大・院・生命科学、2.北大・院・医学、3.北大・院・先端生命）
13:30 ～ 13:40

[4P1T19-02（3P-0352）] 上皮細胞形状ゆらぎに伴う細胞間張力変化と細胞接着分子動態の相互関係
○原 佑介[1]、Murat Shagirov[1]、Kok Hwee Lim[1]、遠山 祐典[1,2]（1.シンガポール国立大学 メカノバイオロジー研究所、2.シンガポール国立大学 生命科学）
13:40 ～ 13:50

[4P1T19-03（3P-0353）] FoxO3aはオートファジーを介して創傷治癒に影響を及ぼす

ConBio2017 Consortium of Biological Sciences 2017

○森田 貴士[1]、森山 麻里子[1]、後藤 ありさ[1]、森田 遼[1]、丸谷 祐樹[1]、松本 諭以子[1]、早川 堯夫[1]、森山 博由[1]（1.近大・薬総研）

13:50 ～　14:00

[4P1T19-04（3P-0354）] 骨石灰化形成機構の解明

○桑田 裕太[1]、内山 大輝[1]、木原 隆典[1]（1.北九大・院理・国際環境工学）

14:00 ～　14:10

[4P1T19-05（3P-0355）] 腎糸球体足細胞の足突起形成におけるエズリンの役割

○波多野 亮[1]、川口 高徳[1]、浅野 真司[1]（1.立命館大・薬・分子生理）

14:10 ～　14:20

[4P1T19-06（3P-0356）] 高浸透圧下での TRAF2による ASK3の不活性化

○塩田 光司[1]、渡邊 謙吾[1]、一條 秀憲[1]（1.東大・院薬・細胞情報）

14:20 ～　14:30

[4P1T19-07（3P-0357）] 新規がん関連因子 CKAP4による細胞運動調節機構

○大杉 祥仁[1]、麓 勝巳[1]、菊池 章[1]（1.阪大・院医・分子病態生化学）

14:30 ～　14:40

[4P1T19-08（3P-0358）] ライブイメージングによるI型コラーゲンの分泌およびプロセシング過程の解析

○田中 利明[1]、生駒 俊之[2]（1.東工大・生命理工、2.東工大・物質理工）

14:40 ～　14:50

[4P1T19-09（3P-0359）] Cdc42依存性メンブレントラフィッキングによる管腔臓器の形成・維持機構

○設楽 彰子[1,4]、Christopher Bleck[2]、Matthew Hoffman[3]、Roberto Weigert[4]（1.朝日大・歯・歯科薬理、2.米国衛生研・心肺血液研、3.米国衛生研・頭蓋顔面研、4.米国衛生研・癌研）

14:50 ～　15:00

[4P1T19-10（3P-0360）] 細胞発生力を評価する画像解析手法の開発

○松井 翼[1]、三浦 壮[1]、出口 真次[1]（1.阪大・院基礎工・生体工学）

15:00 ～　15:10

[4P1T19-11（3P-0361）] Circumferential actin beltの張力は、 Merlinの核細胞質シャトリングを介して YAP/TAZの核局在を抑制する

○古川 可奈[1]、山下 和成[1]、大野 茂男[1]（1.横浜市大・医・分子生物）

15:10 ～　15:20

[4P1T19-12（3P-0362）] Possible Role of Amphiphysin 1 in Glomerular Podocyte

○The Mon La[1]、Natsuki Wakita[1]、Kento Sumida[1]、Tetsuya Takeda[1]、Tadashi Abe[1]、Kohji Takei[1]、Hiroshi Yamada[1]（1.Dep. of Neurosci., Grad. Sch. of Med., Dent. and Pharm. Sci., Okayama Univ.）

15:20 ～　15:30

[4P1T19-13（3P-0363）] 脳室壁上衣細胞における平面内細胞極性と運動性多繊毛の配向

○高岸 麻紀[1]、高橋 雅英[1]（1.名大・院医・腫瘍病理）

15:30 ～　15:40

[4P1T19-14（3P-0364）] 平面内細胞極性制御因子 Dapleを介した気管多繊毛同調運動の制御メカニズム

○中山 彰吾[1]、Elisa Herawati[1,6]、高岸 麻紀[2]、鳥澤 嵩征[3]、難波 利典[4]、矢野 智樹[1,5]、石原 秀至[4]、大岩 和弘[3]、高橋 雅英[2]、月田 早智子[1,5]（1.阪大院・医学、2.名大院・医学、3.国立情報通信研究機構、4.東大院・総合文化、5.阪大院・生命機能、6.Dept. of Biology, Faculty of Mathematics and Natural Science, Universitas Sebelas Maret）

15:40 ～　15:50

[4P1T19-15（3P-0365）] 内耳感覚毛の「根」の形成および維持における TRIOBPアイソフォームの役割

○勝野 達也[1]、太田 啓介[2]、池谷 真[3]、小野 和也[1,4]、大森 孝一[1]、伊

©日本分子生物学会/日本生化学会

藤 壽一[1,5]、北尻 真一郎[1,6]
（1.京大・医・耳鼻咽喉科、2.久留米大・院医・解剖、3.京大・CiRA・未来生命科学、4.Lab. of Mol. Biol., NIDCD/NIH、5.滋賀県立成人病センター研究所、6.信大・医・耳鼻咽喉科）
15:50 ～　16:00

一般口頭発表 | 4. 細胞の構造と機能 | 細胞の構造と機能（一般口頭発表）

[4P2T19] 細胞の構造と機能 VIII

座長:阿部 一啓(名古屋大学)、座長:渡邉 力也(東京大学)
16:15 ～ 17:45　第19会場 (神戸国際会議場 5階 504+505)

[4P2T19-01（3P-0286）] ホスファチジルセリン脱炭酸酵素を用いた細胞質側ホスファチジルセリン消去系の開発
○向井 康治朗[1]、松平 竜之[1]、新井 洋由[1,2,3]、田口 友彦[2]（1.東大院・薬・衛生化学、2.東大院・薬・疾患細胞、3.AMED-CREST）
16:15 ～　16:25

[4P2T19-02（3P-0287）] Split-GFPを用いたオルガネラ膜間テザリング因子の探索
○柿元 百合子[1]、遠藤 斗志也[2]、田村 康[1]（1.山形大・院理工学・理、2.京産大・総合生命科学・生命システム）
16:25 ～　16:35

[4P2T19-03（3P-0288）] VAT-1による小胞体-ミトコンドリア間リン脂質輸送の構造的および機構的洞察
○渡邊 康紀[1]、田村 康[2]、遠藤 斗志也[3]（1.愛媛大・院農、2.山形大・理、3.京産大・総合生命）
16:35 ～　16:45

[4P2T19-04（3P-0289）] ミトコンドリア膜透過中に翻訳停止したリボソーム・新生鎖複合体の構造・機能研究
○荒磯 裕平[1]、包 明久[2]、André Heuer[3]、Roland Beckmann[3]、吉川 雅英[2]、遠藤 斗志也[1]（1.京産大・総合生命、2.東大・院医、3.ミュンヘン大学・Gene Center）
16:45 ～　16:55

[4P2T19-05（3P-0290）] 通過途上の疎水性配列と相互作用する Sec61トランスロコン内部位のマッピング
○木田 祐一郎[1]、阪口 雅郎[1]（1.兵庫県大・院・生命理）
16:55 ～　17:05

[4P2T19-06（3P-0291）] ペルオキシソーム膜透過装置複合体の同定と輸送メカニズムの解明
○田村 茂彦[1,2]、河村 優子[1]、藤木 幸夫[3]（1.九大院・システム生命、2.九大・基幹教育院、3.九大・生医研）
17:05 ～　17:15

[4P2T19-07（3P-0292）] モヤモヤ病タンパク質ミステリンの活性・機能相関
○會退 詩央莉[1]、森戸 大介[1]、杉原 宗親[1]、永田 和宏[1]（1.京産大・総合生命）
17:15 ～　17:25

[4P2T19-08（3P-0293）] ANKHD1による小胞形成と細胞機能の解析
○北又 学[1]、塙 京子[1]、丸山 耕平[1]、末次 志郎[1]（1.奈良先端大・バイオサイエンス）
17:25 ～　17:35

[4P2T19-09（3P-0294）] ユビキチンリガーゼ活性による小胞体の新しい形態調節機構
○梶保 博昭[1]、山本 泰憲[1]、匂坂 敏朗[1]（1.神戸大・院医・膜動態学）
17:35 ～　17:45

第24会場

一般口頭発表 | 8. 疾患生物学 | 疾患生物学（一般口頭発表）

[4LT24] 疾患生物学 VII

座長:小嶋 聡一(理化学研究所)、座長:田中 智之(岡山大学)
11:45 ～ 13:15　第24会場 (神戸商工会議所 3階 神商ホールA)

[4LT24-01（3P-1160）] 脂質調節因子である microRNA-33は複数の独立したメカニズムで炎症を悪化させ、腹部大動脈瘤を悪化させる
○中尾 哲史[1]、堀江 貴裕[1]、西賀 雅隆[1]、西野 共達[1]、中関 典子[1]、井出 裕也[1]、小山 智史[1]、曽和 尚也[1]、西

©日本分子生物学会/日本生化学会

仁勇[1]、中島 康弘[1]、尾野 亘[1]
（1.京大・院医・循環器内科学）
11:45 ～ 11:55

[4LT24-02（3P-1003）] 結核肉芽腫形成を制御する好中球機能の解明
○水谷 龍明[1]、吉岡 祐弥[2]、大内 結貴[2]、森田 大輔[1,2]、杉田 昌彦[1,2]
（1.京大・ウイルス再生研・細胞制御、2.京大・院生命科学・高次生命科学）
11:55 ～ 12:05

[4LT24-03（3P-1004）] マスト細胞を介する線維化因子の誘導
○神谷 亜美[1]、定兼 友樹[1]、古田 和幸[1]、田中 智之[1]（1.岡山大院・医歯薬・免疫生物）
12:05 ～ 12:15

[4LT24-04（3P-1005）] マクロファージの USP2はOCTを修飾し、炎症性サイトカインの産生を抑制する。
○北村 浩[1]、岡部 潤[2]、石野 武志[1]、嶋本 良則[3]、高橋 英機[4]（1.酪農大・獣医・獣医、2.Dept. of Diabetes, Cent. Clin. Sch., Monash Univ.、3.酪農大・獣医・獣医保健看護、4.理研・脳科学・動物資源）
12:15 ～ 12:25

[4LT24-05（3P-1006）] TANKは STINGシグナルの制御を介し Pristaneによる肺胞出血を抑止する
○若林 敦子[1]、竹内 理[1]（1.京大・ウイルス・再生研）
12:25 ～ 12:35

[4LT24-06（3P-1007）] ビタミン K依存性カルボキシラーゼ GGCXによる脳内ウイルス感染時の恒常性維持機構の解析
○岡崎 朋彦[1]、後藤 由季子[1]
（1.東大・院薬・分子生物学）
12:35 ～ 12:45

[4LT24-07（3P-1008）] グリア細胞における calcineurin欠損が小腸の変性・炎症と消化・吸収不良を引き起こす
○大倉 宇海[1]、平嶋 尚英[1]、田中 正彦[1]（1.名市大院・薬・生体超分子システム解析学）
12:45 ～ 12:55

[4LT24-08（3P-0999）] MafBは脾臓における腫瘍随伴マクロファージ前駆体を制御し、がんを抑制する
○藤井 梨紗[1,2]、濱田 理人[2]、井上 由理[1,2]、今村 優希[2]、工藤 崇[2]、高橋 智[2]（1.筑大・院人間総合科学・フロンティア医科学、2.筑大・医学医療・解剖発生）
12:55 ～ 13:05

[4LT24-09（3P-1009）] 炎症性腸疾患患者における喫煙による腸内環境の変動
○宮内 栄治[1]、佐藤 由美子[1]、内山 幹[2]、小井戸 薫雄[2]、荒川 廣志[3]、川住 雅美[1]、伊藤 鮎美[1]、大草 敏史[2]、大野 博司[1]（1.理研・IMS・粘膜システム研究グループ、2.慈恵医大・消化器・肝臓内科、3.慈恵医大・内視鏡部）
13:05 ～ 13:15

一般口頭発表 | 8. 疾患生物学 | 疾患生物学（一般口頭発表）

[4P2T24] 疾患生物学 XI

座長:木戸 博(徳島大学)、座長:田口 友彦(東京大学)
16:15 ～ 17:45 第24会場 (神戸商工会議所 3階 神商ホールA)

[4P2T24-01（3P-1010）] MicroRNA-381の A to I RNA editingによる関節炎制御メカニズムの解明
○田中 陽子[1,2]、高田 修治[3]、飯笹 久[4]、Artemis Hatzigeorgiou[5]、宮澤 慎一[6]、古松 毅之[6]、西田 圭一郎[6]、浅原 弘嗣[1]（1.医科歯科大・医歯学総合・シス医、2.学振、3.成育セ・シス医、4.島根大・微生物学、5.DIANA-Lab, BSRC Alexander Fleming、6.岡大・医歯薬学・人体構成）
16:15 ～ 16:25

[4P2T24-02（3P-1011）] 関節リウマチ治療前後で変動する血液循環 miRNAの生理作用の解析
○早川 国宏[1]、川崎 美紀子[1]、平井 琢也[2]、藤城 真樹[1]、芳田 祐子[1]、渡部 晃三[1]、片岡 裕子[1]、池田 圭吾[2]、森本 真司[2]、関川 巖[1,2]
（1.順大・院医・環境研、2.順大附

©日本分子生物学会/日本生化学会

属浦安病院・膠原病・リウマチ内科）
16:25 ～ 16:35

[4P2T24-03（3P-1012）] 関節リウマチ患者由来自己抗体が認識する非変性状態の抗原の同定と自己抗体誘導仮説
○小澤 龍彦[1]、津田 玲奈[2]、浜名 洋[1]、小林 栄治[1]、多喜 博文[2]、戸邊 一之[2]、村口 篤[1]、岸 裕幸[1]（1.富山大・医・免疫、2.富山大・医・第一内科）
16:35 ～ 16:45

[4P2T24-04（3P-1013）] クローン病モデルマウスSAMP1/YitFcにおけるPaneth細胞α-defensinのmisfolding
○清水 由宇[1]、中村 公則[2]、菊池 摩仁[2]、櫻木 直也[2]、綾部 時芳[2]（1.北大・生命科学・自然免疫、2.北大・先端生命・細胞生物化学・自然免疫）
16:45 ～ 16:55

[4P2T24-05（3P-1014）] 乳児期の経口免疫寛容と食物アレルギー発症の判定に有用なイムノグロブィンクラススイッチパターンの違いと IgEの高抗原親和性、低親和性 IgE
○木戸 博[1]、苛原 誠[2]、品原 和加子[1]、香美 祥二[2]（1.徳島大学先端酵素学研究所、2.徳島大学医学部小児科）
16:55 ～ 17:05

[4P2T24-06（3P-1015）] T細胞の自己寛容性確立における CCL21の役割
○大東 いずみ[1]、石丸 直澄[2]、片貝 智哉[3]、高浜 洋介[1]（1.徳大・先端酵素・免疫系発生学、2.徳大・院歯・口腔分子病態学、3.新潟大・院医歯・免疫・医動物学）
17:05 ～ 17:15

[4P2T24-07（3P-1016）] Mrgファミリーを介するマスト細胞活性化機構の解明
○酒巻 一眞[1]、綿貫 遥[1]、古田 和幸[1]、田中 智之[1]（1.岡山大院・医歯薬・免疫生物）
17:15 ～ 17:25

[4P2T24-08（3P-1017）] 細胞質 DNA応答分子STINGの遺伝性変異に起因する炎症応答恒常活性化機構の解析
○小川 笑満里[1]、向井 康治朗[1]、田口 友彦[2]、新井 洋由[1,2,3]（1.東大・院薬・衛生化学、2.東大・院薬・疾患細胞、3.AMED-CREST）
17:25 ～ 17:35

[4P2T24-09（3P-1018）] 胚中心形成における新規 LysoPS 受容体の役割
○新上 雄司[1,2,3]、佐藤 慧太[1]、深見 郁也[1]、青木 淳賢[1,3]（1.東北大学大学院薬学研究科分子細胞生化学、2.日本学術振興会特別研究員DC、3.AMED-CREST）
17:35 ～ 17:45

第25会場

一般口頭発表 | 2. タンパク質 | タンパク質（一般口頭発表）

[4AT25] タンパク質 I

座長:玉田 太郎(量子科学技術研究開発機構)、座長:伊藤 隆(首都大学東京)
09:00 ～ 11:30 第25会場 (神戸商工会議所 3階 神商ホールB)

[4AT25-01（3P-0123）] 再構成型細胞様 GUVを利用したポリグルタミンタンパク質の凝集と凝集抑制の解析
○町田 幸大[1,2]、神澤 空流[1]、井寄 真仁[1]、山本 悠貴[1]、岡留 壮志[1]、今高 寛晃[1,2]（1.兵庫県立大・院工・応用化学、2.理研・ライフサイエンス）
09:00 ～ 09:10

[4AT25-02（3P-0124）] Hsp70シャペロンによるAAA+プロテアーゼ分解基質のトリアージ
○杉本 真也[1]、寺尾 明莉[1]、山中 邦俊[2]、小椋 光[2]、水之江 義充[1]（1.慈恵医大・医・細菌、2.熊本大・発生研・分子細胞制御）
09:10 ～ 09:20

[4AT25-03（3P-0125）] AAA molecular chaperone Cdc48 functions with the 20S proteasome to maintain protein homeostasis
○Md Tanvir Islam[1,2]、Seiya

©日本分子生物学会/日本生化学会

Kaneko[1]、Teru Ogura[1,2,3]、Masatoshi Esaki[1,3]（1.Dept. of Mol. Cell Biol., Inst. of mol. Embryo. and Genetics, Kumamoto Univ.、2.Prog. for Lead. Grad. Sch. 'HIGO Program', Kumamoto Univ.、3.Core Res. for Evolu. Sci. and Tech. Japan Sci. and Tech. Agency）

09:20 ～ 09:30

[4AT25-04（3P-0126）] 新規リボソーム品質管理因子Vms1による新生ミトコンドリアタンパク質の品質管理機構

○井澤 俊明[1,2]、Sae-Hun Park[1]、Liang Zhao[1]、Ulrich Hartl[1]、Walter Neupert[1,2]（1.Department of Cellular Biochemistry, Max Planck Institute of Biochemistry、2.Department of Cell Biology, Biomedical Center, Medical Faculty, University of Munich）

09:30 ～ 09:40

[4AT25-05（3P-0127）] プロテオグリカン型糖鎖修飾酵素遺伝子の転写を制御するゴルジ体ストレス応答経路の解析

○谷口 麻衣[1]、小森 亮太[1]、奥田 知穂[1]、田中 隆也[1]、高木 菜耶[1]、糸井 雄基[1]、佐々木 桂奈江[1]、若林 貞夫[1]、吉田 秀郎[1]（1.兵庫県大・院・生命理学）

09:40 ～ 09:50

[4AT25-06（3P-0128）] P5による酸化的フォールディングの触媒機構の解明

○奥村 正樹[1,2]、金村 進吾[2]、荒井 堅太[3]、秋山 修志[4]、稲葉 謙次[1,5]（1.東北大・多元研、2.東北大・学際研、3.東海大・理・化、4.分子研、5.CREST・JST）

09:50 ～ 10:00

[4AT25-07（3P-0120）] 複数のダイズ PDIファミリータンパク質とダイズ Ero1による協調的なタンパク質の酸化的フォールディング

○奥田 綾[1]、松崎 元紀[1]、河野 慧一[1]、土 雄一朗[1]、廣瀬 明歩[1]、増田 太郎[1]、裏出 令子[1]（1.京大・院農・農学）

10:00 ～ 10:10

[4AT25-08（3P-0129）] 亜鉛イオンは ERp44によるタンパク質品質管理機構を制御する

○天貝 佑太[1]、渡部 聡[1]、原山 麻奈美[1]、山田 桃[1]、Sara Sannino[2]、Roberto Sitia[2]、稲葉 謙次[1]（1.東北大・多元研、2.IRCCS Ospedale San Raffaele, Italy）

10:10 ～ 10:20

[4AT25-09（3P-0130）] 二本鎖フォールディング反応によるウシ膵臓インスリンおよびセレノインスリンの調製

○荒井 堅太[1]、武居 俊樹[2]、奥村 正樹[3,4]、渡部 聡[3]、天貝 佑太[3]、朝比奈 雄也[2]、北條 裕信[2,3]、稲葉 謙次[3,5]、岩岡 道夫[1]（1.東海大・理・化、2.阪大・蛋白研、3.東北大・多元研、4.東北大・学際研、5.CREST・JST）

10:20 ～ 10:30

[4AT25-10（3P-0131）] リポカリン型プロスタグランジン D合成酵素において高度に保存されたジスルフィド結合が構造安定性およびペプシン消化に与える影響

○厚地 省吾[1]、寺岡 佳晃[1,2]、李 映昊[3]、後藤 祐児[3]、乾 隆[1]（1.大阪府大・院・生命環境、2.日本学術振興会特別研究員DC、3.阪大・蛋白研）

10:30 ～ 10:40

[4AT25-11（3P-0132）] 植物小胞体に含まれる遊離*N*-グリカン (FNGs) 構造解析と FNGs のタンパク質フォールディング促進活性

○勝部 諒[1]、阿部 義人[2]、前田 恵[1]、植田 正[2]、木村 吉伸[1]（1.岡山大院・環境生命、2.九州大院・薬学府）

10:40 ～ 10:50

[4AT25-12（3P-0133）] 高度好熱菌 protein kinase TpkD の構造安定性に対する ATP の効果

○藤野 友輔[1]、井上 真男[2]、藤井 裕己[3]、倉光 成紀[4]、増井 良治[1]（1.大阪

©日本分子生物学会/日本生化学会

市大・院理、2.京大・院農、3.阪大・院生命機能、4.阪大・院理）
10:50 ～ 11:00

[4AT25-13（3P-0134）] 部位特異的*in vivo*光架橋法による生細胞内での新生タンパク質のフォールディング・複合体形成の動的過程の解析
○宮崎 亮次[1]、明後 尚美[1]、森 博幸[1]、秋山 芳展[1]（1.京大・ウイルス再生研）
11:00 ～ 11:10

[4AT25-14（3P-0135）] シャペロニン工学：大腸菌GroELの特性を活かした医学・工学的応用可能性3例
○溝端 知宏[1]、島 陽子[1]、福井 直也[1]、Bimlesh Ojha[1]、本郷 邦広[1]、河田 康志[1]（1.鳥取大院・工・化学生物応用）
11:10 ～ 11:20

[4AT25-15（3P-0136）] 大腸菌 Hsp90 (HtpG)によるHsp70シャペロンシステムのフォールディング反応制御機構
○元島 史尋[1,2]、元島一宮崎 優子[2]、吉田 賢右[2]（1.富県大・工、2.京産大・総合生命）
11:20 ～ 11:30

一般口頭発表 | 2. タンパク質 | タンパク質（一般口頭発表）

[4LT25] タンパク質 IV

座長:南後 恵理子(理化学研究所)、座長:松本 篤幸(神戸大学)
11:45 ～ 13:05 第25会場 (神戸商工会議所 3階 神商ホールB)

[4LT25-01（3P-0091）] 選択的 mRNA核外輸送に機能する UAP56ならびに URH49の立体構造解析による遺伝子発現調節機構の解明
○入江 みどり[1]、藤田 賢一[1]、伊藤 慶紗[1]、引間 孝明[2]、小島 正樹[3]、三上 文三[4]、増田 誠司[1]（1.京大・院生命、2.理研・放射光科学総合研究センター 利用システム開発研究部門、3.東京薬科大・生命科学、4.京大・院農）
11:45 ～ 11:55

[4LT25-02（3P-0092）] リン酸化を介して DNA 結合能が制御される新奇な DNA 結合タンパク質の立体構造解析
○高尾 和也[1]、飯尾 洋太[2]、井上 真男[2,3]、藤井 裕己[4]、倉光 成紀[2]、増井 良治[1]（1.大阪市大・院理、2.大阪大・院理、3.京都大・院農、4.大阪大・院生命機能）
11:55 ～ 12:05

[4LT25-03（3P-0093）] ヒト小胞体カルシウムポンプ SERCA2aの構造機能解析
○作田 菜奈美[1]、井上 道雄[1]、渡部 聡[1]、潮田 亮[2]、永田 和宏[2]、稲葉 謙次[1]（1.東北大・多元研、2.京産大・総合生命）
12:05 ～ 12:15

[4LT25-05（3P-0095）] Argonauteタンパク質構造変化の1分子解析
○坪山 幸太郎[1,2]、多田隈 尚史[3]、泊 幸秀[1,2]（1.東大・院新領域・メディカル情報、2.東大・分生研、3.阪大・蛋白研）
12:15 ～ 12:25

[4LT25-06（3P-0096）] 光活性化 cyclicAMP合成酵素PACの構造生物学
○大木 規央[1]、伊関 峰生[2]、松永 茂[3]、柴山 修哉[4]、朴 三用[1]（1.横浜市大院・生命医、2.東邦大・薬学部、3.浜ホト・中央研、4.自治医大）
12:25 ～ 12:35

[4LT25-07（3P-0097）] 基礎的な転写伸長因子が結合したRNAポリメラーゼ II転写伸長複合体の構造
○江原 晴彦[1]、横山 武司[1]、重松 秀樹[1]、横山 茂之[2]、白水 美香子[1]、関根 俊一[1]（1.理研・CLST・DSSB、2.理研・構造生物）
12:35 ～ 12:45

[4LT25-08（3P-0098）] 溶液 NMR法を用いた MAPK p38αによるストレス刺激に適合した基質選別機構の解明
○徳永 裕二[1,2]、竹内 恒[1]、高橋 栄夫[3]、嶋田 一夫[1,4]（1.産総研・創薬分子、2.バイオ産業情報化コンソ、3.横浜市大・生命医科、4.東大・院薬）
12:45 ～ 12:55

[4LT25-09（3P-0099）] 髄膜炎菌由来の翻訳因子 EF-

ConBio2017 Consortium of Biological Sciences 2017

Pのラムノース修飾による活性化の構造的基盤

○仙石 徹[1]、鈴木 健裕[2]、堂前 直[2]、渡邉 千鶴[3]、本間 光貴[3]、疋田 泰士[1]、山口 芳樹[4]、高橋 英之[5]、横山 茂之[1]、柳沢 達男[1]（1.理研・横山構造、2.理研・CSRS、3.理研・CLST、4.理研・GRC、5.感染研・細菌第一部）

12:55 ～ 13:05

一般口頭発表 | 2. タンパク質 | タンパク質（一般口頭発表）

[4P1T25] タンパク質 V

座長:養王田 正文(東京農工大学)、座長:白壁 恭子(東京医科歯科大学)

13:30 ～ 16:00 第25会場 (神戸商工会議所 3階 神商ホールB)

[4P1T25-01（3P-0150）] 新規小胞体膜タンパク質ERjd8はオートファゴソームの大きさを制御する

○葛西 綾乃[1]、山本 洋平[2]、瀧野 友愛[1]、杉原 宗親[1]、上田 洋行[3]、梅本 哲雄[3]、濱崎 万穂[3]、佐藤 美由紀[4]、佐藤 健[4]、Richard Morimoto[5]、八田 知久[6]、夏目 徹[6]、荒井 律子[7]、和栗 聡[7]、Shoshana Bar-Nun[8]、吉森 保[3]、永田 和宏[2]（1.京産大・総合生命、2.京産大・タンパク動態研、3.阪大・医、4.群大・生体研、5.ノースウエスタン大、6.産総研、7.福島医大・医、8.テルアビブ大）

13:30 ～ 13:40

[4P1T25-02（3P-0151）] 新規小胞体膜タンパク質ERdj8の生理機能の解析

○瀧野 友愛[1]、山本 洋平[2]、Richard Morimoto[4]、佐藤 美由紀[3]、佐藤 健[3]、永田 和宏[1,2]（1.京産大総合生命、2.京産大タンパク動態研、3.群大生体機能研、4.ノースウエスタン大）

13:40 ～ 13:50

[4P1T25-03（3P-0152）] 皮膚特異的カルパイン12の活性異常は乾癬の発症に関与する

○秦 勝志[1]、山本 圭[2]、西藤 泰昌[3]、北村 ふじ子[1]、村上 誠[4]、反町 洋之[1]（1.都医学研・カルパインPJ、2.徳島大・生物資源産業、3.都医学研・基盤技術研究セ、4.東大・医・疾患生命工学セ・健康環境医工学）

13:50 ～ 14:00

[4P1T25-04（3P-0153）] 細菌 Rhomboidファミリープロテアーゼ GlpGはべん毛 III型分泌装置の構成因子の分解に関与する

○檜作 洋平[1]、照島 功祐[1]、秋山 芳展[1]（1.京大 ウイルス・再生研）

14:00 ～ 14:10

[4P1T25-05（3P-0154）] II型膜貫通セリンプロテアーゼの新規基質としての受容体型チロシンキナーゼの同定

○岡島 梓[1]、藤元 次郎[1,2]、渡辺 慎哉[3]、仙波 憲太郎[1,3]（1.早大・先進理工、2.一般社団法人バイオ産業情報化コンソーシアム、3.福島医大・医産TRセンター）

14:10 ～ 14:20

[4P1T25-06（3P-0162）] The mechanism of Sentrin-specific protease 2 in substrate recognition and its role in TGF-beta induced tumorigenesis

Chia-Ju Lin[1]、Tsai-Ling Ho[1]、Hsin-Mei Liu[1]、Ruei-Ting Chang[1]、○CHE-CHANG CHANG[1]（1.Graduate Institute of Translational Medicine, College of Medical Science and Technology, Taipei Medical University）

14:20 ～ 14:30

[4P1T25-07（3P-0175）] マウス心臓におけるβ1-アドレナリン受容体のリン酸化解析

○林 浩三[1]、後藤 正光[1]、松井 俊勝[2]、今橋 憲一[2]、山下 良[1]、高見 律子[1]、西本 誠之[2]、小林 博幸[1]（1.武田薬品・医薬研究本部・基盤技術研究所、2.武田薬品・医薬研究本部・循環代謝創薬ユニット）

14:30 ～ 14:40

[4P1T25-08（3P-0163）] 接着分子 CADM1のシェディン

©日本分子生物学会/日本生化学会

グ感受性は選択的スプライシングと糖鎖修飾により規定される
○白壁 恭子[1]、大村 卓也[1]、柴垣 芳夫[2]、三原 恵美子[3]、本間 桂一[4]、加藤 幸成[5]、吉村 昭彦[6]、村上 善則[7]、高木 淳一[3]、服部 成介[2]、小川 佳宏[1,8,9]（1.東医歯大・院医歯・分子内分泌代謝、2.北里大・薬・生化、3.阪大・蛋白研・分子創製、4.前橋工大・生命情報、5.東北大・院医・抗体創薬、6.慶應大・医・免疫制御、7.東大・医科研・人癌病因、8.九大・医・病態制御、9.AMED・CREST）
14:40 ～ 14:50

[4P1T25-09（3P-0164）] CKAP4の脂質修飾を介する機能制御
○佐田 遼太[1]、木村 公一[1]、麓 勝己[1]、山本 英樹[1]、菊池 章[1]（1.阪大・院医・分生化）
14:50 ～ 15:00

[4P1T25-10（3P-0183）] トランスグルタミナーゼとポリアミンを介した NF-κB転写因子の調節機構
○槇 光輝[1]、柴田 俊生[2,3]、川畑 俊一郎[1,2]（1.九大院・システム生命科学、2.九大院・理・生物、3.九大院・高等研究）
15:00 ～ 15:10

[4P1T25-11（3P-0165）] PRMT1スプライスバリアント欠損が個体機能へ及ぼす影響
○水上 早瀬[1]、金 俊達[2]、石田 純治[2]、深水 昭吉[2]（1.筑波大・院・生命環境科学、2.筑波大・生命領域学際研究センター）
15:10 ～ 15:20

[4P1T25-12（3P-0166）] 加齢に応じた水晶体機能の低下に関与するアスパラギン酸の異性化修飾
○高田 匠[1]、藤井 紀子[1]（1.京大・原子炉・基礎老化）
15:20 ～ 15:30

[4P1T25-13（3P-0176）] 細胞質から核への蛋白質輸送を担う12種類の importin-βファミリー輸送因子の基質の同定
○木村 誠[1]、森中 祐理子[1]、今井 賢一郎[2]、小瀬 真吾[1]、Paul Horton[2]、今本 尚子[1]（1.理研・細胞核機能、2.産総研・人工知能/創薬基盤）
15:30 ～ 15:40

[4P1T25-14（3P-0177）] Dissecting multi-protein signalling complexes by Bimolecular Complementation Affinity Purification (BiCAP).
Mary Iconomou[1]、Jordan F Hastings[1]、Sean P Kennedy[1,2]、Jeremy ZR Han[1]、Robert F Shearer[1]、Jessie McKenna[1]、Darren N Saunders[1,3]、○David Croucher[1,4,5]（1.The Kinghorn Cancer Centre, Garvan Institute of Medical Research, Australia、2.Systems Biology Ireland, Univ. College Dublin, Ireland、3.Sch. of Med. Sci., Univ. of New South Wales, Australia、4.St Vincent's Hosp. Clin. Sch., Univ. of New South Wales, Australia、5.Sch. of Med., Univ. College Dublin, Ireland）
15:40 ～ 15:50

[4P1T25-15（3P-0178）] タンパク質末端大規模解析に向けた新規タンパク質末端ペプチド濃縮法の開発
○山本 英人[1]、張 智翔[1]、木村 迪子[1]、杉山 直幸[1]、石濱 泰[1]（1.京大・院薬・薬科学）
15:50 ～ 16:00

一般口頭発表 | 1. 糖質生物学・脂質生物学 | 糖質生物学・脂質生物学（一般口頭発表）

[4P2T25] 糖質生物学・脂質生物学 IV

座長:平林 義雄(理化学研究所)、座長:井ノ口 仁一(東北医科薬科大学)
16:15 ～ 17:45　第25会場 (神戸商工会議所 3階 神商ホールB)

[4P2T25-01（2P-0001）] 古細菌の N型糖鎖供与体（脂質結合型糖鎖）の比較分析
○田口 裕也[1]、藤浪 大輔[1]、神田 大輔[1]（1.九大・生医研・構造生物）

©日本分子生物学会/日本生化学会

16:15 ～　16:25

[4P2T25-02（3P-0003）] B3GALT4はグリコシルホスファチジルイノシトールの側鎖にガラクトースを転移する

○王 宜成[1]、平田 哲也[1]、村上 良子[1]、前田 裕輔[1]、木下 タロウ[1]
（1.阪大・微研）

16:25 ～　16:35

[4P2T25-03（3P-0004）] 脂質フリッパーゼの新奇基質としてグルコシルセラミドの発見とその輸送メカニズム

○内藤 朋樹[1]、Bartholomew Roland[2]、高津 宏之[1]、中山 和久[1]、Todd Graham[2]、申 惠媛[1]
（1.京大・院薬・生体情報、2.Dept. of Biol. Chem., Vanderbilt Univ.）

16:35 ～　16:45

[4P2T25-04（3P-0005）] Zymomonas mobilisのセラミドUDP-グルクロン酸転移酵素の同定

○李 夢白[1]、沖野 望[2]、石橋 洋平[2]、伊東 信[2,3]（1.九大・院生資環・生命機能、2.九大・院農・生命機能、3.九大・院農・i-BAC）

16:45 ～　16:55

[4P2T25-05（3P-0006）] O-GlcNAc化を介したスフィンゴ糖脂質代謝制御機構

○郷 慎司[1,2]、松田 純子[1]、井ノ口 仁一[2]（1.川崎医科大学、2.東北医科薬科大学・分子生体膜研究所）

16:55 ～　17:05

[4P2T25-06（3P-0007）] 極長鎖脂肪酸（ C24）を含むラクトシルセラミドはヒト好中球による CD14を介した貪食に必要である

○中山 仁志[1,2]、栗原 秀剛[3]、堀田 知美[2]、岩渕 和久[1,2]（1.順天堂大・医看・生化、2.順天堂大・院医・環境研、3.順天堂大・医・解剖）

17:05 ～　17:15

[4P2T25-07（3P-0008）] スフィンゴリピドーシスにおける神経細胞死に及ぼすlysoスフィンゴ糖脂質の役割

○渡邊 綾佑[1]、辻 大輔[1,2,3]、田中 裕大[2]、宇野 マイケル新太郎[2]、沖野 望[4]、伊東 信[4]、伊藤 孝司[1,2,3]
（1.徳島大・薬・創薬生命工学、2.徳島大院・薬・創薬生命工学、3.AMED・ACT-MS、4.九大院・生資環・生命機能）

17:15 ～　17:25

[4P2T25-08（3P-0009）] グリオシド GD3によるグリオーマの腫瘍微小環境の制御機構

○張 璞[1,2]、大川 裕樹[2]、加藤 彰[3]、小峯 起[4]、百田 洋之[3]、Robiul Bhuiyan[2]、大海 雄介[2]、古川 圭子[2]、若林 俊彦[3]、岡島 徹也[1]、山中 宏二[4]、古川 鋼一[1,2]（1.名大・医学系研究科・生化学第二講座、2.中部大・生命健康科学研究所、3.名大・医学系研究科・脳外科、4.名大・環境医学研究所・病態神経科学）

17:25 ～　17:35

[4P2T25-09（3P-0010）] 筋分化過程における GM3上のシアル酸とセラミド構造の変化の分子機構の解明

○郷 詩織[1,2]、郷 慎司[3]、井ノ口 仁一[4]、佐藤 ちひろ[1,2]、北島 健[1,2]
（1.名大院・生命農学、2.名大・生物機能セ、3.川崎医大、4.東北医科薬科大・分子生体膜研）

17:35 ～　17:45

第26会場

一般口頭発表 | 11. バイオテクノロジー、新領域、進化 | バイオテクノロジー、新領域、進化（一般口頭発表）

[4AT26] バイオテクノロジー、新領域、進化 II

座長:杉山 弘(京都大学)、座長:永瀬 浩喜(千葉県がんセンター研究所)

09:00 ～ 11:30　第26会場 (神戸商工会議所 3階 第1+2会議室)

[4AT26-01（3P-1372）] 無増幅・非酵素系での目的miRNAの超高感度検出システム（ SSMC/Eprobe）の開発

○花見 健志[1,2]、田邊 哲也[1,2,3]、葉梨 拓哉[1,2,3]、山口 光城[1,2,3]、中田 秀孝[2,3]、三谷 康正[1,4]、木村 恭将[1,4]、相馬 崇裕[1]、臼井 健悟[1]、磯部 美智子[2]、小川 隆[2]、伊藤 昌可[1,2,5]、林崎

©日本分子生物学会/日本生化学会

良英[5]、近藤 聖二[1,2,3]（1.理研・DGT、2.理研・RINC、3.オリンパス株式会社、4.株式会社ダナフォーム、5.理研・PMI）

09:00 ～ 09:10

[4AT26-02（3P-1373）] RAD51遺伝子およびバルプロ酸を用いたヒト ES/iPS細胞における高効率なゲノム編集技術の開発

○高山 和雄[1,2,3]、櫻井 文教[1]、水口 裕之[1,2,4]（1.阪大院・薬学、2.医薬健栄研、3.JST・さきがけ、4.阪大・国際医工セ）

09:10 ～ 09:20

[4AT26-03（3P-1374）] ゲノム編集技術による遺伝子ノックアウトニワトリの作製と解析

○大石 勲[1]、吉井 京子[1]、田上 貴寛[2]（1.産総研・バイオメディカル、2.農研機構・畜産研究部門）

09:20 ～ 09:30

[4AT26-04（3P-1375）] 内在性タンパク質を検出し細胞を識別する人工 mRNAデバイス

○川崎 俊輔[1]、藤田 祥彦[1]、永池 崇[2]、富田 耕造[2]、齊藤 博英[1]（1.京都大学iPS細胞研究所、2.東京大学大学院新領域創成科学研究科）

09:30 ～ 09:40

[4AT26-05（3P-1376）] リボザイム閉環三量体によるナノ三角形をユニットとしたRNAナノ構造の拡張

○井川 善也[1]、大井 宏紀[1]、ユ カイ[2]、杉山 弘[3,4]、遠藤 政幸[3,4]、松村 茂祥[1]（1.富山大・院理工・化学、2.富山大・理・化学、3.京大・iCeMS、4.京大・院理・化学）

09:40 ～ 09:50

[4AT26-07（3P-1378）] ポリペプチドイオンコンプレックスをキャリアとして利用した植物への遺伝子導入法の開発

○土屋 康佑[1]、宮本 昂明[1]、高見 拓[1]、沼田 圭司[1]（1.理研・酵素）

10:00 ～ 10:10

[4AT26-08（3P-1420）] *Streptococcus*属細菌のクオラムセンシング伝達経路を阻害する低分子化合物の探索

○石井 誠志[1]、福井 健二[1]、横島 聡[2]、熊谷 和夫[3,4]、紅山 容子[2]、兒玉 哲也[2]、福山 透[2]、岡部 隆義[3]、長野 哲雄[3]、小島 宏建[3]、矢野 貴人[1]（1.大阪医大・医・生化、2.名大院創薬、3.東大・創薬機構、4.神戸大・工）

10:10 ～ 10:20

[4AT26-09（3P-1421）] タンパク質膜挿入反応に関与する糖脂質酵素 MPIaseは生育に必須である

○沢里 克宏[1]、佐藤 諒[1]、西川 華子[1]、飯村 直樹[1]、藤川 鉱樹[2]、山口 敏幸[2]、車 ゆうてつ[3]、田村 康[4]、遠藤 斗志也[5]、上田 卓也[6]、島本 啓子[2]、西山 賢一[1]（1.岩手大・寒冷バイオ、2.サントリー生有研、3.東工大・地球生命研究所、4.山形大・理、5.京産大・生命総合科学、6.東大・新領域）

10:20 ～ 10:30

[4AT26-10（3P-1422）] 異なるホスファターゼ種を識別可能な単一酵素活性検出法の開発

○坂本 眞伍[1]、小松 徹[1,5]、渡邉 力也[4,5]、張 翼[4]、野地 博行[4]、浦野 泰照[1,2,3]（1.東大院薬、2.東大院医、3.AMED CREST、4.東大院工、5.JST さきがけ）

10:30 ～ 10:40

[4AT26-11（3P-1423）] DNA配列を認識する小分子による選択的 DNAメチル化阻害

○篠原 憲一[1]、依田 夏美[1]、福世 真樹[1]、喜多 和子[1]、根本 哲宏[2]、金田 篤志[1]（1.千葉大・院医・分子腫瘍学、2.千葉大・院薬・薬化学）

10:40 ～ 10:50

[4AT26-12（3P-1424）] ペプチドライブラリーを用いた酵素活性の網羅的解析法の確立と発展

○市橋 裕樹[1]、小名木 淳[1]、小松 徹[1,4]、神谷 真子[2,4]、松崎 裕幸[3]、畑 啓介[3]、渡邉 聡明[3]、浦野 泰照[1,2,5]（1.東大・院薬、2.東大・院医、3.東大病院・腫瘍外

©日本分子生物学会/日本生化学会

科、4.JST・PRESTO、5.AMED・CREST）
10:50 ～ 11:00

[4AT26-13（3P-1379）] キイロショウジョウバエ幼若ホルモン受容体の リガンド物質を検出するレポーターアッセイ酵母の作製
○河野 太輔[1]、松浦 麻衣[1]、原島 小夜子[1]、川西 優喜[1]、八木 孝司[1]
（1.大府大・院理・生物化科学）
11:00 ～ 11:10

[4AT26-14（3P-1380）] Heterologous expression of synthetic spider dragline silk protein in a marine photosynthetic bacterium
○Choon Pin Foong[1]、Keiji Numata[1]（1.Enzyme Research Team, Biomass Engineering Research Division, RIKEN Center for Sustainable Resource Science）
11:10 ～ 11:20

[4AT26-15（3P-1425）] ホモ2量体形成蛋白質 P-cadherinを標的とした蛋白質間相互作用阻害剤の探索
○妹尾 暁暢[1]、田島 卓実[1]、工藤 翔太[1]、長門石 曉[3]、津本 浩平[2,3]（1.東大院・工 ・化生 、2.東大院・工・バイオエンジ、3.東大・医科研）
11:20 ～ 11:30

一般口頭発表 | 8. 疾患生物学 | 疾患生物学（一般口頭発表）

[4LT26] 疾患生物学 VIII

座長:越川 直彦(神奈川県立がんセンター臨床研究所)、座長:坂本 毅治(東京大学)
11:45 ～ 13:15 第26会場 (神戸商工会議所 3階 第1+2会議室)

[4LT26-01（3P-0915）] 炎症性モノサイトにおけるAPBA3/Mint3はがん転移性ニッチ形成を制御する
○坂本 毅治[1,2]、原 敏朗[2]、中岡 寛樹[1]、林 哲郎[1]、村上 善則[1]、清木 元治[2,3]（1.東大・医科研・人癌病因遺伝子、2.東大・医科研・腫瘍細胞社会学、3.金沢大・医学系）
11:45 ～ 11:55

[4LT26-02（3P-0916）] 神経膠芽腫における EphA3受容体の機能解析
○遠山 萌[1]、濱岡 裕穂[1]、加藤 裕教[1,2]、根岸 学[1,2]（1.京大・院薬、2.京大・院生命科学）
11:55 ～ 12:05

[4LT26-03（3P-0917）] 細胞間接着因子としての可溶性HAI-1 の機能解析
○石川 智弘[1]、木村 弥生[2]、平野 久[2]、東 昌市[1]（1.横浜市大・院・生命ナノシステム科学、2.横浜市大・先端医科学研究セ）
12:05 ～ 12:15

[4LT26-04（3P-0918）] SialyI-Tn糖鎖抗原による多彩ながん転移シグナルの制御機構
○大坪 和明[1,2]、前田 賢人[2]、田嶋 彩香[2]、高宮 里奈[3]（1.熊本大学大学院生命科学研究部先端生命医療科学部門医療技術科学講座研究部、2.熊本大学大学院保健学教育部生体情報解析学分野、3.札幌医科大学医化学講座）
12:15 ～ 12:25

[4LT26-05（3P-0919）] 細胞表現型プロファイリングによる薬物作用機序と新規制御機構の解明
○田邊 賢司[1]（1.女子医大・総研）
12:25 ～ 12:35

[4LT26-06（3P-0920）] Notchシグナルによる肝癌進展の制御機構
○中野 泰博[1,2]、中尾 祥絵[1,2]、丹野 友里[2]、末岡 美那子[2]、笠原 大瑚[1,2,4]、住吉 秀明[1,2]、穂積 勝人[1,3]、稲垣 豊[1,2]（1.東海大・院医・マトリックス医学生物学センター、2.東海大・医・再生医療科学、3.東海大・医・生体防御学、4.サンケイエンジニアリング）
12:35 ～ 12:45

[4LT26-07（3P-0921）] 固形がんにおける Fbxw7を標的とした静止期追い出し療法
○清水 秀幸[1]、中津海 洋一[1]、中山 敬一[1]（1.九大・生医研・分子医科学）
12:45 ～ 12:55

[4LT26-08（3P-0922）] がん遺伝子を導入したマウス膵臓組織幹細胞はがん幹細胞様の表現

型を示す
○竹垣 普恵[1]、清水 一也[1,2]、角井 祐介[1]、西村 綾乃[1]、三好 真琴[1]、赤城 剛[3]、笹井 研[3]、堀 裕一[1]
（1.神大・院保・保健学、2.国立病院機構神戸医療センター・内科、3.株式会社カン研究所）
12:55 ～ 13:05

[4LT26-09（3P-0923）] 疾患特異的 iPS細胞による慢性骨髄単球性白血病の原因遺伝子 SLITRK4の同定
○山崎 翔[1]、田岡 和城[1]、荒井 俊也[1]、宮内 将[1]、片岡 圭亮[1]、吉見 昭秀[1]、黒川 峰夫[1,2]（1.東大・病院・血液・腫瘍内科、2.東大・病院・無菌治療部）
13:05 ～ 13:15

一般口頭発表 | 8. 疾患生物学 | 疾患生物学（一般口頭発表）

[4P1T26] 疾患生物学 X

座長:大木 理恵子(国立がん研究センター研究所)、座長:山口 英樹(佐々木研究所)
13:30 ～ 16:00 第26会場 (神戸商工会議所 3階 第1+2会議室)

[4P1T26-01（3P-0924）] 炎症の悪い組み合わせは、DNAメチル化関連因子の制御異常を引き起こす
○竹島 秀幸[1]、丹羽 透[1]、山下 聡[1]、牛島 俊和[1]（1.国立がん研セ・研・エピゲノム）
13:30 ～ 13:40

[4P1T26-02（3P-0925）] 網羅的 shRNAライブラリを用いた機能ゲノミクススクリーニングによる胃がん治療標的分子の探索
○加藤 洋人[1]、山本 麻未[1]、鈴木 良平[1]、石川 俊平[1]（1.東京医歯大・難研・ゲノム病理）
13:40 ～ 13:50

[4P1T26-03（3P-0926）] *Apc*変異マウスの腫瘍形成における腸管上皮細胞 MyD88の役割の解析
梶野 リエ[1]、藤下 晃章[1]、武藤 誠[2]、○青木 正博[1]（1.愛知がんセ・研・分子病態、2.京大・医・遺伝薬理学ユニット）
13:50 ～ 14:00

[4P1T26-04（3P-0927）] ゼブラフィッシュ in vivoイメージングを用いた、がんの初期発生過程の解析
○原岡 由喜也[1,2]、穐枝 佑紀[1]、石谷 太[1,2]（1.群大・生調研・個体統御、2.九大・院医）
14:00 ～ 14:10

[4P1T26-05（3P-0928）] 非古典的 NOTCHシグナルは扁平上皮がんの進展を引き起こす
○温川 恭至[1]、中原 知美[1]、藤田 雅俊[2]、清野 透[1]（1.国立がん研究センター・研究所・発がん予防、2.九大・院薬・医薬細胞生化）
14:10 ～ 14:20

[4P1T26-06（2P-0865）] がん微小環境との相互作用により悪性化した腎細胞がん細胞は好中球の動態変化を誘発して肺転移を促進する
○西田 純[1]、高橋 恵生[1]、江幡 正悟[1]、宮園 浩平[1]（1.東大・院医・分子病理）
14:20 ～ 14:30

[4P1T26-07（3P-0929）] 細胞間の競合と協調によるがん制御を駆動する因子の遺伝学的スクリーニング
○新井 聡太[1]、Seulki Kim[1]、榎本 将人[1]、井垣 達吏[1]（1.京大院・生命・システム機能学）
14:30 ～ 14:40

[4P1T26-08（3P-0930）] Yip1Aは小胞体ストレス応答の IRE１および PERKシグナル伝達経路を調節することにより子宮頸癌細胞の生存に寄与する
○田口 由起[1]、堀内 雄太[2]、加納 ふみ[3]、村田 昌之[1,2,3]（1.東大・院総合文化・次世代イメージング画像解析学講座、2.東大・院総合文化・生命環境、3.東工大・科技創成院・細胞制御セ）
14:40 ～ 14:50

[4P1T26-09（3P-0931）] FBW7の欠損は CENP-Aのリン酸化をもたらし、 CENP-Aの結合タンパクの異常により染色体不安定性をきたす
○髙田 護[1,2]、鈴木 應志[1]、Qing Zhang[1]（1.ノースカロライナ大学

©日本分子生物学会/日本生化学会

チャペルヒル校、2.埼玉医科大学総合医療センター 乳腺外科）
14:50 ～ 15:00

[4P1T26-10（3P-0932）] SGEFによる細胞運動の制御とScribbleの抑制作用
○山本 佳央理[1]、根岸 学[1,2]、加藤 裕教[1,2]（1.京大・院・薬学、2.京大・院・生命科学）
15:00 ～ 15:10

[4P1T26-11（3P-0933）] ECM制御因子 RECKによるがん抑制のメカニズム
○松崎 朋子[1]、野田 亮[1]（1.京大・医・分子腫瘍学）
15:10 ～ 15:20

[4P1T26-12（3P-0934）] Investigation of the *RECK* tumor suppressor gene splice variants' role in Glioblastoma aggressiveness
○Marina Trombetta-Lima[1]、Antonio Lerario[2]、Flavio Miura[3]、Sueli M. Oba-Shinjo[3]、Sheila M. B. Winnischofer[4]、Suely K.N. Marie[3]、Mari C. Sogayar[1]（1.NUCEL-NETCEM-Medical School, Sao Paulo University, Brazil、2.Department of Internal Medicine, Division of Metabolism, Endocrinology and Diabetes, University of Michigan, USA、3.Neurology Department, Medical School, Sao Paulo University, Brazil、4.Biochemistry and Molecular Biology Department, Federal University of Parana, Brazil）
15:20 ～ 15:30

[4P1T26-13（3P-0935）] Phenotypic Characterization of the Rare PIK3CA Mutations, Q661K and C901R, in Mouse Fibroblast and Human Colorectal Cancer Cells
○Arman Ghodsinia[1]、Reynaldo L. Garcia[1]（1.Disease Molecular Biology and Epigenetics Laboratory, National Institute of Molecular Biology and Biotechnology, University of the Philippines, Diliman）
15:30 ～ 15:40

[4P1T26-14（3P-0936）] Down-regulation of HB-EGF by microRNA-96 leads to cell cycle arrest and reduces cancer stem cell population in breast cancer
○Hong Huat Hoh[1]、Taku Kureha[1]、Tadashi Yamamoto[1]（1.Cell Signal Unit, Okinawa Inst. of Sci. &Tech. Grad. Univ.）
15:40 ～ 15:50

[4P1T26-15（3P-0937）] 膀胱癌で高発現する miR-130 familyの機能解析
○中辻 由乃[1]、江川 博[1]、廣野 貴之[1]、廣瀬 遼[1]、川瀬 瑛崇[1]、北惠 郁緒里[1]、神宮司 健太郎[2]、上田 裕子[1]、長谷 拓明[1]、藤田 和利[2]、植村 元秀[2]、野々村 祝夫[2]、辻川 和丈[1]（1.阪大・院薬・細胞生理、2.阪大・院医・泌尿器科）
15:50 ～ 16:00

一般口頭発表 | 8. 疾患生物学 | 疾患生物学（一般口頭発表）

[4P2T26] 疾患生物学 XII

座長:三村 達哉(帝京大学)、座長:吉田 安宏(産業医科大学)
16:15 ～ 17:45 第26会場 (神戸商工会議所 3階 第1+2会議室)

[4P2T26-01（3P-0938）] 三次元基底膜培養の MCF-10A乳腺上皮腺房に対するエストロゲンの作用効果
○Yu Deng[1]、高岡 美帆[1]、中西 啓[1]、三木 義男[1,2]（1.東医歯・難研・分子遺伝、2.癌研・研・遺伝子診断）
16:15 ～ 16:25

[4P2T26-02（3P-0939）] 乳腺腫瘍の自然発症新規動物モデル・ツパイでの病理学的解析
○池 海英[1]、一二三 達郎[1]、畑井 仁[1]、三好 宣彰[1]、矢吹 映[1]、木村 真輔[2]、小原 道法[3]、小原 恭子[1]（1.鹿大・共同獣医、2.(株)日立製作所、3.東京都医学研）
16:25 ～ 16:35

©日本分子生物学会/日本生化学会

[4P2T26-03（3P-0940）] Role of anterior gradient 2 (AGR2) in metastasis of cholangiocarcinoma

〇Suchada Phimsen[1]、Thirayut Sombun[1]、Kanlayanee Sawanyawisuth[2,3]、Worasak Kaewkong[1]、Sopit Wongkham[2,3]（1.Department of Biochemistry, Faculty of Medical Science, Naresuan University, Thailand、2.Department of Biochemistry, Faculty of Medicine, Khon Kaen University, Thailand、3.Liver Fluke and Cholangiocarcinoma Research Center, Faculty of Medicine, Khon Kaen University, Thailand）

16:35 ～　16:45

[4P2T26-04（3P-0941）] がん抑制因子 RBM4aはがん細胞特異的成熟 mRNA再スプライシングを抑制する: mRNA品質保証の鍵となる因子か？

〇亀山 俊樹[1]、福村 和宏[1,2]、井上 邦夫[2]、廣瀬 哲郎[3]、前田 明[1]（1.藤田保健衛生大・総医研・遺伝子発現機構、2.神大・院理・生物学、3.北大・遺制研）

16:45 ～　16:55

[4P2T26-05（3P-0942）] Rescue of the epigenetically silenced microRNA, miR-493-5p, inhibits liver cancer progression

〇LUC GAILHOUSTE[1]、Lee Chuen Liew[1]、Takahiro Ochiya[1]（1.National Cancer Center Research Institute）

16:55 ～　17:05

[4P2T26-06（3P-0943）] メトホルミンが*PIK3CA*-related overgrowth spectrum (PROS) 患者由来細胞におぼす治療効果

〇鈴木 康予[1]、榎戸　靖[2]、山田 憲一郎[1]、稲葉 美枝[3]、花田 直樹[4]、森下 剛[5]、水野 誠司[3]、若松 延昭[1,6]（1.愛知県コロニー・研究所・遺伝、2.愛知県コロニー・研究所・病理、3.愛知県コロニー・病院・小児内科、4.花田こどもクリニック、5.あいち小児医療セ・形成外科、6.高松市民病院・神経内科）

17:05 ～　17:15

[4P2T26-07（3P-0944）] がん関連繊維芽細胞由来液性因子によるがん幹細胞様細胞の維持

〇村山 貴彦[1]、西村 建徳[2]、富永 香菜[1]、中田 飛鳥[2]、矢野 正雄[3]、多田 敬一郎[4]、池田 和博[5]、岡本 康司[6]、堀江 公仁子[5]、井上 聡[5]、東條 有伸[1]、後藤 典子[1,2]（1.東大・医科研・分子療法、2.金沢大・がん進展制御研・がん生物、3.南町田病院・外科、4.東大・乳腺内分泌外科、5.埼玉医科大・遺伝子情報制御、6.国立がんセ研・がん分化制御）

17:15 ～　17:25

[4P2T26-08（3P-0945）] 悪性進展課程における RBの代謝調節機能

〇河野 晋[1]、岡橋 伸幸[2]、松田 史生[2]、清水 浩[2]、高橋 智聡[1]（1.金沢大・がん研・腫瘍分子、2.阪大院・情報・代謝情報）

17:25 ～　17:35

[4P2T26-09（3P-0946）] *APOBEC3G*の発現抑制による放射線増感検証と作用機序の解析

〇小野寺 貴恵[1,2,3]、菊原 颯太[3,4]、藤森 浩彰[1,3]、佐々木 由香[1,2,3]、今道 祥二[2,3]、村上 康文[4]、益谷 美都子[1,2,3]（1.長崎大院・医歯薬・フロンティア生命科学、2.国がん研究セ・研・遺伝医学、3.国がん研究セ・研・創薬臨床、4.東京理科大・院・基礎工）

17:35 ～　17:45

第27会場

一般口頭発表 | 11. バイオテクノロジー、新領域、進化 | バイオテクノロジー、新領域、進化（一般口頭発表）

[4AT27] バイオテクノロジー、新領域、進化 III

座長:粕川 雄也(理化学研究所)、座長:川路 英哉(理化学研究所)
09:00 ～ 11:30　第27会場 (神戸商工会議所 3階 第3会議室)

[4AT27-02（3P-1460）] 一括学習型自己組織化マップに

©日本分子生物学会/日本生化学会

基づく水平伝播候補遺伝子の探索法の開発
○阿部 貴志[1]、中尾 亮[2]、杉本 千尋[3]
（1.新潟大・工・情報工、2.北大・獣医、3.北大・人獣）
09:10 ～ 09:20

[4AT27-03（3P-1311）] タンパク質モチーフの情報に基づくメタゲノム解析
○森 大輔[1]、満山 進[1,2]、吉武 和敏[1]、五十嵐 洋治[1]、浅川 修一[1]
（1.東大・院農・水圏生物工学、2.慶應大・医・遺伝子学）
09:20 ～ 09:30

[4AT27-04（3P-1312）] ヒト転写標的遺伝子の機能エンリッチメントの特徴とクロマチン相互作用に関わるタンパク質の DNA結合配列解析への応用
○大里 直樹[1]（1.阪大・院・情報科学）
09:30 ～ 09:40

[4AT27-05（3P-1313）] A bioinformatics approach to synthetic lethality in cancer
○S. Kelly[1]、Parry J. Guilford[1]、Michael A Black[1]（1.Dept. of Biochem., Div. of Health Sci., Univ. of Otago, New Zealand）
09:40 ～ 09:50

[4AT27-06（3P-1314）] Handling uncertainties and biases inherent in the reference genome with EAGLE: Explicit Alternative Genome Likelihood Evaluator
○Tony Kuo[1,4]、Martin C Frith[1,2,3]、Jun Sese[1]、Paul Horton[1,2]（1.Artificial Intelligence Research Center, AIST、2.Department of Computational Biology and Medical Sciences, Graduate School of Frontier Sciences, The Univ. of Tokyo、3.AIST-Waseda CBBD-OIL、4.AIST-Tokyo Tech RWBC-OIL）
09:50 ～ 10:00

[4AT27-07（3P-1315）] グラフゲノムブラウザ
○横山 稔之[1]、坂本 祥駿[1]、関 真秀[1]、鈴木 穣[1]、笠原 雅弘[1]
（1.東大・新領域・メディカル情報生命）
10:00 ～ 10:10

[4AT27-08（3P-1316）] 国際的ゲノミクスデータ統合のアジア拠点: The Asian Mirror of the UCSC Genome Browser Database
○川路 英哉[1]（1.理研・情報基盤・予防医療U）
10:10 ～ 10:20

[4AT27-09（3P-1359）] マイクロ流路を用いた細胞の分化度と染色体構造安定性との相関のリアルタイム解析技術開発
○小穴 英廣[1]、高橋 智博[1]、Kennedy Okeyo[2]、上田 潤[3]、山縣 一夫[4]、鷲津 正夫[1]（1.東大・院工・機械、2.京大・ウイルス再生研、3.旭川医大・教育研究推進センター、4.近畿大・生物理工）
10:20 ～ 10:30

[4AT27-10（3P-1360）] ドロップレット・マイクロフルイディクスを用いた未培養微生物の1細胞ゲノム解析
○細川 正人[1,2]、西川 洋平[3]、小川 雅人[3,4]、竹山 春子[1,3,4]（1.早大・ナノライフ創新研、2.JST さきがけ、3.早大院・先進理工・生医、4.CBBD-OIL）
10:30 ～ 10:40

[4AT27-11（3P-1361）] ランダム配列分子バーコードによる核酸分子のデジタル定量解析法とその有用性
○小川 泰策[1]、Kirill Kryukov[2]、伊川 友活[3]、今西 規[2]、城口 克之[1,3,4]（1.理研・QBiC、2.東海大・医、3.理研・IMS、4.JST・さきがけ）
10:40 ～ 10:50

[4AT27-12（3P-1362）] 腫瘍内微小不均一性解明のための空間トランスクリプトミクス解析技術の確立
○中山 淳[1,2]、有川 浩司[1,2]、丸山 徹[1,2]、松永 浩子[3]、依田 卓也[1]、細川 正人[1,4]、神原 秀記[5]、竹山 春子[1,2]、仙波 憲太郎[1,6]（1.早大院・先進

©日本分子生物学会/日本生化学会

研・生医、2.産総研・CBBD-OIL、3.日立製作所、4.JSTさきがけ、5.早大・ナノライフ創新、6.福島医大・TRセンター）

10:50 ～ 11:00

[4AT27-13（3P-1363）] 分子間相互作用解析-質量分析法（ MIK-MS）による創薬ターゲット化合物スクリーニングシステムの開発と諸課題

福田 哲也[1]、小尾 奈緒子[2]、中山 登[1,3]、John Ervin[4]、板東 泰彦[1]、長門石 曉[5,6]、西村 俊秀[1,3]、津本 浩平[5,6]、○川村 猛[6,7]（1.バイオシス・テクノロジーズ、2.日本写真印刷、3.聖マリ・分子病態情報、4.Silicon Kinetics Inc.、5.東大・医科研、6.東大・院・工、7.東大・アイソトープ）

11:00 ～ 11:10

[4AT27-14（3P-1364）] 細胞内光クロスリンク法によるがん変異特異的タンパク質間相互作用解析

○廣田 康二[1]、樋野 展正[1]、鳴海 良平[2]、堀越 亮太[1]、向山 樹[1]、足立 淳[2]、朝永 毅[2]、土井 健史[1]（1.阪大院薬、2.医薬基盤健栄研）

11:10 ～ 11:20

[4AT27-15（3P-1317）] 公共遺伝子発現データを活用するためのツール: RefExと AOE

○小野 浩雅[1]、大石 直哉[2]、坊農 秀雅[1]（1.情シ機構・ライフサイエンス統合DBセ、2.ドッグラン）

11:20 ～ 11:30

一般口頭発表 | 11. バイオテクノロジー、新領域、進化 | バイオテクノロジー、新領域、進化（一般口頭発表）

[4LT27] バイオテクノロジー、新領域、進化 IV

座長:野澤 昌文(首都大学東京)、座長:伊藤 道彦(北里大学)
11:45 ～ 13:15 第27会場 (神戸商工会議所 3階 第3会議室)

[4LT27-01（3P-1328）] 翻訳の起源について：シンプルなペプチドによる RNAポリメラーゼリボザイムの機能の促進

○田上 俊輔[1,2]、Attwater James[2]、Holliger Philipp[2]（1.理化学研究所CLST、2.MRC分子生物学研究所）

11:45 ～ 11:55

[4LT27-02（3P-1329）] Nodal-Leftyシグナル系を使って培養細胞にチューリングパターン形成をさせる

○関根 亮二[1]、戎家 美紀[1]（1.理化学研究所生命システム研究センター）

11:55 ～ 12:05

[4LT27-03（3P-1330）] 小グループの選抜タンパク質を精密定量し、微弱で慢性的な細胞ストレスが細胞生理に与える影響を定量評価する

○森島 信裕[1]、馬替 純二[2]、伊藤 嘉浩[1]、緒方 裕光[3,4]（1.理研・伊藤ナノ医工学研究室、2.馬替生物科学研究所、3.国立保健医療科学院、4.女子栄養大学）

12:05 ～ 12:15

[4LT27-04（3P-1327）] アミノ酸重合の正確性が低下した遺伝暗号による進化の加速

○榎本 利彦[1]、鮎川 翔太朗[1]、今田 貴士[2]、木賀 大介[1]（1.早稲田大学 先進 電気・情報生命工学科、2.東京工業大学 生命理工学院 生命理工学コース）

12:15 ～ 12:25

[4LT27-05（3P-1331）] ゲノムを内包し駆動する人工細胞の構築

○辻 岳志[1,2]、角南 武志[2]、市橋 伯一[1,3]（1.阪大・情報科学、2.阪大・未来戦略機構、3.阪大・生命機能）

12:25 ～ 12:35

[4LT27-06（3P-1332）] 細胞シートの折り畳みにコードされた3D形態

○松田 佳祐[1]、足立 晴彦[2]、後藤 寛貴[3]、井上 康博[4]、近藤 滋[2]（1.阪大・医、2.阪大院・生命機能、3.名大院・生命農、4.京大・再生医療科学）

12:35 ～ 12:45

[4LT27-07（3P-1341）] ハブゲノム解読により明らかになった毒関連遺伝子の進化

○小川 智久[1]、千々岩 崇仁[2]、小田-上田 直子[3]、中村 仁美[3]、服部 正策[4]、松原 和純[5]、松田 洋一[6]、森 一樹[7]、田代 康介[7]、久原 哲[7]、山崎 慎一[8]、藤江 学[8]、後藤 大輝[8]、小柳

©日本分子生物学会/日本生化学会

亮[8]、竹内 猛[9]、服巻 保幸[10]、大野 素徳[2]、将口 栄一[9]、久田 香奈子[9]、佐藤 矩行[9]、柴田 弘紀[10]（1.東北大・院生命、2.崇城大学・生物生命学部、3.崇城大学・薬学部、4.東大・医科研、5.名市大・院システム自然科学、6.名大・院生命農、7.九大・院システム生命、8.沖縄科技院大・DNAシーケンシングセクション、9.沖縄科技院大・マリンゲノムユニット、10.九大・生医研）

12:45 ～ 12:55

[4LT27-08（3P-1342）] ソメワケササクレヤモリ: 進化学に照らした動物実験と比較ゲノム解析の提案

○原 雄一郎[1]、竹内 未紀[2]、景山 優花[1,3]、辰見 香織[1]、日比 正彦[2,4]、清成 寛[1]、工樂 樹洋[1]（1.理研・CLST、2.名大・生物機能開発利用研究セ、3.関西学院大・院理工、4.名大・院理）

12:55 ～ 13:05

[4LT27-09（3P-1343）] 霊長類脳における比較トランスクリプトーム・エピゲノム解析

○郷 康広[1,2]、辰本 将司[1]、Chuan Xu[3]、Qian Li[3]、Olga Efimova[4]、Liu He[3]、大石 高生[5]、鵜殿 俊史[6]、山口 勝司[7]、重信 秀治[7]、柿田 明美[8]、那波 宏之[8]、Philipp Khaitovich[3,4]（1.自然科学研究機構 新分野創成センター、2.生理学研究所 認知行動発達機構研究部門、3.CAS-MPG Partner Institute for Computational Biology, Shanghai Institutes for Biological Sciences、4.Skolkovo Institute of Science and Technology、5.京大・霊長研、6.京大・野生動物研究センター、7.基礎生物学研究所 生物機能情報分析室、8.新潟大・脳研）

13:05 ～ 13:15

一般口頭発表 | 11. バイオテクノロジー、新領域、進化 | バイオテクノロジー、新領域、進化（一般口頭発表）

[4P1T27] バイオテクノロジー、新領域、進化 V

座長:伊藤 英晃(秋田大学)、座長:鵜殿 平一郎(岡山大学)

13:30 ～ 16:00 第27会場 (神戸商工会議所 3階 第3会議室)

[4P1T27-01（3P-1395）] Ecobody Technology: 無細胞タンパク質合成系と大腸菌発現法を用いた単一 B細胞からの新規迅速モノクローナル抗体取得法

○中野 秀雄[1]、加藤 晃代[1,2]、森下 しおみ[1]、内田 由乃[1]、Panwad Ritthisan [1]、兒島 孝明[1]（1.名大・生命農、2.名城大・農）

13:30 ～ 13:40

[4P1T27-02（3P-1396）] 低分子化抗体精製用新規アフィニティクロマト担体の応用研究

○吉田 慎一[1,2]、村田 大[1,2]、西八條 正克[1,2]、鴻池 史憲[1,2]、水口 和信[1,2]（1.株式会社カネカ、2.次世代バイオ医薬品製造技術研究組合）

13:40 ～ 13:50

[4P1T27-03（3P-1397）] 狙った結合部位上における抗体親和性成熟系の開発

○江口 晃弘[1]、長棟 輝行[1]、河原 正浩[1]（1.東大・院工・化生）

13:50 ～ 14:00

[4P1T27-04（3P-1398）] 生体内輸送蛋白質の多量体化による腫瘍特異的ドラッグデリバリーシステムの開発

○下地 真広[1]、中辻 匡俊[1,2]、秋山 佳範[1]、乾 隆[1]（1.大阪府大・院・生命環境、2.日本学術振興会特別研究員 DC）

14:00 ～ 14:10

[4P1T27-05（3P-1399）] 遺伝子導入と光発現誘導を可能にする金ナノ粒子

○村上 達也[1,2]、中辻 博貴[3]、Kelly Galbraith[4]、栗栖 純子[2]、今堀 博[3,4]、見学 美根子[2,4]（1.富山県立大学 工学部 医薬品工学科、2.京都大学物質-細胞統合システム拠点、3.京都大学大学院工学研究科分子工学専攻、4.京都大学大学院生命科学研究科）

14:10 ～ 14:20

[4P1T27-06（3P-1400）] 中性に近い pHで抗体を精製可能な新規アフィニティーカラムの開発

○岡 芳樹[1]、澤田 泰平[1]、渡辺 尚大

©日本分子生物学会/日本生化学会

[1]、工藤 恒[1]、和田 愛未[1]、河合 秀信[1]、張 マリ[2]、林 勇樹[1]、新井 宗仁[1,2]（1.東大・総合文化・生命環境、2.東大・理・物理）

14:20 ～ 14:30

[4P1T27-07（3P-1401）] リポカリン型プロスタグランジン D合成酵素を用いた難水溶性抗癌剤パクリタキセルに対するドラッグデリバリーシステム

○古田 航祐[1]、中辻 匡俊[1,2]、寺岡 佳晃[1,2]、佐野 裕也[1]、乾 隆[1]（1.大阪府大・院・生命環境、2.日本学術振興会特別研究員DC）

14:30 ～ 14:40

[4P1T27-08（3P-1402）] αヘリックス上に設計した新規タンパク質間結合面の汎用性の検証

○八木 創太[1]、赤沼 哲史[2]、山岸 明彦[1]（1.東薬大・生命、2.早大・人間）

14:40 ～ 14:50

[4P1T27-09（3P-1403）] 細胞増殖を指標とした細胞内タンパク質間相互作用検出系(KIPPIS)の構築と阻害剤探索への展開

○鹿島 大揮[1]、河出 来時[1]、長棟 輝行[1]、河原 正浩[1]（1.東大・院工・化生）

14:50 ～ 15:00

[4P1T27-10（3P-1404）] 3分子間 PCA原理に基づく非競合生物発光免疫測定系の構築

大室 有紀[1]、○上田 宏[1]（1.東工大・化生研）

15:00 ～ 15:10

[4P1T27-11（3P-1405）] 複数回膜貫通型タンパク質に対する立体構造認識モノクローナル抗体の作製

○磯崎 勇志[1]、湊元 幹太[1]、冨田 昌弘[1]（1.三重大・院工・分子生物工学）

15:10 ～ 15:20

[4P1T27-12（3P-1406）] 抗修飾 RNAモノクローナル抗体の効率的な作製法

○松澤 峻[1,2]、磯部 正治[1]、黒澤 信幸[1]（1.富山大・院生融・生体情報、2.(株) MBL）

15:20 ～ 15:30

[4P1T27-13（3P-1407）] 乾燥バイオバンクへの挑戦：乾燥に弱い酵素を長期常温乾燥保存可能なネムリユスリカの培養細胞

○黄川田 隆洋[1,2]、菊田 真吾[3]、渡辺 俊介[3]、佐藤 令一[3]、Oleg Gusev[4,5]、Alexander Nesmelov[4]、十亀 陽一郎[1]、Richard Cornette[1]（1.農研機構・生物機能・新産業開拓、2.東大院・新領域・先端生命、3.農工大・BASE、4.カザン大・基礎医生研、5.理研）

15:30 ～ 15:40

[4P1T27-14（3P-1408）] 細胞機能の自在な制御・改変を可能にするナノ熱源作成技術

○新井 敏[1]、 Ferdinandus[2]（1.早大・理工研、2.早大・シンガポール研）

15:40 ～ 15:50

[4P1T27-15（3P-1409）] カルシウムイオンとの結合能を持った自己集合型ペプチドの分子設計

○滝田 茉央[1]、田村 厚夫[1]（1.神戸大・院理・化学）

15:50 ～ 16:00

一般口頭発表 | 11. バイオテクノロジー、新領域、進化 | バイオテクノロジー、新領域、進化（一般口頭発表）

[4P2T27] バイオテクノロジー、新領域、進化 VI

座長:木下 聖子(創価大学)、座長:平林 淳(産業技術総合研究所)
16:15 ～ 17:45 第27会場 (神戸商工会議所 3階 第3会議室)

[4P2T27-01（3P-1410）] セルロース・蛋白質ハイブリッドを活用した新しいVHH抗体の利用法

○星野 英人[1]、上垣 浩一[1]（1.産総研・バイオメディカル）

16:15 ～ 16:25

[4P2T27-02（3P-1411）] 抗体 CDRペプチドの構造ゆらぎ制御による小型抗体代替分子の創製

○門之園 哲哉[1]、Wanaporn Yimchuen[1]、Kyra See[1]、太田 優美[1]、口丸 高弘[1]、近藤 科江[1]（1.東工大・生命理工）

©日本分子生物学会/日本生化学会

16:25 ～　16:35

[4P2T27-03（3P-1412）] 核内移行し RNA polymerase II阻害能を持つヒト化抗CD26抗体と triptolideを用いた抗体薬物複合体開発

〇山田 健人[1,2]、間所 裕子[2]、西田 浩子[2]、森本 幾夫[3]、坂元 亨宇[2]、林 睦[2]（1.埼玉医大・病理学、2.慶大・医・病理学、3.順天堂大・免疫病がん先端治療学）

16:35 ～　16:45

[4P2T27-04（3P-1394）] がん診断のための新規イムノセンサーを目指したグルコース脱水素酵素融合 VHH抗体の作製と機能評価

〇塚本 夏海[1]、津川 若子[1]、早出 広司[1]、浅野 竜太郎[1]（1.東京農工大・院工・生命工）

16:45 ～　16:55

[4P2T27-05（3P-1413）] 還元環境に応答して薬剤放出可能なタンパク質ナノカプセルを用いたドラッグデリバリーシステム

〇山田 美保路[1]、中辻 匡俊[1,2]、清水 翔太[1]、乾 隆[1]（1.大阪府立大・院・生命環境、2.日本学術振興協会特別研究員DC）

16:55 ～　17:05

[4P2T27-06（3P-1414）] *Eisenia fetida*由来マンナナーゼ活性に及ぼす塩橋の影響について

〇中 裕規[1]、平野 優[2]、中澤 昌美[1]、阪本 龍司[1]、玉田 太郎[2]、上田 光宏[1]（1.阪府大院・生環科、2.量研機構量子ビーム）

17:05 ～　17:15

[4P2T27-07（3P-1415）] 試験管内進化工学による神経成長・分化因子様活性を示すペプチドの創製

〇久保 泰[1]、Weiyang Cai[1]、大橋 澄子[1]（1.産業技術総合研究所）

17:15 ～　17:25

[4P2T27-08（3P-1416）] 1時間以内で巨大スフェロイドを作製する

〇坂口 欣暉[1]、犬伏 祐作[2]、宇田 朋哉[3]、伊田 寛之[4]、立花 亮[5]（1.阪市大・院工・化学生物、2.阪市大・院工・化学生物、3.阪市大・院工・化学生物、4.新田ゼラチン株式会社　総合研究所、5.阪市大・院工・化学生物）

17:25 ～　17:35

[4P2T27-09（3P-1392）] 低分子二重特異性抗体の微生物発現の最適化に向けたドメイン連結順の網羅的な改変と発現宿主の検討

〇黒木 侑莉[1]、本間 佐知子[2]、赤羽 美穂子[2]、渡辺 俊介[2]、熊谷 泉[1]、早出 広司[1]、浅野 竜太郎[1]（1.東京農工大・院工・生命工、2.(株)プロテイン・エクスプレス・研究開発部）

17:35 ～　17:45

©日本分子生物学会/日本生化学会